大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十五年七月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

（第九輯第七號）

第九輯
第七號

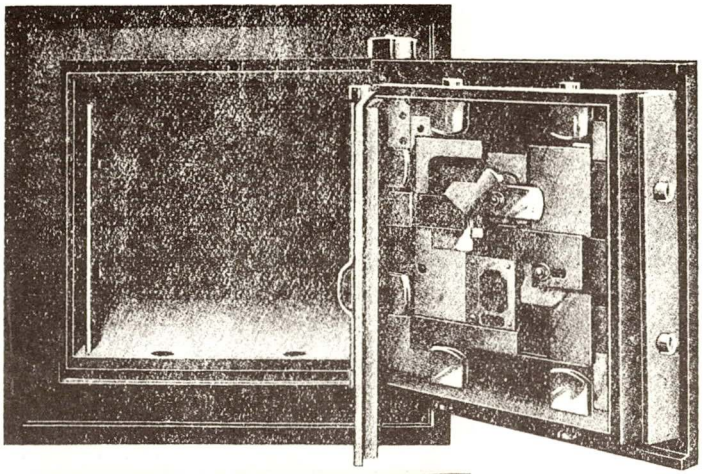
日本建築協會
大正十五年七月一日

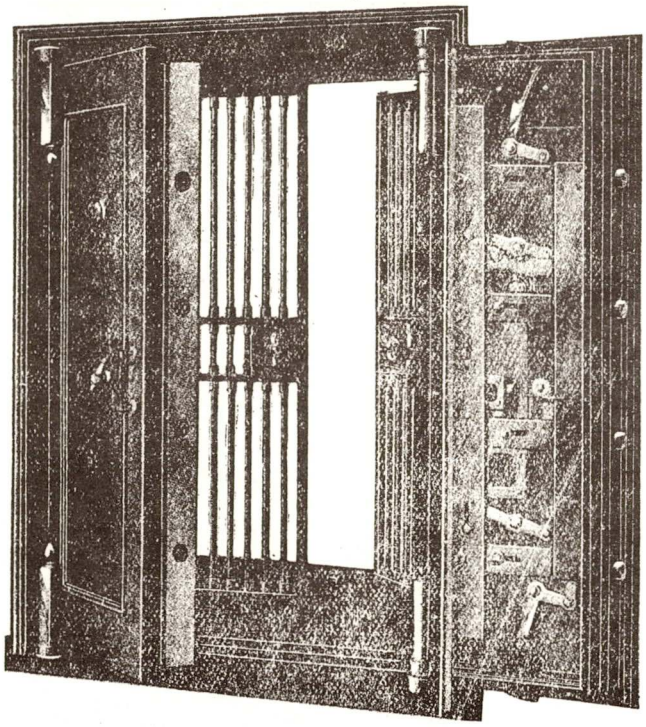
OTANI SAFE DOOR

向上へ

躍進又躍進！

卓超セル大谷金庫ノ技術





需要製産ヲ超ヘ
純質名聲ヲ超ユ

御採用アランコトヲ

東京	京都	大阪	神戸
新富町	松原通	淀屋橋	楠町六

日米板硝子株式會社

本　社　大阪市西區阿波堀通一丁目
工　場　九州若松市外二島（鐵道省指定工場）
大阪販賣店　本　社　內
東京販賣店　東京市丸ノ內ビルディング七階
九州販賣店　門司市大毎ビルディング三階

製品解說

製造方法　世界最新コールボーン式自働連續板狀伸延製造法ト稱シ幅六呎ノ板硝子ヲ長サ無限ニ連續製出ス

特　徵　精密ナル機械ノ標準ト硬化作用ニヨリ板面ハ反リ歪ミ無ク厚サ整等一シテ質强靱ナルヲ以テ破損ノ處少シ

厚　味　二十四オンス品　並板（十六オンス）ニ比シ二倍ノ破壞强度及耐久力ヲ有スルヲ以テ學校病院工場會堂ビルディング等ノ高級建築及シヨウウインドウ用トシテ最適品ナリ

三十四オンス品　汽車電車等ノ窓硝子トシテ賞用セラル

加工品　摺　結霜　奉霞

和洋建築窓、家具等ニ使用シテ頗ル優美ナリ



繪口

■有隣小學校
■九條共同宿泊所 ═══ の外觀と平面圖

◇◇◇

■建築藝術……（一）

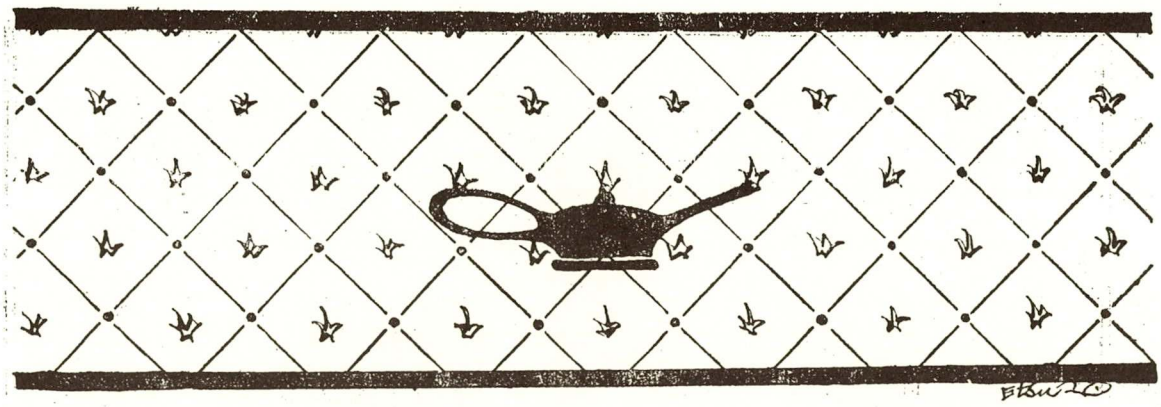
◎住宅問題と建築技術家……片岡安…（二）
◎北米に於ける建築施行法の實狀……下浦光衛…（五）
◎現代の建築家と木材の研究……江崎政忠…（一〇）

◇◇◇

◎ゴシック藝術……柳宗悅…（一六）
◎建築の本質……本野精吾…（二六）

◇◇◇

◎構造計算のシステムとチエツクの方法……池田宮彦…（三一）



九輯第七號目次

◎墓地園の管理……椎原兵市…(三五)
◎應急消火器に就いて……菅原久一…(四一)
◎ウ井ーンの市營住宅……上野伊三郎…(五五)
◇◇◇
◎人形の都市……藤田進一郎…(六二)
◎淋しい倫敦の日曜日……小川市太郎…(六七)
◎住宅の美學……小野田秀作…(七〇)
◇◇◇
■長柄共同宿泊所及有隣小學校工事概要……(七五)
■俳句と俳話……齋藤溪舟(七九)
■日本建築協會々報……

新革之料材「壁」





専賣特許

特長
- ○施工迅速　○色澤高尚
- ○安全堅固　○工費低廉
- ○耐濕耐火　○防錆防腐

アサダセメント、プラスター

乞御試用

専賣特許

特長
- ○高尚ナル純白色
- ○強力甚大、膨脹龜裂ノ虞ナシ
- ○緩結性ニシテ使用容易
- ○凡テノ性狀普通「セメント」同等以上

アサダ、白色ポートランド、セメント

兵庫縣飾磨港

飾磨化學工業株式會社

東京販賣所　東京市日本橋區本町三丁目山口ビルヂング五階　建興社

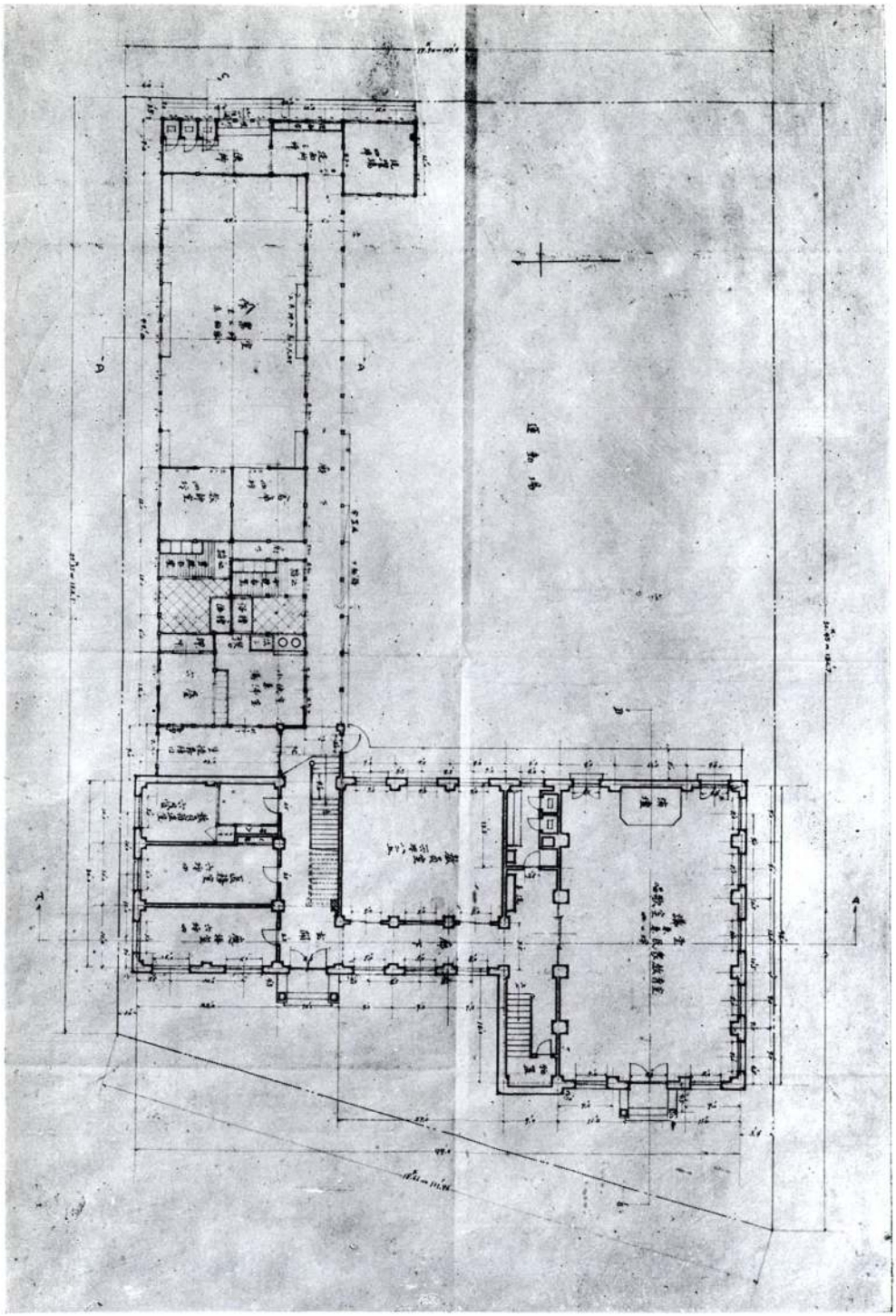
電話飾磨（六一〇六）一番

電話大手（自九七五七番 至五七九番）



大阪市立『有隣小學校』

——大阪市浪速區榮町四丁目——

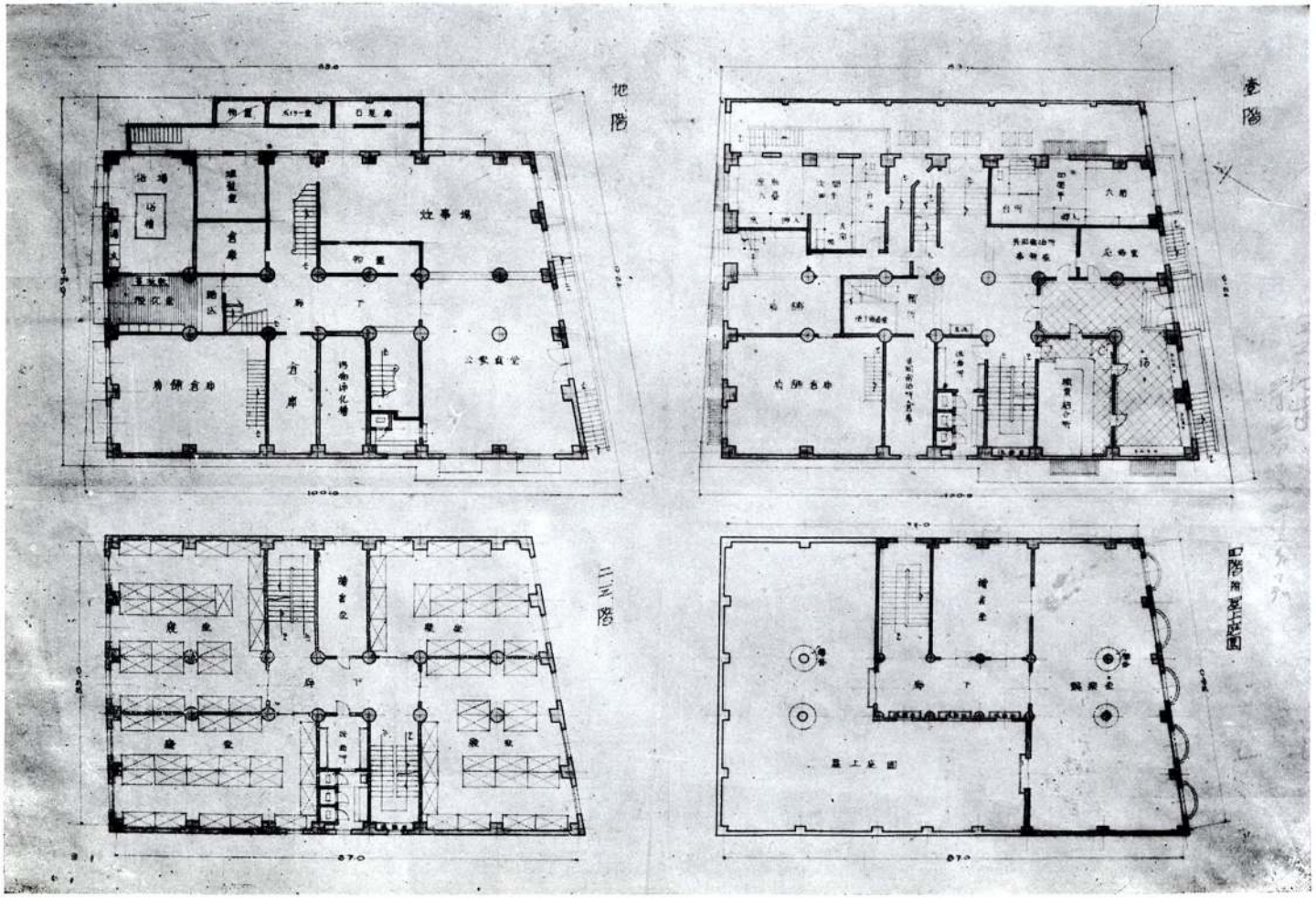


有隣小學校平面圖



大阪市經營『九條共同宿泊所』

——大阪市港區境川町——

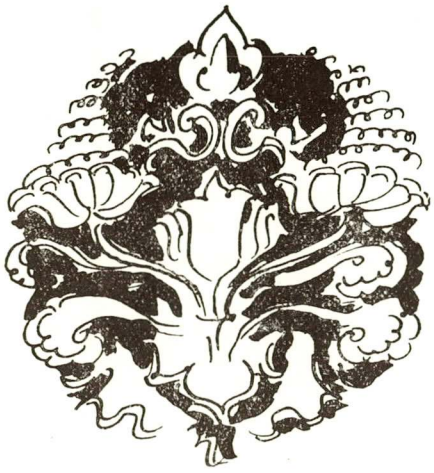


九條共同宿泊所平面圖



建築藝術

氏ウキンデルバンドは、藝術を說いて、直觀を以て與へられた表現であり、生命は眞面目なる仕事に拘束されたり、又は偶然的な個々の事情に束縛されつゝ、行爲に現はれて來るよりも、寧ろ無計畫的表現に於てこそ、より純粹に完全に現はれる、と曰つた。——果して然る乎、建築を藝術であるといふ意味は、ウキンデルバンドに據れば、純粹藝術に幾等かの距離を有つことになる。建築は、縱へばそれが純然たるゴシック建築の初期のように信仰の對象物であつても、その事に於て既に功利の一面を脫却しない。況して、その他の建築に於ては、功利的要素即ち偶然的な箇々の事情の制扼を有つ。由來建築を藝術なりと做す意味は、綜合的構成則ち Construction にあらずして、非實在性の統合則ち此ミユンスターベルヒの所謂、畫家の人物は其れ自身の足で深さのない二次元の空間内に嚴然として立ち彫塑家の人格性は、色の無い世界に生活し、悲劇の主人公は詩の韻律をもつて話し、そして始めと終り、額緣と舞臺の結構を以て、其の新形式は奈何なるものによつても侵す事の出來ない程に完全に其全體を閉鎖して居る、此の藝術の創造した非實在の特有の新形式は、——全然その統一的作業のためである Design それ自體と、その統合に在りはしないであらうか。……（郊邨）



住宅問題と建築技術家

片岡安

住宅問題はたしかに現代の大なる惱みの一である。現代の文明國民は凡て一齊にその生活狀態の向上を希待せざるはないので、其第一條件として住み心地よき住宅を得んとする欲求の期せずして一致するのはこれまた當然のことである。住宅の缺乏或は住宅の饑饉なる言葉が、洋の東西を問はず都市村落の別なく、社會改良論者はもとより一般民衆の聲として盛んに叫ばるゝようになつたことは、その反映であると見てよからふ。歐洲大戰亂後に於ける歐洲各國の政治の最大難關は、其住宅缺乏を如何にして補充するかにあつたことも事實である。英國の如きは一時に五十萬戸の住宅を供給するにあらざれば民衆の要求を充たし得ず、國費の立かへは少くとも五十億圓を要するであらふと言はれて居つた。その後の經過は審かならざるも恐らく住宅の供給は永久にその要求を十分に充たし得ざるものならんかと思はれる。

そもそも現代の住宅問題は之を民衆の覺醒運動と見ることも出來るのであつて、社會政策的施設の最大なるものと考へるのを至當とする。しかしながらその實際は全く建築技術の範圍に屬する至難の建設事業であつて、之を簡單に政策上の大局より論じ去るを容さぬ性質の問題である。之を言ひ換ふれば住宅の供給はたゞ其數を增すために資本を多く投ずれば直ちに解決するものではなく、其根本に於て住宅そのものゝ本質を改良することを考へねばならぬのである。社會政策論者は簡單に之を數量の問題と考へ、又保健向上の問題として取扱ふを常とし、一般政治家は之を民衆運動と考ふるようであるが、何れも楯の半面のみを見て他の半面に氣付かざるものと言はねばならぬ。要するに、現代の住宅は現代の文化に相應はしき本質のものであることが基礎的條件であつて、其擴大延長の部分が社會政策的施設に屬するのである。故に住宅

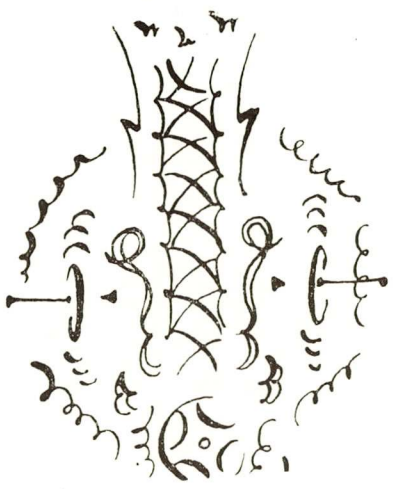
問題は先づ其基礎に於て建築界の講究を必須の條件とするのであつて、其結果宜しきを得るにあらざれば、之を社會政策的施設として延長し得ざるものと考へられる。一千八百九十年英國に於て住宅法が發布されて以來歐洲大戰亂に至るまで約二十五年間住宅政策は非常なる好成績を擧げたと言はれて居つたに拘はらず、事實に於て時代の要求を充たし得なかつた理由は、明かに其本質的講究が取殘されてあつた事を物語つて餘りあると見られる。我國の如き古代式住宅の延長に拘泥して而も現代生活を味はんとする矛盾撞着の狀況にあるものは殊更に住宅そのものゝ本質的攻究を盡すにあらざれば、到底此現代の難問題の解決に當り得ざるものと言はねばならぬ。この意味に於て住宅問題は我國にては社會政策の重大事項であるよりも、更により以上に建築界の重要なる研究事項であると斷言し得るのである。

住宅の適否は人生上に一大問題であることは言ふまでもないのであるが、百年前に適當なりと考へられた住宅の内容も今日直ちにそれを以て滿足し得ざる場合は甚だ多いのである殊に我國に於ては明治維新以來吾人の生活狀態は甚しき變遷を重ねて來たのであるから、我國古來傳說の住宅は原則として吾人の生活に不適當のものであると見て差支はないのである、況してや都市集中の一大傾向は都市住宅の實質を耐震耐火のものたらしめ又同時に保健上各種の施設を要求するに至り、住宅内外の配置及構成の方法を一變せしめねば已まぬに於てをや。住宅改造の一大革命は今や我國民の直面せる運命であつて、しかもその開發進展は主として建築界殊に建築技術家の双肩に懸つて居るのである。

住宅の本質的研究は從來數次試みられた。現に各方面に於て改良住宅の提唱され、又實物の提供さるゝものさへもあり所謂文化住宅の實現も少からぬのであるが、それ等の研究は主として孤立獨斷的であつて、民衆的背景の下に現實の地位を占めて進展しつゝあるものと斷ずる譯にゆかない。生活改善同盟會の發表せる住宅改造の要綱を見ても、甚だ抽象的のものであつて、採つて以て改造計畫の規準となし得るものではない。さればと言つて、從來數次試みられた我國住宅の改良に關する意見や、文化住宅の提供などが我國住宅改造の進展に何等貢獻するものでないとは考へられぬ、必ず何等かのあるものを寄與し得るのであらふ。けれども一步一步其本來の進路に向ひつゝあるその道程であると見る譯にゆかない。我國住宅改造の出發には先づ第一に座式の傳統を株守するか將たまた椅子式の生活に移るかに其重點を置かねばならぬ。和服、洋裝の何れに依るべきやは自然に起るべき第二の問題ではあるけれども、住宅の内容がその主體をなすべきものではないかと思はれる。座式生活を捨てずして住宅改造を企つることは恰かも木に竹を繼がんとするの類であつて、到底改造の本筋に出づることは出來ないのである。從來の改良住宅が何時までも斷片的に孤立無援の狀態にあるのは其根本に於て不徹底のものがあるからである。今や我國民の活動方面に於て座式の場所は殆んど見出し得ない程に椅子式が本體となつて來たのである。兵營に於て、學校に於て、銀行、會社はもとより、工場に於て又交通機關に於て座式は凡て撤去されたではないか、何故に家庭のみに座式を株守せねばならぬのであるか、若し家庭に於ける生活を全部睡眠に費すものとす

れば座式椅子式何れにてもよくそれを調節し得るであらふ、けれども家庭生活は左程單純のものではない。家庭生活は吾人の活動生活の基礎であつて、社會的活動の因つて生るゝところである。決して裏面的逸樂主義に限らるべきものではない。若し社會的活動に於て椅子式を必要とし、從來の座式を一變してしまつたとすれば、家庭に於ても漸次その方式に移ることを考慮せねばならぬのではないかと思はれる。住宅の改造も其出發點に於て此の轉換を考へずしては所詮民衆的の運動として進展し得ない譯である。

住宅改造に際しその民衆化を促進すべき方策としては更に其經濟化を講究するの要がある。住宅問題の難關は主としてその點にあると見ても差支はあるまい。好適なる住宅の缺乏とその賃貸料の高率なる事は現代の惱みであるが、我國に於て特に甚しき狀況にある。民衆風敎の進歩捗々しからぬことは素より、保健狀態の不良なることなどから見ても一日も早く住宅問題のこの難關を突破するの急要なるを感せざるを得ない。最近内務省に於て不良住宅地區の整理をなさんとの畫策を立案しつゝあるように傳へらるゝのも恐らく此の焦眉の急を救はんとの方針であらふと思はれる。要するに住宅の經濟化は社會の一大問題であつて、事各方面に關係あり、輕々に其解決を見出し得ないであらふが、たゞ舊式傳統の住宅の分量を增加するといふように此問題を取扱つてはならぬのである。社會政策論者或は一般行政官は我國の住宅が改造されねばならぬものである事には、十分の理解を有せざるやに見へる。從つて斯問題を單に住宅增加によりて解決するもののように考へ、低利資金の融通とか公有地を利用せしむるといふようなことによりて凡ての目的を達し得らるゝ如くに取扱つて居る。これ誤れるの甚しきものであつて、むしろ住宅問題解決の邪路に進むものと言はねばならぬ。住宅の經濟化には敷地や資金に官公共の利便を與ふることも一方策であるけれども、其内容を好良ならしめ、其構造を單純化し、標準化し、科學的に合理ならしめ、更に我國の氣候に又東洋の趣味に合致すべきものとなし、以て住宅の價値を高めることが眞實の經濟化である。唯單に一箇の住宅の絕對價格が少しく低下したとてそれを以て經濟的に成功せるものと見做す譯にゆかない。むしろ一箇の價格が少しく增したりとも其内容實質の優秀なるものを造り上げることが出來れば、それこそ眞實の經濟化であると言つてもよろしいのである。而してその講究をなすことは建築技術家の社會奉仕的の努力に俟つべきものが多いのである。從來此方面の講究は比較的等閑に附せらる。斯くして住宅の改良更に進んでその改造と民衆化經濟化の我國に於ては、世界各國中最も急切の狀況にありながらその進展に最も後れて居るのである。住宅の建設を唯物數寄者の道樂仕事と考へたり、或は低剩資金を利用して家賃の低下を計れば足れりとするような目下の風潮を見ては、吾人は何時までもそれを默過する譯にゆかない。我建築技術家は宜しく一大奮起をなして世の先覺者の注意を促がし、以て我國のこの急要なる大問題の解決に努むべきである。



北米に於ける 建築施行法の實況（二）

下浦光衛

下浦氏は竹中工務店技師として多年現場の經營に奮闘され、大同ビル竣工後昨年九月渡米、今年三月に米國視察を了して歸朝された。此の稿は本會の四月例會に於て講演されたるものを採錄したのである。（編輯者）

▼國產品使用　米國では工賃が高く、技術者に高給を支拂ひ設備を充分にして而も尙建物が割安に出來て居りますが、之は器械使用や多量製產よりか國產品を使用する事は最大原因をしてゐるものと思ひます。米國では製造業者と建築家が一諸に協力して樣々な材料を研究し、夫をドシ〳〵實際に採用しますから發達致すのであります。如何に米國でも始めから上手でない事は、十數年前に出來た昇降機や便器の粗末さを見て悟りました。殊にテラカタの如きは實に貧弱なものでした。夫等が經驗と研究を重ねて今日の精巧を致したのであります。『和製ではドーも』つてな事で、之も輸入あれも舶來品でやりましたら何時に國產品が完成しませうか。

建築の一般的技術は私一個の考では、日本は米國に決して遜色はありません。金がないのに苦心してやつて行くだけでも日本は一枚上ちやないかと思ひます。只加工品だけは迚ても追付きません。が然し米國にしても昔、若し建築家が例へばリノリユーム、昇降機、煖房衛生機械器具や陶磁器品等諸建築材料品の製作技術を信ぜず、之を奬勵せず、今の日本の樣に舶來に限る等と叫んでゐたら、決して今日の米國の進歩が來なかつた筈です。對米建築材料の輸入狀態を御參考にまで揭げますと。

第二表

對米建築材料輸入額概數表

但シ大正十三年度調査

帝國輸入總額　二、五九七、〇〇〇、〇〇〇圓

同　輸出總額　一、八七二、〇〇〇、〇〇〇圓

品種	輸入總額	內米國ヨリノ輸入額	同上ノ割合
木材	三九、〇七二、九六八 圓	一〇二、六五、三三四 圓	約八　割
鐵板	一九五、九五二、六三九	六三、八七六、一四五	約三割三分
鐵釘	七、三五二、〇三九 t	四、〇六七、一七	約五割五分

其他	一七、五一六、九五	二、九五、五七五	約六割八分

右の外昇降機、衛生昨具、諸機械等の加工品を加算する時は米國よりの輸入高二億圓以上に達し、建築諸材料の輸入總額は實に三億五千萬圓を超ゆ

右の表に依りますと日本は建築材料の改良と自給との爲めに實に前途多忙である事がわかりますが、私は敢て我が國の資本家と技術者に、此の激烈な世界的經濟戰爭の秋に際し、猛者一番、協力一致して國產建築材料を奬勵して國家將來の大業を全ふせられん事を切望する次第でございます。

▲文明の悲哀　米國の都市でも殊に紐育やシカゴを見てつら〳〵考へさせられました事は、成程都市計劃專門家が垂涎萬丈措く能はずといふ市街の區畫は碁盤目の樣に整然と出來ては居ますが、其の不自然な事は目も當てらぬといふ事であります。そして後進國の日本は却つて何といふ仕合せな國だろうと思はず涙ぐみました。實際歐化萬能の方でない限り、あの實況を御覽になる方は皆必ず同感を持たれる事と私は信じます。

日本で建築法規が發布された、當初は高さ百尺とか何とか色々の制限されて少からず不滿を感じたのですが、此の種の制限のなく建設された米國の都市の實況を見ますに、實に酷いものがあります。建物が敷地一杯に建てられ、窓があつても換氣の用をなすのみで建物面積の半ばは晝夜電燈を要する樣なものがあり、第二地下層で食堂を見たりしました。近來止むなくセットバック(寫眞(5)參照)の制定を見るに至りましたが、兎に角自然人の住む所ではありません。眞の文明都市は日本から初まる事と思ひます。町並が惡いからと云つて苦にする事は要りますまい。宜しく百年の計劃を立つて、世の推移に順じて氣永に開拓したら良い事と思ひます。

▼勞働問題　最近世界各國殊に歐米では勞資の協調で苦しんで居ります。日本に於ても樣々な勞働組合が組織せられ、各所で勞働爭議を起す樣になりましたが、之はあまり感心出來ない事と思ひます。然し我々建築界だけには未だ斯種の爭議のない事は實に幸であります。之は建築從業者間には『人生意氣に感ず』の傳統的精神が殘つてゐるからであります。

米國でもユニオンの最も强固なのは紐育とボストンだそうですが、紐育の如きは水も漏らさぬ位嚴重を極めてゐます。若し工事場にユニオン以外の勞働者が居たら直ちに組合員全部が其處を引上げるとか、犯則者は五十弗の罰金をとられて其の上働けなくされるとか聞きました。之も元をただせば資本家が勞働者を酷使した結果、反抗的に結束したものでせうが、私は斯る組合は絕對に排斥したいのであります。組合は賃銀の釣り上げよりか人格と技術の向上を目的としたものでなくてはなりませぬ。元來かゝる組合のリーダーとなるべき人は其の職業の達人で智力あり薰陶力感化力ある親切な紳士即ち人格者であるべきを、鐵工の古手が左官組合長をしたり三百代言が煉瓦組合の指揮をする樣では迚も話になりません。

米國でも南部西部の沿岸都市は組合はあまり頑固でない樣ですが、そこ等には組合に加入しない者も非常に多い樣であります。夫等の人は『組合に入らぬ方が却つて樂で無理な交涉で休む事もなく又技量次第で充分自分の腕を發揮出來て得だ』と言つて居りました。誠に名言と私は日本の有樣を說明して喜ばしてやつた位です。然し我建築界でも何時如何なる惡

風が吹かぬとも限りませんから、見苦しい爭の起る先に勞働者の爲めに御研究される樣にお願ひ致します。

日本人の惡い癖とでも云へますか、一寸演說をやると二言目にトルストイが斯う言つたの、マルクスが叫んだとか言つて得々としてゐる、聞く方も偉いと思つて聞いてゐる事がよくあります。近來メートル法が採用で、醬油五リットル、洗粉一キログラム下さいつてな聲を聞く世の中になりましたが若世界的に統一した方がいゝといふなら一層全部英語にしてソース、ファイヴリットルとか、ウオッシングパウダー、ワンキログラムとすればとも思ひます。言ふまでもなく言語は其の國民性を表す大切なものであります。それでなくても樣々な外來思想上感化されてゐる日本人であるのに、こうなると愈々日本國有の國民性が薄らいで、やがて建築界にも厭な問題が起きて來ざるべからざる狀態になりはせぬかと憂ふる次第でございます。

▼基督敎國の實況　米國は基督敎國であるだけに凡ゆる方面に道德が行はれ、美しい人類愛が實現されてゐる事と想像して居りましたが、その事實が相違してゐるのには驚きました。只もう總てが物質本位で、到る處電車の中までセーブタイムアンドメークマネーであります。又賭博も隨分盛んなもので煙草買ふのにカウンターの上でサイコロを轉がして廿仙の煙草買ふのに二弗も拂つてゐる奴があれば、五本位勝ち儲けで持つて行く奴もある。波止場や公園の立ん坊が銀貨を投げて盛んに賭けてゐる。小供までが步道の橫町で銀貨投げをしてゐると交通係り等立つてニコ〳〵見てゐるといふ呑氣さです禁酒國でありながら左利が多く酒もあります。禁酒と云つても酒の釀造と運搬と販賣とが禁ぜられてあるだけですから呑むのは差支へない事になつて居ります。藥屋では藥用として醫師の證明書を持參したら買へます。西部地方には日本酒も澤山ありました。調子一本一弗廿仙位で、ウイスキーは國內で大仕掛けで係官監視付で釀造もしてゐます。只値段が高いので下層民は呑めないだけの事です從つて勞働者等がヘベレケに醉つてゐる光景等は各都市を通じて見た事はありませんでした。

▼人種差別　米國は世界人種の陳列場見た樣に各種民屬が寄り集つてゐます中にネグロ族は米國民でありながら別者扱ひにされてゐます。南部地方では停車場の待合室は白人用と有色人用と別になつてゐます。自由平等國としては大きな矛盾であります。可愛相なはネグロで出世の途が開けない。從つて我等日本人に信賴す所が甚だ多い事を實見致しました。

▼芝居と私娼　大道の眞中で百鬼晝行とも言ふべき思ひ切つた裸體ダンスを盛んにやつてゐます。人身の賣買はしなくともあんな事なら人道上大した變りはないと思ひます。警察等も別に咎めたい樣です。公娼は居ない代りに私娼はホテル、レジデンス、アパートメント等にひどく發展してゐます。巡査は日本の巡査の樣に命懸けてやる樣な事はありません、例へば店內でホールドアップがあつても飛び込みもせず待つてゐて、盜人が立ち去つた後で飛鳥の如く駈け込むといつた風です取締りの比較的嚴しいのは主義者に對してだそうですが、之も日本に比しては話になりませぬ。それでも割合にコソドロも少く主義者とかいふものも出て來ないで益々世界の富を吸收して居ります。之が日本ですと毎日綱紀肅正で大騷ぎで

せうが、米國では市長が收賄しようと辭職しさへすれば世間も平氣な樣です。禁酒係の巡査が現場を抑へても懷へ入れば罰しないとは實に奇怪な事であります。大阪邊で低利資金官吏が收賄罪で告發されたのを見まするに、敷島一箱、菓子一折、五圓商品券一枚等と僅かな事なのに新聞に書き立てます之は島國と大陸との根性の差かも知れません。

▼平和の主唱者　米國は只大きな不思議な國といふより外に批評の言葉がありません。世界平和の主唱者でありながら其の實は帝國主義軍國主義の國であります。愛國心も仲々に強く日本以上かも知れません。獨立祭やワシントン誕生祭等の國祭日は國民擧つて國旗を掲げ、全部休業してゐる樣は迚も日本の三大節以上に熱心であります。我等もせめて三大節位は擧國一致、業を休んで敬意を表し愛國の觀念を强くしたいものと思ひました。

▼惠まれたる日本　沃野幾千里と聞いてゐた米國は實は荒野寥々で、水は不便、河水は常に濁つて飲むに由ない所や、雨が少いから洪水こそなけれ、若し五日の風に十日の雨でもあれば大慘狀を見る樣な所は澤山あります。國土は廣大でも實際役上立つ所は日本の廿倍位のものでせう。只石炭石油や鐵等の天産物が多いだけの事で、却つて狹くとも自然の天惠に富む日本帝國の方が實に有り難い國である事を特に深く感じました。殊に精神文明の點から言へば世界に又なく喜ばしく思つたのであります。米國の識者は『特に紐育は物質文明の頂點に達した。婦女子のスカートの段々短くなる事を防いで少女を救へ、ローマの末期の第一歩に入つた……』と叫んでゐます。

日本は地震洪水暴風等で自然に惠まれざる國であると云ふ人がありますが、之は馬鹿げた考樣であります。雨が降ればこそ草木繁り五穀成就でおまけに到る所谷あり川ありで自然の風光を樂しめるのであります。又水力利用の大事業も出來るのであります。只豪雨に對する用意が足りないに過ぎないのであります。洪水にしろ地震にしろ今始まつた事ではなく遠い昔からあるものを、泰平の世になれた驕り武者が兵馬の術を怠るが如く、之等の襲來を忘れて近來慌てふためいたのであります。地震でやられる建物は小理窟の多い而も安値なもので、高價でも入念に施工されたものは地震に耐へ且つ補强修繕に金がかゝらぬから結局お得といふことになりました決して地震あるが故に惠まれない國ではありません。

▲文化住宅　米國で私は努めて中流以下の住宅を見て廻りました。日本では文化住宅と言つてゐますが米國にはそんな言葉さへない樣であります。赤い瓦の洋館に瓦斯でも引込むと文化住宅と心得てゐる樣では住宅の根本意義から考へ直してかゝらねばなりません。第一圖は和洋兩樣の實例で延坪も殆ど同じでありますが、洋式の方は夫婦本位ですから寢室は少い。臨時に泊り客があつた時には居間の長椅子を利用するそうであります。日本の如く家族制度の住宅は寢室を多く要するは申すまでもない事です。小さい押入を附けて置けば客室にも寢室にも兼用できます。米國でも折り疊んで押入に廻し込む寢臺が大分流行して居ります。特にアパートメントに多く使用して居ります。第二圖はその一例ですが、之を見ると日本の住宅の方がホンモノである樣に思はれます。日本人自身で『日本人は犬コロ見た樣に疊の上にゴロ〳〵寢てゐる』と

云ふ人がありますが、日本家は西洋のベットの面積を延長したもので、西洋座敷は日本の玄關土間を擴張したものと考へて見たらドンナものでせうか。

彼地で家並の美しく排列されるのは、郊外で何千エーカーの土地を大地主が區劃して一度に經營するからで、日本で例へば阪神沿線の様に山あり川ある所を、勝手な人が勝手な土地で追々建てゝ行くのと事情を異にしてゐます。

住宅の建築工事の粗雜なのには驚きました。一から十まで悉く現場打ち付けで大人とか〇穴とか根太一本置きに蟻掛けにする等と云つた事は樂にしたくても見られません、全部釘付けであります。一本の間杖で切組をして後建てる様な巧者な事は彼等には無理らしうございます。工費は延坪當り百五六十弗前後が相場だそうです。

▼アパートメント　即ち合同住宅は可なり多く建つてゐます。紐育の如きは全市の中ば此の種の建物と云つてよいと思ひます。五階建から十五階廿階といふ高いものがあります。三四室で五百弗の家賃を支拂ふブル階級の人もあり、三室五六十弗出す月給取家族連もあります。第二、三圖は獨身者、夫婦者の爲め週六弗の例です。個人主義の國だげに親兄弟一所に住む事は出來なく、襖の一二枚では安心して眠れないのが壁に板戸で而もキーを下します。私娼が發展するのも一は家の構造が原因をしてゐます。そして此の室の構造故に各室が待合になるから特別にお茶屋待合を建てる要はありません様です日本の風紀は遙によいのは日本家屋の間仕切構造と家族同居の習慣によるものと思ひます。

米國都人で子を持つ人の合宿住ひは哀れなものであります街路は危檢で外に出れぬから、子供は土踏まず太陽見ずに育てられます。何といふ哀れな文明でせう。之に反し日本では九尺二間の割長家でも安心して外に出て土と陽と自然とに親しめるではありませんか。

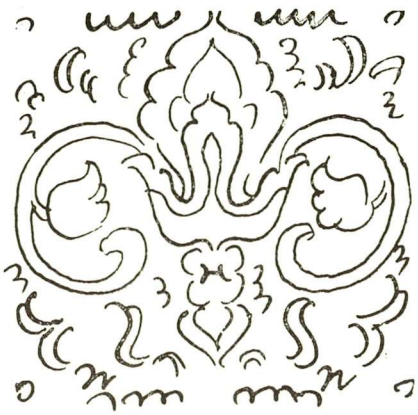
日本でも近來アパートメントの効能書が振り廻されてゐまして、各地にボツ〳〵建てられる様になりましたが、之は愼重に研究して計劃すべき事だと思ひます。（畢）

火事にも大丈夫な 住家は僅か十八棟

消防設備が完備しても大阪には未だ火事は絶へない

府建築課で大阪十四年度に調査した市街地建築物は（新築、增築改築に依つて市街地建築物法の適用をうけたもの）住家としては木造が一等多く八千八百卅九棟で煉瓦造又は石造りの住家は僅に二棟しかなく鐵骨造鐵筋コンクリート造りの住家は十六棟である

商業的建物としてもやはり日下の處では木造が最多を占め四千百十七棟を算し煉瓦造や石造は廿五棟で。鐵骨鐵筋コンクリート造は住家より、多く百卅二棟に及んでゐる。工業的建物にしても木造が最も多く、二千八百五十四棟に上り煉瓦石造は五十七棟、鐵骨鐵筋コンクリートは二百八棟其他の建物としては木造が五百五十棟鐵骨鐵筋コンクリートが八棟で石造煉瓦造等は皆無である以上各建築物を合して木造は一萬六千三百六十八棟煉瓦石造八十四棟、鐵骨鐵筋コンクリート造は三百六十四棟總計一萬六千八百十六棟が市街地建築物法を適用されてゐる譯である大正十三年度の一萬四千三百廿九戸に對して二千四百八十七戸の增加を見るが建延坪に於て十三萬二千二百八十坪の大增加である、さて火事にも大丈夫と云ふ耐火構造の建物は住家では僅に十八棟で工業的建物、商業的建物その他の建物は全部で四百三十棟、これでは如何に消防設備が完備され假令大火に至らずとも大阪に火事は絶對皆無とはまだ〳〵言はれない



現代の建築家と木材の研究

古建築と木材（二）

江崎政忠

本誌前號に、江崎氏を鴻池總理事と記載したるは鴻池元監事の誤につき訂正す（編輯者）

平安城の用材とその伐取地――採氏地は琵琶湖の北方まで延びた――現在の砂防工事も之がため――ついに周防から淀川を曳き上げた――鎌倉時代の京都に入つた木材、殊に三十三間堂棟木の由來から――檜の濫伐は元祿年間の大佛建立にも災つた――臺灣の檜もついに盡きよう――今の建築家は木材に餘り考慮を拂はない――建築の大家が書かれたものに木材の事が書いてない――伊東博士に苦情を云つた――建築の基礎部分と脂濃い木材に防腐劑――古建築の研究には用材の調査――責任は林業家にもある――建築家にもある――建築家と林業家の間に木材の研究を要する――木材と建築の關係について歴史家も冷淡だ――古社寺保存會も木材については何も云はない――社寺の古建築に欅を用ひたのは最も新しい――宇治の萬福寺の柱はチーク材を混ぜた――從來木材を重要視した實例――檜が日蝕の蝕害に耐へた實例――江戸城の欅を用ひたのは鄉土産だからである――欅が建築に取遺されたのは木質と器械刀の不充分なるに由る――古建築は木材の腐朽を防ぐに周到な注意を用ひた――東大寺の建築について關根博士の講演――古建築の礎石――も少し木材の事に注意して頂きたい――

奈良の都が百年續いて、桓武天皇が初め山城の長岡に遷られ、十年間其處にお居でになつたが、まだ都が完成されぬ中に、更に又今の京都へお遷りになつて、京都が今日の如く變つてしまつた、其御建築も、無論一般の民家は色々の木を用ひたけれども、大きな宮殿其他は矢張り檜を用ひられたに違ひない、それは無論加茂川の沿岸を首め、八瀨大原等高野川の上流から、桂川の上流なども伐つたけれども、江州から伐つて來たものが多い、而も京都へ遷つてから後、寺だけでも非常に澤山なものが出來たし、其中には内裏も燒ければ、其他の火災も頻々と起つて、其度毎に使はれた木材は非常なものであつたに違ひない、從て最早附近では木が得られなくなつて、江州は遂に琵琶湖の北方杣木谷と云ふ所まで伐つてしまつた、昨今頻に砂防工事をしなければならぬと云ふやうな慘めな狀態に陷つたのも實はそれ等の濫伐の結果である、そこで京都の方はもう仕樣がなくなつて、今度のは逆に南から

淀川を上げたものである、其中でも面白いのは、鎌倉時代に俊乗坊重源が頼朝の助力を得て二代目の大佛を建立した時には、奈良時代の如く江州から木を伐り出すことが出來なかつたので、遠く周防の佐波川の沿岸を伐つて、周防から木を運んで來た、當時使つた木のことは大佛供養記と云ふ詳細な記錄に詳しく出て居るが、それは皆淀川を引上げ、更に木津川を遡つて、木津まで持て來た經路は以前と些とも變つて居ない、さう云ふ風であつたから、鎌倉時代の京都は無論諸方の木を入れたものであるが、殊に紀州の木が澤山入つた、院本にも三十三間堂の棟木が新宮から入つて來たと云ふことを書いて居る、果して三十三間堂の棟木が新宮から持て來たものであるか、どうか知らないが、あの時分は熊野信仰で、法皇樣も天皇樣も其他貴顯紳士方が盛に出入りをされた所であるから、其當時熊野邊りの木が京都へ入つて來なかつたと云ふことは言へなからうと思ふ、即ち假にあの棟木は新宮から來たものでないにしても、あの義太夫が出來た時分には立派にあの邊の木が京都へ入つて居つたと云ふことは言へるし、無論そんな時分に始つたものではなく、鎌倉以前から入つて居つたものであることは略々想像が出來る、兎に角今でも鎌倉時代の建物も澤山遺つて居つて、大佛殿の中鐘樓と南大門、及び三月堂の半分も其一例であるが、何れも檜を用ひてあるから、俊乘坊重源が大佛建立をやつた時には無論檜を持て來たものであらうと思ふ、所がさう云ふ風にして古來諸處の檜を伐り盡したのでもあらうが、德川氏の元祿年間に大佛の建立をした時にはもう古い木が無くなつてしまつて、色々な木を寄せ集めて造つたものである、即ち今の大佛殿と云ふものは、色々異つた木を用ひたばかりでなく、色々な木を寄せ合してあゝ云ふ柱を造り、心と外側とを束ねて居る、從て割合に木は太い、又柱の上に橫に渡して全體の屋根下地を引受けて居る二本の虹梁はどう云ふものであるかと云ふと、末口の直徑三尺五寸で長さが十四間の松の木が用ひてある、而もそれは薩摩の霧島山から伐つて來たもので、東大寺大佛殿再興記錄と云ふものに、どんな車に載せて、どうして輓いて來たと云ふことまで詳しく書いてある、即ちもう其時分には良い檜などは伐り盡してしまつたので、止むを得ず斯う云ふことをしたものであらうと思ふ、然るに近頃新しく臺灣が我領土に入つて、臺灣にはまだ大きな檜も澤山あるけれども　伐つては伐り、伐つては伐りして居ると、又其中に無くなつてしまふから、總督も餘り伐らぬやうにしやうと云ふことを考へられるまでになつたのである。

所が由來古建築と云ふものは檜で出來て居るものと相場が決つて居るからか知らぬが、私共の常に不滿に感じるのは、今の建築家と云はれる人達が建物に使はれて居る木材に就いて少しも考慮を拂はれて居らぬかの如く見える事である、或は考へては居られるかも知らぬが、書かれたものを見ない、多分博士論文になつたものだらうと思ふが、法隆寺の建築に就いては伊東忠太博士、東大寺の建築に就いては關根博士、宇治の鳳凰堂の建築に就いては京大の武田博士が孰も詳細なる研究を發表されて居るけれども、それ等の詳しい調査の結果を拜見しても、それに使用されて居る木の事は些も書いてない、況やどう云ふものが保ちが良く、どう云ふものが保ちが惡いか、同じく檜と云つても腐つたものもあるであらうが

さう云ふ木の性質に關してはをくびにも出て居ない、唯伊東博士の論文中、法隆寺の金堂の壁下地だけが檜の割貫で造つてあると云ふことが書いてある、此三大論文中木の名が書いてあるのは唯此一字だけである、それで此二月聖德太子の奉賛會で伊東博士に會つた時に、私は此不平を云つて、あなた方は木造建築が何うの斯うのと仰しやるけれども、其木造建築に就いて肝腎の木の事を少しも云つて下さらぬのは、ひどい、それでも、あなたはまだ感心と云つては失禮だが、あなたの論文の中には唯一字金堂の壁下地のことが書いてあるが他の方のものには一言も出てないのは餘りぢやないかと言つたら、伊東さんが「あなたは大變よく讀んで居られるなア」と言つて苦笑ひをして居られたが、そんな風で、是は私の甚だ遺憾に思ふ所である、或は美觀と云ふやうなことゝ、保存と云ふことは異ふと云はれるかも知らぬが、美觀を備へて人の見る所などは兎も角、見ない而も建築の基礎になるやうな所には多少汚なくても成べく脂濃い永く保存に耐へ得るやうな木を擇んで用ひなければならぬし、防腐劑も塗らなければならぬ、仍ち古建築を研究しても、今まで保存されて居るものはどう云ふ木を用ひて居るかと云ふことを明にして、他日さう云ふ建築をする人の參考資料になるやうにして貰ひたいと云ふのが私共の立場から云ふ希望であるが、それが今日甚だ閑却されて居るやうなのは、建築家も惡いが、材木を扱ふ林業家の方も可けない、或は材木を扱ふ人は唯材木を賣込みさへすれば可いと考へ、甚しいのは、速く腐つて、何度も取替へて貰ふ方がそれだけ木が餘計賣れるから結構だと云ふやうな氣でやつて居るかも知れないし、建築家の方でも速く腐つて、何遍もやり替へとり替へする方がそれだけ仕事があつて可いと云ふやうに考へて居る人があるかも知れないが、それは甚だ不忠實なことで、私共はどうしても此兩者の間に木材の使用法が研究されて、木造建築にしても斯う云ふ材料を使つて、斯う云ふ風にやれば、斯んなに永く持つものだと云ふことを明にされることが必要であらうと思ふ、況や木材は日に月に缺乏して行くのであるから、之を節約すると云ふ點から云つても、此こそは大に考慮すべき問題であらうと思ふ、而も現今此方面に就いて幾何の研究が出來て居るか、却て古い日本書紀は書かれた時代の方が能く木の使用法を知つて居つたやうに見えるのは甚だ遺憾であると言はなければならぬ。

此木材と建築の關係に就いては之を歷史的に見ても餘程面白いものがあると思はれるが、歷史家も亦此ことに就いては甚だ冷淡である、私が近頃不圖氣付いた事であるが、櫟を社寺城廓等の建築に用ひたのは最近の事で、恐らく桃山以後のことであらうと思ふ、此間も或機會に學者連中に此事を訊いて見たが、誰もハツキリしたことを答へて呉れない、と云ふのは、繰返し言ふ通り、建築に用ひた木材の性質などゝ云ふ事に就いては誰も注意して居ないからである、例へば古社寺保存會などゝ云ふものもあるけれども、木のことは少しも研究しない、是は何の木で拵えたものであるから保存しなければならぬと云ふやうなことは一向言つて居ない、それも其筈である、木材の解る專門家が一人も入つて居ない、而も日本の古社寺は決して土や石で造つたものでない、總て木造建築である、それを調査する關係役員の中に、建築家や歷史家は

入れてあるが、肝腎の木材のことを專門に研究する人が一人も入れてないと云ふ事は此會の大なる缺點であらうと思ふ、從て木材の事に就いては素人ばかりであるから、其邊の調査が甚だ不十分である、所が私の狹い見聞の範圍ではあるが、神社佛閣等の大建築に欅を用ひたのは最も新しいもので、是は素人が見ても判るが、大抵德川時代のものであると云つて差支ない、尤も古いものにも何處か一局部の裝飾其他の目的に使つたものはあるかも知れないが、柱とか梁とか云ふやうな建築の主要な部分に欅を使つたのは先づ桃山以後のことであらうと思ふ、又是もまだ誰も言つて居ないことであるが、最も面白いのは、宇治の五箇庄にある黃檗の萬福寺は德川幕府(家綱)に聘せられて來朝した明末の高僧隱元が初て日本に一種の禪宗を開いた所であるが、其建物の主要なる柱—全部ではない、數へて二十數本—はどうもチーク材らしい、是も私が一寸見て來たのに、恐らく日本で唯一な斯んな珍しい事に就いてまだ誰も發表して呉れた者がない、或はあるかも知れないが、私共の耳には入いらない、尤も私は削つて見たのではないから、古くなつて居てハッキリ判らないが、どうもさうらしい、多分隱元が支那から持て來たものであらう、假にそれがチーク材でないにしても、確に日本の木ではない、何處か暖い國から持て來たものに違ひない、是等も建築史の方から見て非常に面白い事實であらうと思ふ。

又それと話は全然懸け離れるが、從來非常に木材を重要視した一例を擧げると、あの有名な名古屋城は德川家康が加藤清正を首め殆ど全國の大名を夫役せしめて造營したもので、殊に其天主閣は加藤清正の一手に成つたものであるが、あれは全部檜で出來て居る、即ち其時分は木曾が德川氏の勢力下に入つて居たから、木曾川を下して持て來たので、今の名古屋に在る堀川も當時築城に要する諸材料運搬の爲に掘つたものである、從て名古屋城は一言にして云へば、木曾があつたから出來たものであると言つて可いし、又名古屋城が出來たから、名古屋市が出來たと云ふことも言へる譯である、確かあの城中に清洲から移した一室があつて、信長秀吉對面の間と云つて居るが、木は松であつたと覺えて居る、それはまだ織田氏の勢力が木曾に及ばなかつた當時のものであるから、そんな木を使つたものであらうが、面白いことには、先年白蟻が喧しかつた時に宮內省が名古屋城の疊を上げて、床板を調べて見ると、大部分の床板が檜であつて、後に檜板がなかつた爲に桷板で補つたものか、其桷板の部分だけに白蟻がついて居た、斯う云ふ風に他の木には虫がついても、檜にはなか〳〵つかない、殊に虫がつくのは脂が全く無くなつてしまつてから最後である、所が昔の城普請には要害が大切であるが、名古屋の城の備へとして、何時も木曾から木を持つて來ると云ふやうなことでは、半年も一年も要かつて、急の間に合はない、そこで尾州藩では美濃の麻生と云ふ所に在る七宗山を其おとも山として有つて居た、是なら一箇月位で木を伐つて名古屋まで持て來ることが出來る、此事業から私は又斯う云ふことを考へて居る　彼の江戶城の建築には、和田倉門とか馬場先門、或は櫻田門と云ふやうに澤山ある門や又矢倉を見ても、皆欅を使つて居る、是は城のやうな大建築には丈夫で保存が良いと云ふので、欅を用ひたものであらうが、東京と云ふ所はあゝ云ふ場所で、江戶城の建築にも紀州の新宮

邊りから澤山木を持て行つた位で、卒ざと云ふ時には一寸良い木が得られない、所が東京近在、殊に甲州街道と青梅街道の方面には、街道筋から到る處の民家の周圍に澤山な欅が植えてある、而もそれが江戸城から見ると、低い方面ではなく高い方面で、自から江戸城の方へは下り坂の、物の運搬もし易いやうな場所に當つて居る、想ふに東京附近には、板橋方面にも欅はあるし、自然に欅が出來るにも出來たのであらうけれども、何もあゝ云ふ面白味もない木を好んで家の周圍に植ゑる必要はない、是は當時德川氏に餘程な傑物が居つて、恰度名古屋城の爲に七宗山を備へたと同樣、有事の日に備へるが爲に、それとは言はず民家に植ゑさせたものであらうと思ふ。

欅は大建築に必要なもので、檜が無くなれば、强くて、保存の良いものは先づ欅である、唯檜に比して、檜程綺麗でもなし、香も佳くない、又木質が堅くて細工が施しにくい、殊に非常に重いので、水に浮べるにも、木に依ては餘程乾さないと、浮ばないと云ふやうな不便がある、從て昔は器械も不完全で、伐つたり、削つたり、運搬にも困難であると云ふやうな關係から、是が近代まで取殘されて居たものであらうと思ふ、それが段々世が進んで、良い器械も出來、運搬のことも上手になつて來る、一方には他の良材が乏しくなつて來たと云ふやうな事情もあつて、欅を用ひるやうになつたので、先づ桃山以後のことでないかと思ふ、殊に東西本願寺の建築などになると、もう檜はないので、共に欅を用ひて居る、即ち東本願寺は朝鮮の濟竹島から伐つて來て居るし、西本願寺は天龍川の沿岸を伐つて居る、今猶ほ其跡には澤山欅が殘つて居て、大分立派なものもあるが今は御料地になつて居る、兎に角檜の良いものがなくなると、大建築には檜よりも强いと云ふやうなこともあつて、段々欅を用ひるやうになつて來たものであらうと想像される。

尙ほもう一つ古建築に於て古人が木材の腐朽を防ぐと云ふことに頗る用意周到であつたと云ふ點は後の建築家も能く御考慮を願ひたい、是は建築費の關係があるからと云はれゝば一言もないけれども、昔の建築は礎石に非常に大きい、柱の直徑の三倍も四倍もある大きなものを用ひて居る、之に就いて面白い挿話がある、曾て東京の建築學會に於て關根博士が東大寺の建築に就いて講演をされ、東大寺が燒けて二度目の建築をする時には舊の礎石の上に建てたのであるが、初の天平の時の柱は、下の直徑が三尺五寸で、後の鎌倉の時には直徑五尺の柱にしたと云ふ事を述べられた、仍で元三尺五寸の柱が載つて居た礎石の上に直徑五尺の柱が載る譯でないぢやないかと云ふので、直に諸方から質問が起きたが、それは當時の建築物の實況を知らぬからである、當時の礎石は柱の二倍も三倍もある大きなものを用ひたから、三尺五寸のものが五尺にならうが、六尺にならうが、一向差支ないと云ふことで、若い建築家諸君は怪訝んな面をして聽いて居つた——さう云ふ風で法隆寺などの建築を見ても當時のものは皆大きな礎石を用ひて居る、又總ての建築は其周圍の環境に依て異つて來るから、一概には言へないが、大抵水を引かぬ硬い石を擇んで居る、而も其上に立つて居る柱に十分空氣を與へる爲に、溝の掘つてある礎石が澤山ある、又礎石に溝の穿つてないものは柱の方に孔を穿けて、下に空氣が入いるやうに注意

をしてある、即ち成べく其上の柱に水氣が及ばぬやうに礎石を大きくしたものであらうが、柱を立てる所だけに細工をして、其他は皆天然の儘削らないものが多い、是等は經費や色々の關係もあるが、古人が建物の保存と云ふことに付て如何に注意をして居つたかと云ふことは十分想像が出來る。

要するに建築家諸君の方でももう少し木材のことを注意して戴きたい、或は注意して居られるかも知らないが、色々の書物を見ても一向發表されて居ない、先づ以て御研究になつて居らぬものと思はれる、尤も將來は益々西洋建築が盛になつて、段々多く鐵やコンクリートを用ひるやうになるであらうが、全然木造建築が無くなつてしまふかと云ふと、さうは思はれない、何と云つても多年の習慣で、實際上から云つて見ても、どうも木造建築の方が住み心持が好い、是は爭はれない事實である、假令外部は西洋建築にして、鐵筋コンクリートにするとか、煉瓦や石を用ひるとしても、内部の始終我々の眼に見、肌に觸れるやうな所は矢張り木を使はなければならぬ、中には此間の震災に懲りて、外部は固より、内部の壁や床も皆コンクリートにして、一切木を用ひず、遂には椅子や卓子までも金物で拵へた人があるが、實に殺風景なもので、神經衰弱を起すと云つて居る、さう云ふ譯で、都會の澤山人の寄る事務所のやうな所は別として、住宅は矢張り大部分木を用ひなければならぬだらうと思ふ、是は單り建築の方面ばかりでなく、鐵道の枕木でも鐵筋コンクリートが可いか、或は鋼鐵が可いとか云つて、種々やつても見たが、結局木材が可い　又道路の鋪裝にしても色々やつて居るけれども矢張り木煉瓦が一番可いやうである、即ち防腐さへすれば、工合も好く、保ちも可い、前に述べたやうな古建築が今日まで立派に遺つて居るのも、氣候風土の關係もあるが、用材の性質にも依るので、木を用ひる上に付ては此防腐と云ふ事と木の選擇を適當にすると云ふことが最も肝要である。（畢）

五重塔上の石の九輪を發見

大和帶解山中にあつた廢寺の跡から出土

建築上の驚異的勅事實

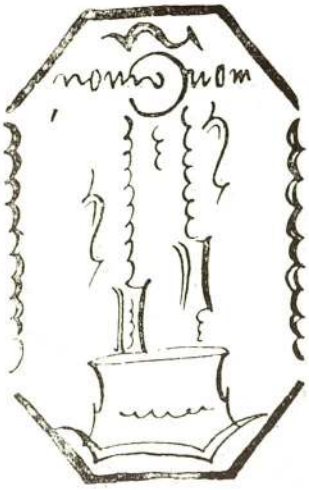
去る一月末大和法隆寺の五重の塔下に洞穴があることを發見して學界に非常な衝動を與へた奈良縣技師岸熊吉氏は最近更に五重の塔上の九輪に石造のものがあるといふので建築上の驚異ともいふべき新事實を提へたそれ〻は未だ公つて古文書にも記載されてゐず、歴史的建築學者が夢想だにもしなかつたものであるとの事の起りは去る三月ころ奈良縣生駒郡都跡村大字西ノ京の古瓦蒐集家楢葉憲一氏が奈良縣郡山町の某屑物屋から凝灰岩の一種和泉石を圓形にくりぬいて作つた車輪様の出土品の破片十五個と出土地を同じうする花瓦と蹄瓦數枚を買受け本月始め、前記岡技師の鑑定を受けたところ、奈良朝末期か、平安朝初期の五重の塔の九輪だといふことが判明し、以來楢葉氏とともに出土地を捜査中右は同縣添上郡帶解村大字山、通稱「ドドコロ」故伏見宮文秀女王御墓裏手の檪林の中から發掘され、凡そ二ケ年間數人の屑買の手を經て來たものであつた

同所ばかりでなく、鐵道の枕木でも鐵筋コンクリートが可いか、或は鋼鐵が可いとか云つて、種々やつても見たが、結局木材が可い　又道路の鋪裝にしても色々やつて居るけれども矢張り木煉瓦が一番可いやうである、即ち防腐さへすれば、工合も好く、保ちも可い、前に述べたやうな古建築が今日まで立派に遺つて居るのも、氣候風土の關係もあるが、用材の性質にも依るので、木を用ひる上に付ては此防腐と云ふ事と木の選擇を適當にすると云ふことが最も肝要である。（畢）

今回發見された石造九輪は高さ八、九尺もあることが判つた、この石造の九輪は十五個の破片で直徑二尺五、六寸、厚さ約三寸小さいもので上部は狹く下部は廣がり、面は圓味をもつた精巧な細工を施こし小鐸をつけた鐵の環がつき、内輪を具備して六本の放射線を中軸から出してゐる

なほ法隆寺寺務所の中庭に○縣生駒郡富里村の古刹法輪寺の塔の露盤だつたと稱する石があつて學界の問題となつてゐたが、右石造九輪の發見によつてこれも○様木造の塔上に置かれた木造九輪の一部だといふことに解決がつくもやうであると兩氏は更に右出土地點について石造の露盤伏鉢水煙寶珠等の發掘を試むるはず

（奈良電話）



ゴシック藝術（上）

柳宗悦

柳氏は、宗教哲學者として著聞し、幾多の著作あることは、此處に更めて紹介するまでもないが、曩日大阪のY・M・C・Aに於て爲された表題の如き氏の講演は、事建築に多分の交渉を有ち殊に建築家に採つて參考とすべき近來最も有益なるものであつた。今、本編を拵ぐるに方り、豫め氏に校閲を乞ふの暇なかりしこと、文章上の責任は編者に在ることをお斷りしておく。‖編輯者

一

所謂ゴシック藝術と稱せられるものに就いて極く概略のお話を致さうと思ふのであるが、私は固より美術史を專攻して居る者ではない。而も自分の話すことに何か學問的根據がないと、私のやうな多少なりとも學問に關係したやうな仕事をして居る者に取つては何となく甚だ心許ない感じがするのである、併し今日の基督教會、のみならず、教會以外の狀況を見ても、私がお話しやうとするやうな世界に就いて、特別に深い研究を拂つて居られる方が非常に少いやうに思はれる、縱令あつたとしても、それ等の人々の研究の結果を發表されたものはまだ見た事がない。それで甚だ不完全であり、又私自身の獨創的研究と云ふやうなものは何もないのであるけれども、將來當然注意せらるべき世界があると考へるので、强ひて斯の題目を選んだ次第である。

甚だ個人的なことを云ふやうであるが、私の生涯に取つて基督教は色々な意味で重大な關係を今日まで有つて來た、其中でも特に關係深く考へられたのは中世紀に現はれたる基督教であつた、曾に神學の方に於て此時代は私に取つて驚くべき權威であつたのみならず、神學を離れた藝術の領域に於ても私に取つては一の啓示であつたとも言ひ得るのである、色々な基督教的眞理と云ふやうなものを唯學問的な推理を通してのみならず、極めて具體的な表現を有つて居る藝術と云ふものを通して、私は如實にそれを學んで行くことが出來たのである。從て今お話することも唯私の經驗した歡びと云ふやうなものを少しでもお傳へしたいと云ふやうなことに外ならぬのであるが、兎も角も今日の基督教會を見ると、當然基督信徒が深い注意を拂はなければならない領域が全く閑却されて居るやうな傾きがあるやうに私には思はれる、殊に今日我

々が常に接觸して居る所の基督敎は主としてプロテスタントの方であるから、新敎以外の基督敎に就いて我々が耳にし目に觸れる機會が甚だ少い、況んや新敎以外の宗派と云ふものに對して反感を示されるやうな場合には彌々隱れたる眞理に就いて識る機會を有たない譯である、併も個人的に云つて、私は舊敎に對して多大な敬虔の念を懷いて居る一人であつて多くの基督敎の眞理と云ふやうなものは其世界から將來彌や深く認識せらるゝに至るであらうと私は確信して居る、何を我々が求めて見ても、それが基督敎眞理に關する限りは、何時でも其方向は舊敎の方に向けられるやうに私は考へる、例へば宗敎的生活と云ふものを考へて見るならば、當然私達は聖者と名づけられたやうな人々のことを顧慮しなければならない、而も基督を除いて、最も偉大な聖者と云ふものは殆ど總て舊敎の領域に現はれて居ると言つて可しい、例へば、セント・オーガスチンを首め、下つてはセント・グレゴリとかセント・バルニー、セント・フランシス、或は神學の方ではアンセルムスであるとか、アベラルドス、又誰も其時代に於て認めなければならないトマス・アックイナスと云ふやうな人々は皆此舊敎の世界に現はれた人々である、更に神學の領域を離れて、藝術の方に行くと、私達の心は舊敎の世界に憧れる、新敎になつてから取分けて獨創的な藝術は發達して居ない、基督敎の長い歷史の中に現はれた美しい花を摘まうとするならば、どうしても私達は六七百年の昔に歸へらなければならない。今私は其花をこゝに複寫して見やうと思ふのであるが、果して美しく複寫し得るかどうか、甚だ覺束ないことであるけれども、縱令それが美しく複寫は出來なくても、それは私の技術が拙いのであつて、花其ものは決して醜いものでないと云ふことを信じて戴きたい。

二

今日一般に中世紀のことが閑却されて居るのは何に起因するかと云へば、恐らくは其世紀に於ける生活狀態と云ふものが今日と非常に懸け離れて居るからであるし、又物の考へ方眞理に對する見方なるものも非常に本質的に異ふ所がある、殊に藝術の方面になると、我々にはそれを理解するのに、色々困難な支障が現れて來る、何故ならば、今日我々が知つて居るやうな意味での藝術と云ふものと、中世紀時代に現はれて居る藝術と云ふものとは其間に非常な差異があると言はなければならない、況や基督敎などに對して特に注意を拂つて居らない人々に取つては、恐らくは中世紀の藝術は閉ぢられた卷物と名づくべきものであつて、何が其中に描かれてあるか知ることは出來なからうと思ふ、即ち一には其時代が我々に取つては餘りに宗敎的であつたと云ふことに歸着するかも知れない、餘りに宗敎的——と云ふ言葉は、本來正當に云へば、言ひ得べき言葉でないと思はれるのであるけれども、併し信仰と云ふものが進んで來て居る今日から云へば、其時代は餘りに宗敎的であつたと言はなければならない、仍ち特に此場合餘りに宗敎的であつたと云ふことは、どう云ふ譯であるかと云へば、言ふまでもなく、餘りに基督敎的であつたと云ふ意味である、基督敎に對する憧憬を有つて居られる方にはさうでないかも知れないが、一般の人々に取りては確に其時代は餘りに基督敎的であつたと言つて可いと思ふ、而も其

時代は實に基督敎的であつたのみならず、餘りに舊敎的であつたと云ふことも言ひ得る譯である　從て新敎の色々な敎義とか生活と云ふやうなものを通してのみ基督敎を見られる方々に取つては、矢張り此中世時代は非常に不可思議な時代に見えるに違ひない、何故ならば、そこに現はれて居るものも亦現はさうとして居る所の思想も、殆ど今日我々の考へて居る樣な世界とは異つて居るからである、仍ち私は其中世時代の特質と云ふやうなものに就いて明瞭なる體現と云ふものを出來るだけ捉へるやうにお話して行きたいと思ふのである。

先づ語源の點から考へると、普通ゴシック藝術と云へば、如何にもゴート族藝術であると考へられるのであるけれども併し此名稱はルネッサンス以後に起つたものであつて、そして其時代に用ひられた言葉ではない、況してゴート族とは何等の關係はない、ゴート族に依て出來た所の藝術でもなければ、又ゴート族の支配下にあつた他國人の藝術でもないのであつて、其宗義の上から云へば、ゴシックと云ふ文字と中世紀の藝術とは何等の關係はない、併し不思議にも中世紀の藝術は普通ゴシック、アートと云ふ言葉に依て言ひ現されて居る、何故こんな名稱を得たかと考へて見ると、ルネッサンス時代の人々に取つて、如何にも、それ以前の建築なり、彫刻繪畵などの樣式が非常に野蠻なやうに見えた、從て、ゴート族は非常に慓悍な野蠻人であつたから、野蠻な藝術と云ふやうな聯想からゴシック、アートと云ふ言葉が起つたのである。兎に角此言葉は如何なる意味に於ても正當でないのであつて當時の藝術は顧みれば顧みる程　それが如何にも卓越した信仰の上に立ち、又信仰と云ふよりは寧ろ深遠な神學以上に立脚して居つて、そこに極めて偉大なる文化の背景があつたと云ふことを明にすることが出來る、仍ち我々はゴシックと云ふやうな意味から聯想して、此時代のものを顧みる必要ないのである。

三

藝術史の方から見れば、基督敎の初期の藝術は東洋の影響を多分に受けて居て、普通之をビザンチンの藝術と稱し、是が段々衰微して、所謂ロマネスクの時代により、それが十世紀から十二世紀に至て終るのであるが、其ロマネスクの時代を繼承して十三世紀に於て非常に美しい花を開いたものを今日我々がゴシック藝術と呼びならはして居るのである、或歷史家は今日までの長い人類の歷史に於て何れの時代が最も偉大であるかと云ふことを顧みる時に、躊躇なく此十三世紀の時代が一番偉大な時期であつたと云つて居る、是は其見方にも依るであらうが、若しも特に宗敎的と云ふことを基督敎的と云ふことに取つて、之を基督敎的に解するならば、私も亦此十三世紀は過去に於て最も偉大な世紀であると言ふに躊躇しないものゝ一人である、即ち文學に於てはダンテが現はれ畵家としてジオットーがあり、セイントとしてフランシスなどが出た時代である　是等は皆概括して云へば、十二世紀から十四世紀の間に出た人であるけれども、其中心を成す所の十三世紀は實に驚くべき聖者と、驚くべき藝術家と、驚くべき學者が出た時代である、例へば神學者として古往今來トマス・アックィナスの如き人はなかつたと思はれるが、是は十三世紀の眞中に出た人であつて、其前後にも幾多の偉大なる

神學者が輩出したことは誰でも知つて居ることである、又基督教の生活の方から云へば、基督教生活の中心を成す所の修道院の如きも、無論十二世紀頃から漸次盛になつて來て居たものではあるけれども、是亦此時代に於て最も盛であつたと言つて可い、即ちセント・フランシス、及びセント・ドミニクを中心として現はれた所謂フランシスカン・ドミニカンと呼ばれた二つの集團が最も活躍した時代も此十三世紀から十四世紀にかけた頃だと言はなければならぬ、今日我々が讀んで、最も敬虔深い感じを有つ基督教の文學が最も多くの量に於て現はれて居るのも此時代で、特に基督教的神秘文學の方面に於ては應に此十三世紀を措いて他にないと言つて可い位であつて、兎も角基督教の領域に於ては忘れられない一時期であつた。

此ゴシックの藝術は如何なる點に於て今日の藝術と異つて居るか、又どう云ふ特徴を有つて居るかと云ふと、第一に注意しなければならぬことは、今日の藝術は個人の藝術である總ての畫家なり彫刻家なりが各々自己の名に於て開いて行く所の藝術である、例へばロダンやマイヨールなどの彫刻にしても、或はマネー、ルノアール、セザンヌなどの繪にしてもそれ等の人々の特殊なる個性と云ふものを畫て、そこに偉大なる藝術の世界が開かれて居るのであるが、中世の藝術には全くさう云ふ趣はないと云つて可い、日本に於ても——他國でもさうであらうけれども——佛畫と云ふものに落款のしてあるものは殆どない、古來宗教家は我名に於て何事も處置することを愼んだものであるが、同じく基督教に於ても、特に信心深い過去の時代に於ては自己の名に於て藝術の道を開かうとした者はない、言ひ換へれば、神の御名に依り基督の御名に於て藝術の世界を開かうとしたのである、恰度勞働者が道路を開拓して行く時に決して其道路に自分の名を書きつけないのと同じやうに、古代の偉大なる藝術家は誰も皆決して自分の名を書いて置かなかつた、其時代の有名な藝術品が誰に依て作られたか知られて居らないのである、言ひ換へれば個人の藝術でなくして、其時代全體の產んだ所の藝術であつたと言つて可い、もつと正しく云へば、それは個人の作品と云ふよりも、亦時代の作品と云ふよりも、直に神に依て作られたものであると云つた方が可いかも知れない、何故ならば一體の藝術が神學の法則の上に成立つて居るからである、此點に就いてもう少し詳しくお話して行きたいと思ふ。

四

古いことであるが、紀元七百八十七年に開かれた有名な第二のニカイヤ會議に於て、將來基督教の建築なり、彫刻又は繪畫などを作る場合には如何なる精神に依て作らなければならないかと云ふことを決めた一箇條がある、それを見ると、總て宗教的な作品を構成する場合に、其題目は固より、それを如何なる排列に置くべきかと云ふことは藝術家に委託すべき事柄ではない、それ等一切のことは教父達（ファーザース）が決定した所の法則に基いて畫き、又刻まなければならない、唯其決定せられたる題目を捉へて、それを實際の作品に現すことのみが藝術家に委託さるべきものである、と云ふのであつて、今日から見ると、極めて藝術の自由と云ふことを無視した時代であると考へられるかも知れない、併ながら其の人々に取つては

決してさう云ふ譯ではない、宗教的經驗を有つて居られる方々はよもやそんなことをお考へにならないだらうと思ふ、偉大な眞理と云ふやうなものに對して、特に宗教的眞理と云ふやうなものに對して服從すれば服從する程、我々は自由感と云ふものを體驗するものである、私達が自分の名に於て一切のことを行ふ場合には、到る處の世界に於て不自由な或拘束を經驗する、卽ち自由と云ふやうな意義が今日と當時は非常に異つて居つた、今日は唯自分が主になつて、自分の意の儘に爲し得る世界を自由と考へるけれども、併し當時の人はさうは考へなかつた、神の御心の儘に活きる時のみが自由の世界に入り得るものであると考へて居た、此信念が矢張り藝術にも現はれたのであつて、總ての作品は自分の氣儘に造つてはならない、神の定めた所の、卽ち偉大なる教父達に依て深く思索せられ、又それ等の人々の思想に依て代表せられて居る所の眞理の教と云ふものに深く〳〵依存して、已が藝術の道を開拓しやうと云ふのが、其時代の人々の敬虔な考であつた、言ひ換へれば、今日の藝術は全然神學と云ふものから離れた所謂獨立的藝術であるけれども、併し當時の藝術はさうではない、常に神學と密接な關係を有つて居た藝術である、此宗教と藝術とが分離したのは近代の事實であつて、是は所の東西を問はず、宗教が盛であり、信仰が偉大であつた時代に於ては宗教と藝術と云ふものは必ず手に手を携へて發展して來たものである、仍ち藝術の世界に入る場合でも決して神學を無視して入つたのでなく、其美を表現すると云ふことは矢張り眞理を現すと云ふ意味があつた、約り宗教的眞理と云ふものを離れて藝術美はない、もつと簡單に云へば、眞と美と云ふものが非常に密接な關係を有つて居たのである、然るに眞理と云ふものには正しき一つの法則が行はれて居ると云はなければならない、仍ち當時の藝術は總てさう云ふ樣な意味に於ての法則の上に基礎を有つて居ると言つて可しい、從て古人は自分の名に於て作品をしたのではなく、況して自分の名を誇つて其作品を世に問はうとしたものでは全然ない、今日の藝術は國の異るに從て、違つて居るのみならず、又個人の異るに從て非常に多樣な作品が世界の各地から現はれて來て居るけれども、中世紀の時代に於ては決してさう云ふことはなかつた、歐羅巴の各國に於ては總ての人が同一の拘束の下に同一の藝術美を表現して居たのである、御承知の通り此時代程歐羅巴の各國が基督教に於て統一せられた時代はない、總て國民が其國の名の異なるを問はず、皆基督を父としマリヤを母として育つて行つたのであつて、總ての國民が基督教的の一つの强い宗教的團體に統一されて居たのである、從て其時代に現はれた藝術と云ふものは總て同一の藝術であつたと言つて可しい。

五

固より今日我々が見れば、英吉利の作品と、佛蘭西或は獨逸のそれとの間に多少の差があることは認めざるを得ない、而も私共は同じやうな法則の下にそれ等の藝術の意味を解釋して行くことが出來る、此點が先づ第一に異る點であると言はなければならぬ、卽ち其時代に於ては教會と云ふものが一つのオーソリティを有つて居た、尤も教會と云つても今日我々が日曜毎に通ふ教會と云ふものとは全く趣を異にした意

味での教會であつて、それは或絶對的な威儀とか價値とか、或は内容とか云ふものを以て人々の前に君臨して居たものである、而して總ての人は其教會に對して極めて敬虔深いものであつたので、藝術も亦其教會から教へられる所の法則に基いて發展して來たのである、仍ち言葉を換へて云へば ゴシック時代の藝術と云ふものは、第一に極めて秩序（オーダー）のある藝術であると云つて可しい、此秩序は實に整然たるものであつて殆ど數的意味をさへ有つて居る程明確に決定されて居る所の法則の下に立つて居つたものである、或は之を今日の言葉で云へば 斯う云ふ風に言ひ現すことが出來るかも知れない、其時代の人の信仰と云ふものは極めて傳統（トラディッショナル）的なもので、自分自身の見解と云ふやうなものに依て其信條を決定しやうとしたのではなく、古い教父（ファーザース）時代から傳へられて居た所の傳統的な基督教の精神を忠實に守つて居たものである、從て其藝術も亦極めてトラデイッショナルな性質を有つて居て、能く傳統を守つたものである、此傳統を守ると云ふことは今日の我々から見ると、如何にも不自由な拘束せられた世界に入るやうであるけれども、併し信仰の領域に於ては先にも述べた通り、傳統なるものは一つの重荷と考へべきものでなく、寧ろ極めて安定の世界に入つて、自由を得ると云ふ意味があつた、それは日本に於てもあの親鸞上人が書かれたものなどを見ても、さうした心持が洵に能く現はれて居る、親鸞上人はあれ程偉大な方であつたけれども、是は自分の教だと云ふやうな意味で說かれたことは極めて少い、其何時も口癖のやうに言はれたことは、是は自分の師であつた所の法然上人が仰せられたことであるから、よもや嘘語ではあるまい、と云ふことで、自分が言ふのならば、間違つて居るかも知れないけれども、自分の信じて居るお師匠樣の法然上人が言はれたことであるから、間違ひはないのだと云ふやうな言ひ表し方をして居られる所が多い、此言葉は私は宗教的に見て、極めて意味の深い言葉だと思ふ、如何に、親鸞上人が弟子達に眞理を說かれる場合にも自分の名と云ふやうなものに於てせられず、非常に敬虔深い心持を以てせられたかと云ふことが窺はれる、此と同じやうな心持が中世紀の信仰深い歐羅巴の人々に取つてもあつたのだらうと思ふ、即ち自分が是から書く所の題目は自分が選んだものではない、あの卓越した、思慮の深い、而もイエスから直接言葉を聽いて居る教父達の教に依て書く題目であるから、自分の書く此題目に間違ひはないのだと云ふ確信を有つて居つたやうに思ふ、從て其時分の作品は總て信念の作品であつて、始から終まで、隅から隅まで信仰に依て貫かれたもので、少しでも宗教的意味を離れたならば全く其存在の道を失つた作品であつた、之を最も簡單な言葉で現すならば、信心の所產であると言つて可いのである。

六

而して藝術が斯う云ふ事情にあると云ふことは實際上此時代に取つては極めて重要であつたと言はなければならぬ、何故かと云ふと、例へば一切の構圖と云ふやうなものが若しも決定されて居らなかつたとするならば、其時代の無學な一般の民衆に取つては、そこに何が書かれてあるか、何が刻まれてあるかと云ふことは認識することが出來なかつたらうと思ふ、今日でこそ我々の殆ど總てが聖書を讀むことが出來るけ

れども、中世の時代には拉丁語を讀み得る者は至て少い、從て自から聖書を讀む歡びを有つた人は極めて少數であつたと言はなければならぬ、一般の民衆は何か他の途に依て聖書を讀むやうにしなければならぬ、此要求に向つて最も適切な材料を與へたのが此中世時代の藝術であつた、從てそれは藝術と云へば、藝術であるけれども、同時に聖書でもあつた、何故ならば、其殆ど總ての題材は聖書から選んであるし、而も其聖書にある材料を選んで來る場合にも、例へば最後の晩餐なら最後の晩餐の光景を畫く場合にも、勝手に畫くことは出來ない、イエスを首め弟子達の坐はる位置がそれ〳〵にチヤンときめられて居て、どの席に坐はつて居る者がイエスであり、どの位置に居る者がユダであつて、何處が誰であると云ふやうなことが一目して直ぐに解るやうに出來て居た、今日の藝術に於ては自分の構想の儘にイエスを何處の座席に置いても構はないやうになつて居るけれども、當時は決してさう云ふことはなかつた、磔刑の圖を畫く場合でもさうであるし一切の場合が或拘束せられた法則の下に表現せられて居つたのであるから、其法則を知つて居る一般の民衆は其繪を見、彫刻を見たならば、直にそれは何を現して居るものであるかと云ふことを知ることが出來た、言ひ換へれば、當時の藝術は形に現はれた一つの活きた聖書であつたと言つて可しい、而も其聖書は恰度文字に書いてある聖書と同じやうに、順序がチヤンときまつて居つて、其章や節が妄りに崩されて居ない、例へば詩篇の中にある所の光景が四福音書の中に出て來ると云ふやうなことはない、必ず其順序が整然ときまつて居たから、それを見る人々は文字なくして眼のあたり聖書を讀むことが出來たのである、今日から見れば、中世紀の作品は極めて不可解なもので、何が書いてあるか解らないやうに思はれるけれども、其當時の人々に取つては極めて容易に理解が出來た所の藝術であつた、即ち今日の藝術は見るものに相當の藝術的敎養とか或は美術的敎養と云ふものを有つて居なければ、理解することが困難であるけれども、當時は非常に事情が異つて居た爲に、總ての民衆が共通に藝術と云ふものを鑑賞することが出來たのである、啻に鑑賞するのみならずそれに依て神學と云ふものを習つたのである、多くの人は所謂スコラ哲學と云ふものを學ぶことは出來なかつたけれどもさう云ふ哲學的な文學的な神學と云ふものを神學書を通さずして、藝術と云ふものを通じて學ぶことが出來た、此點が今日の藝術と比較して最も顯著な差異であると云つて可しいのである。

七

約り此時代の作品は、今日の言葉で云へば、それ〳〵に象徴的な作品であつた、即ち或一つの作品は唯其外見的に現はれて居る所の相と云ふ樣なものを現さうとしたのではなく其外見を通じて內面の意義を現さうとしたもので、言ひ換へれば、藝術的表現と云ふものを通じて、其內部の一つの宗敎的世界と云ふやうなものを捉へやうとした、所謂宗敎的眞理の象徴化せられたものが當時の藝術であつたと言つて可しい、例へば、是は佛敎藝術でも同じであるが、よくセーントやアポツスルなどの頭に光背（ヘイロー）が畫いてある、あれは當時どう云ふ意味を有つて居たかと云ふと、ピユーリテイ即ち純潔とか清

と云ふやうな意味を現したもので、其光背の中に十字架が畫いてある場合には、單にピューリテイのみならず、デヴインテイ即ち神性と云ふやうな意味があつた。又當時の彫刻や繪畫を見ると、靴を穿いて居るものと、靴を穿いて居ないものと二つの種類があるが、神の子とセーント、アポツスルやエンゼルは皆必ず素足に畫いたもので、例へばアポツスルが草履を穿いて居るとか靴を穿いて居ると云ふやうな場合は決してない、之に反して、聖母マリヤを首め、セーント、アンチやエングンス、其他總ての處女は必ず靴を穿いて居る、斯う云ふことは初からきめられて居たもので、是が崩された場合は決してない、從て當時の人々には其彫刻なり繪畫を一見すれば、是は何の像であると云ふことが直ぐに解つたのである、のみならず、其各々の像が又それ〳〵に約束を有つて居た、例へばペテロを畫く場合には、必ず頭髪が縮れて居て、頤鬚が短いのを通則として居る、ペテロの像で長い頤鬚を有つて居るものは決してない、又其色々な持物などもきまつて居るから、一見すれば、假令それにセーント・ピーターと書いてはなくとも、是はペテロの像であると云ふことは誰にでも解つた、又パウロは之に反して、必ず禿頭であつて、長い頤鬚を有つて居る、此法則も亦決して崩された場合がない、又マリヤと云はず總ての處女は必ず頭巾を被ぶるのを法則として居る、故に此時代のもので頭に覆のあるものならば、それは必ず處女を示して居るものとお考へになつて間違ひはない、又猶太人を描く場合には必ず圓錐形の帽子を被ぶせることが規則となつて居た、それで猶太教會と基督教會の區別はそこに描かれた人物を見ても直ぐ解る、ミナゴグを現す場合には、必ず其人物に覆面をさせ、其冠り物が必ず落ちかゝつて居る、のみならず其持て居る杖が折れて居るが、チヤーチを現した場合は、覆面はせず、冠り物も正しく載つて居て、持て居る杖も折れて居ない、是等の規則も決して紊された場合がない、又磔刑の場面を現したものは、聖書にあるやうにイエスの左には必ず槍を持つた者が畫いてあつた、左の方には必ずヨハネと海綿を持つた者とが畫いてある、此左右は決して變はる場合がない、或は又ペテロと基督を讃く場合にはペテロは何時でも基督の右に置かれて、ペテロが基督の左に置かれると云ふやうなことは決してない、是は餘談であるが今日ではパウロが基督教會に於て非常に重要な人となつて居るけれども、昔はペテロがなか〳〵尊敬せられて居たと見えて、其證據の一つに能く此事實が擧げられるのであるが、必ずイエスの左にはペテロが置かれてある、兎に角さう云ふ約束があるのみならず、其他にも、斯う云ふ（彎曲した線は普通の場合蒼空を現はすとか、或は斯う云ふ）線は水を示すとか、或は斯の如き〰木の葉が直線の上に畫いてある場合はそれが天國の出來事ではなく、地上の事件だと云ふことを意味して居るとか、或は扉の口にタワーがある場合は、それが市の事件であることを現し、或は欄干にエンゼルがある場合には、それが何時でもエルサレムの出來事であることを示しエルサレム以外の事件を現す場合には欄干にエンゼルが立つて居るやうなことは決してない、さう云ふやうにそれ〴〵の法則が皆きまつて居る、從て其時代の人々は實際聖書と云ふものを讀まなくても、是は何の場面で、誰が何をして居て、どう云ふ光景が目前に現はれて居るのだと云ふことを直ぐに

認識することが出來たのである。

八

而して斯の如き精神が樣々な場面に開展して來るのであつて、お話すれば、色々興味深いことが出て來る、先に述べたやうに、斯う云ふやうなことは所謂秩序（オーダー）と云ふやうなものを愛した時代に現はれたもので、從て此時代には秩序を現した美しさと云ふものが特に注意されて居つた、どう云ふ秩序を愛したかと云ふと、先づ位置（ポジション）の秩序を非常に愛した、今日でも方角のことをやかましく言ふ人があるが、此時代に敎會の如きパブリックなものを建てる場合にどう云ふ位置が遵奉せられて居つたかと云ふと、總てのチャーチは普通上から見ると、斯う云ふ十形をして居らなければならぬ、是が十字架を表象して居ることは言ふまでもないが、此十字架は如何なる位置にも勝手に置いて可いと云ふ譯には行かないので、ボヂョンがチャンと きまつて居る、即ち 東 西 北 南 斯う云ふ風に必ず西面して居てきまつて居るといふ信心深い時期は過ぎ去つてしまつて、敎會と云ふものはどう云ふ風に建てゝも構はないし、誰が建てゝも差支ない、又どう云ふ風に窓を造つても可い、又實際何等の拘束も受けずに出來て居るけれども、當時は非常にさう云ふことは信心深くしたもので、地形がどうであらうと、必ず此位置は變へることなく、神を迎へるべく一定の正しい法則と云ふものを履んで敎會を建てたものである、此法則が崩れたのは十六世紀に入つてからで、十五世紀以前のもので此法則の崩れた場合はないと言つて可い、而も曾に斯う云ふ位置がきまつて居ると云ふだけで其意味が終つて居るのではない、此東西南北の位置に特に宗敎的意義を含ませて居る、即ち東の方はどう云ふ意義があるかと云ふと、是は日の出る方面であつて、宗敎的に云へば、神の光の現はれる場所である、從て東の方は主として宣誓前ホアイアーの居る場所として、即ち神を讃美する場所に備へて居る、南は温き光を受ける場所で、特に新約聖書を之に當てゝ、新約聖書に現はれた一切の出來事は必ず南面の壁に刻むなり畫くなりするのを規則とした、舊約聖書にあることを南の方に畫いたり刻むやうなことは決してない、之に反して、北は寒い暗い世界を意味し、我々は何時かさう云ふ暗い世界から脫れて、光の世界へ入つて來なければならない、言ひ換へれば、北は舊約聖書の時代であつて、何時か過ぎ去るべき時期を示して居ると云ふやうなことで、舊約聖書に出て來る總ての事件は此北面した壁に現はしたものである、又西は太陽の沈み行く方面であつて、謂はゞ人の魂が最後の神の光に照される場所である、仍ち西の一面は最後の審判を意味して居る、而も此位置は正しく西に向つて居るから、一年に二度春秋の彼岸の中日には正確に太陽の光が正面を射るやうに出來て居る譯である、又此西側にはローズ、ウインドーと云つて、必ず中央に大きな圓窓を穿けてあるのを法則とし、之に特殊な模樣の彫刻などがしてある、普通車の形を現してあるが、是亦無意味なものではなく運命の車と云ふものをこゝに象徵したもので、即ち太陽が沈むと、最後の審判が來る、人間の運命がこゝで如何に回轉するかと云ふことを意味したものである、今日の敎會は何も其處で人間の運命の車が回轉すると云ふやうな意味を含ませて

は居ないけれども、當時の人は一つのものを造るにも皆宗教的意義を含ませやうとしたので、特に斯う云ふやうな點に於て中世紀時代は驚くべき時期であつたと言はなければならない、のみならず、新約聖書なら新約聖書から題材を選んで來る場合、例へば十二使徒を描くと云ふやうな時にも、それがどう云ふ順序に列ぶかと云ふやうなことはチヤンと決定せられて居る、或は一つの肖像を描く場合にも、普通其脚の下に色々な彫刻が施してあるが、其上に立つて居る人と、其下に刻んである場面とは必ず密接な關係を有つて居るので、主として其上に刻まれて居る人の一生の間に起つた物語の中で、最も多く宗教的眞理に富んで居るやうな事件を選んで其下に彫ることになつて居る、即ち其場面には其人の傳記が刻み付けてあるものと見て可い、決して無意味にオーナメントを施すと云ふやうなことはない、そこに矢張り位置の法則と云ふものが含まれて居る。

（未完）

壺坂寺の寶塔や坊が零砕な巡禮の賽錢で修理されてゐた事を發見

當時の信仰もを偲ばれる貴い材料

西國三十三箇所の靈場中第六番の札所として有名な大和壺坂寺（奈良縣高市郡）は白鳳年間の創建にかゝる特別保護建造物に指定されてゐるが最近寶塔に破損の甚しきものがあるに至つたので本年二月より四萬四千圓の豫算と一年半の日子を豫定して奈良縣社寺課の岸技師監督の下に之が修理に著手、先づ此程塔全體を解體したところ端なくも其中から寶塔が寶永七年正月から六月迄の間に巡禮の賽錢を以て修理されたことと及び其後世年間に同じく巡禮の賽錢を以て山内八町四面に建てゝゐた十二坊（今は二坊しか殘つてゐない）をも順次修理を施した事實も銘記された板及び瓦が發見されると共に、塔の心柱等にも同樣の銘が彫り付けてあることを發見したが右は歴史的非常な參考となるもので當の發見者たる岸技師は之に就いて語る

壺坂の寶塔や坊が昔に修理されたことは記錄にも遺つてゐるが其修理が巡禮の賽錢を以て行はれたと云ふことは今迄全然知られなかつた處であると同時に其費用の如きも今回縣の行ふ寶塔の修理だけでも四萬四千圓の豫算を要する點から考へて當時全體の修理費が非常に莫大な額であつたことは想像に難くない而も夫れが悉く零砕な巡禮の賽錢からなつたと云ふに至つては其の時代の信仰の程度が如何に深かつたかと云ふことが窺はれる尤も壺坂寺に就いては寶永の前即ち元祿に近松の戯曲壺坂靈驗記等があつて相當知られてゐた者であるとは思はれるが今回發見された銘に依つて一層此事が確實になつた譯である云々



建築の本質（三）

本野精吾

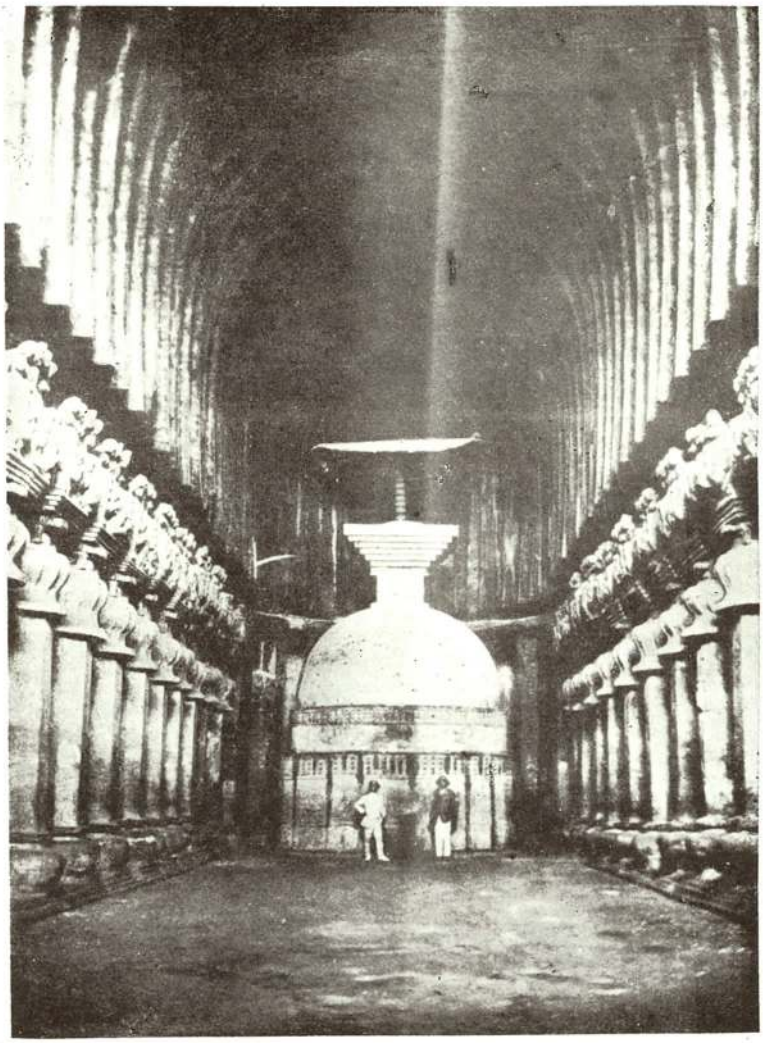
建築の本質――今迄に建築の本質に關して考察し得る色々の方面に就いて述べましたから、之れから私の結論に急がうと思ひます。此の事に就いて最初に考へなければならないのは建築の機能と云ふ問題であります。建築及工藝品に就いて美の素質を考察する場合に最も重大な關係にあるのは物體の機能と美の素質との關係であります。建築美と工藝美とは非常に近似した性質を有つて居ます。けれども今茲では建築美のみに就いて述べる事にします。建築を使用の目的と美の分子とに分けて考へたのが即ち最初に掲げましたピオレ、ル、デュックの考であります。然しながら建築に對する近代的考察の基本は之れとは著しくかけ離れたものになつて來て居ます。今私が建築と云ふものに就いて最も根底を形造ると考へて居ますのは建築の機能其物が建築美其物の基本をなすと云ふ考であります。從つて此の考の底には、建築と云ふものを人間の使用の目的其物であると考へ美の根底はソコに形造られると云ふのであります。茲で一寸誤解を引き起す事を避けるために前に掲げました處の建築を全く使用の目的物と考へ使用の目的の中には全く美の素質を認めない考へ方との相違を明らかにして置きます。建築を全く實用の目的物と考へ其の中に美の素質を認めない處の考への底には若し人間が美を求むるならばソレは使用の目的以外の他の領域にあると云ふ考が伏在して居るのであります。斯の點が今私の申し述べた使用の目的其物より來る處の物體の機能其物が美の根底であると云ふ考との根本の相違であります。似た樣な云ひ表はし方であつて本質の意義は全く相反したものである事を明らかにして置きます。

私は今結論に向つて急いだ樣に想へますから、之れから遡つて此の結論が依て來る處を明らかにし樣と想ひます。

一旦私達は最も純粹な立場に歸つて既成の多くの建築物に就いて其審美的感覺が何から惹き起されるかと云ふ事を考へて見なければならないと思ひます。古來の多くの名建築――パルテノン、ノートルダム、等――から吾々が受ける美的感覺を分解して見ると、ソコには建築の機能と關係なしに單なる大さや形の美のみを感受する事は出來ないのであります。若し假りに美の理論が、物體の機能と關係なき獨立したる自由の世界に存在するものであるにしても、之等建築の如き機能



堂殿のラルーエるたし出切りよ床岩の然自



院窟のーリカるたり堀に床岩の然自

を有する物體を美と感ずる事は如何なる理論に依ても動かす事の出來ない「直感の事柄」であります。從つて吾々は之等建築物の美を機能と關係なしに分解して單なる形や大きさや色合の樣な幾つかの素因に還元してしまう事は出來ないのであります。けれども斯の事柄は決して美が實用に附隨したものであると云ふ事にはならないのであります。美は依然として認識の世界にあつて實用の世界にはないからであります。機能を有する物體の美が繪畫や彫刻の如きものと異なる素質を有つのは斯の點に出發します。

ソレ故に使用の目的を有する物體が審美的生活の目的のために展開される時其の物體は二つの方面に於ける美を呈する一つは形體色彩の組み立てより來る外觀の美であり、他の一つは使用の目的によつて語られる所の形體の美であります。斯の二つが渾然として一つに熔け合つたものが即ち物體の機能を基礎とした美の世界であります。ソレ故に形體はソレが如何に美しくあらうとも充分に機能を發揮して居なければならず。一面には裝飾的分子が如何に豐かなものでも機能に對しては從屬的で且適應的でなければならないのであります。モシソウでない場合には一部相の美が他部相を壓してしまつて物體は一つの奇麗な裝飾品になり終つて機能的には全く無意味なものになつてしまいます。若しソレが機能的に生命を保つて居るにしても、美しい諸部相の葛藤のために全體は統一を失なつてしまいます。ギリシャの建築に生命がありレネーサンスの建築（殊に末期の）に生命がないのは斯の事を示す好個の例であります。ハギアソフイヤやノートルダムが生々として地上に生へて居る樣に恰も生命ある者が地上に根を下ろして居る如き觀を呈するのは全く機能的生命を保つて居る一面に諸部相の均衡統一が完全に保たれて居るが故であります。建築が單なる實用の目的物としてか或は又單に無意味なる奇麗な裝飾品としてゞなく眞に機能的生命を保ち乍ら靜かに觀照の對照物としてコノ地上に築き上げられる時建築は完全に其の生命を發揮したものと云へます。吾々はギリシャの殿堂の正面を博物館の前に附けたり劇場の入口に附けたりする事を一刻も早く已めなければならない。此の種類の現代にくり返へして行はれて居る事柄は悉く古代の尊重すべき建築への冒瀆であり、同時に貧弱なる現代の表現に他ならないからであります。斯の事柄はローマに於て一度レネーサンスに於て一度行なはれた事でありまして、ローマ及レネーサンスに於ては各の時代が他の點に於て尊敬すべき素質を有つて居るが故に生命を保つて居るのでありましてギリシャ系統の形態を模倣した點は全く建築史上に胎された一つの汚點と見ても過言ではないと想ひます。十九世紀は又之と似通つた事柄をくり返へしつゝあつたのであります。けれども眞實に人間の生命を見つめつゝあつた現代人は建築に於ても眞實の本質が何處にあるかを見つめつゝあつたのであります。吾々の全生命が人類最高の社會的意圖と目的とに依て淨化されてしまつた時建築も亦最高の境地に到達するのでありましやう。

私の建築の本質に對する論議は之れで僅かにソノ端緒を見出したに過ぎないのであります。けれども此の項では之れを繼續する事を止めて、唯建築に表はれる線と繪畫或は彫刻に表はれる線との間の根底的相違に一言して此項を終らうと思ひます。斯の問題はやがて繪畫とか建築とか物の種類に依て

審美的素質を異にする最大の素因をなすものであります。繪畫に表はれた線と建築に表はれた線とを比較して見ますと、繪畫に於ける線には全く重量と云ふものがなく自由に一つの面の上を浮動して居ます。けれども建築に於ては重量と云ふものと物質と云ふものが根底を支配して居ます。彫刻に於ては丁度其の中間に位するのでありまして、重量と質とは建築に於ける程大きな素因をなさず、又線の性質は繪畫程の自由を有たないのであります。ソレ故に建築の繪畫的素質を多分に含む方面即ち室内の壁の裝飾の樣なものにあつては線の性質は重量と質とを離れて繪畫的に傾き、又建築の彫刻的素質を有つ處印度佛敎建築（建築と名づけ得るかさへ疑問である處の）エールラの山骨から切り出した殿堂やアジヤンタの窟院等にあつては線の性質は彫刻と同じ意味を有つて來ます。今暫らく繪畫的及彫刻的分子を多分に含む方面を除いて純粹建築と名づけ得る構造物に就いて考へて見ますと、夫は全體として一つの力の合成體と考へるのが最も至當であります。即ち「人間化せられたエネルギーの相互作用」（此の句はバーカーの美學概論に據つたものであります）でありまして、それを四の方面即上方、下方、外方及内方の四つの方向の力の合成結果と考へる事が最も當を得て居ると想はれます。

ソレで斯の四つの方向の力の素因は即ち物體の重量であります。物體の地球の中心に向つて移動し樣とする傾向は下向力を生じます。其の物體が下に向つて移動しない限り夫れを支ふるために上向力が生ずるのです。ソレから又下向力が原因をなして物體は側方に移動し樣とする力が生じます。ソウしてソレに對して反對の水平力が生じます。それを外方力及内方力と名づけます。斯の力の均衡が單なる數學的均衡でなくして人間化せられた場合に物體は全體として審美的生命を與へられるのであります。ソレは寺院の如き建築物であらうと橋梁であらうと或は一つの工場であらうと使用の目的は全く論議の外にあります。

コノ力と形體との關係は物質の有つ性質に依つて異つて來ます。人類が曾て地上に遺した建造物に於てこの内在する力量の均衡を全く神秘の境地に迄高めたのはゴシックの寺院であります。錯雜した構成は全く力の均衡其物であり、ソコに附け加へられた彫刻裝飾は其の構成物體の魂の中に熔け込んで居ます。更に其内部に立ち入つて見ますと幾多の色ガラスを透してサン込んで來る光線と巨大な上向力を表示する柱列とが相俟つて空間を一つの神秘の境地に導き入れて居ます。更に其の中に現出する音響の世界が四方の圍まれたる空間に充ち擴がつてソコに力と光と音との一大交響樂が構成せられるのであります。信仰に充ち々々た數多の人達が其の中に充つる時此の一大交響樂は生々として人間の魂の中に溶け込んで來ます。カクてこそ建築は全く魂ある生物と同じく此の地上に生へ出した物と考へられるのであります。

鐵筋コンクリートと云ふものが人類に惠まれてから力と形體との關係は革命的の變動を惹き起しました。今迄人間が夢想する事も出來なかつた力の表現は此の材料に依て樂々となされる事になつたのであります。吾々はコノ貴い材料を大切に哺み育てゝ行かなければならない。ソウして其の中に生命を與へて行かなければならないと思ひます。構成を數理的に研めて行くのは構造學者の範圍であります。けれども其れを

人間化して行くのは建築家の役目であります。建築家は硬直な材料を騙つて軟かい線を生み出し有機的構成の中に生命を與へて行かねばならないと思ひます。

吾々はコノ貴い材料に恵まれ乍らソレを單なる實用の箱（審美的表現に乏しきビルヂングの類を指す）や又はギリシャ殿堂の正面を附け加へるための骨子にしたりする事を一刻も早く止めなければならない。

斯様に考へて來るならば建築の本義と云ふものが何う云ふ處に其の根底を置いて居るかと云ふ事は自ら明らかになると思ひます。茲に論議した事は斯の事柄に就いて單に一つの緒口を惹き出したに過ぎません。けれども斯の一文が聊でも建築の進展に向つて資する處があるならば幸であります。（完）

廿億圓の貨幣を生んだ
大阪最古の歐式建物
井上聞多の夜廻り—威張り散らした外人技師—チョン髷役人の散髪ものがたり
悲喜劇を生んだ六十年の春秋

大阪造幣局では創業明治三年以來の石造の表工場がいよ〳〵本年度から三箇年の繼續事業として改築される、これは設立當初舊ホンコン造幣局の鐵柱を購入してたてた大阪における政府最初の歐式建築でたゞに建築史上の好資料であるのみならず明治初年の西歐文明の源泉として大阪における近代工業の先驅となつた光輝ある工場であるがたゆみなき時の經過とともに取毀されることになつた二十億圓餘の貨幣を生んだ六十年の春風秋雨……必滅の理ないまさらの如く悟つて『惜しいことですが……』と永井局長がしきりに感慨に耽つてゐる

史の記すところによると

慶應四年四月（明治元年）會計官に貨幣司をおき二分金および一分銀を鑄造せしめついで造幣局設置を企つ、よつてホンコンにある造幣器械を十六萬兩にて英商人ラバと約定して購入すること、なり建築をはじめ十一月中旬地上に横はれる汽罐の上より餅まきをなし砂持の儀を行ふ、ついで英人ウオートルスを聘し三年十一月つひに巍然たる大厦竣工すとあり當時の大阪人はビックリして『あの眞つ黒い柱は何だんれ、なに煙だすと』おつたまげたものだ、これよりさき

◎岩倉大納言　外國に使節となつてゆくのでその前に何としても新式貨幣を造つてみせねばならんといふので寢夜作業をすることになつた、當地造幣頭井上聞多午前四時からカチ〳〵と擊柝をもつて始業の合圖をする、夜は篝火を焚いてのちの聞多さん苦蟲を潰したやうな顏で寒いぼな立て巡視をしたものである、造幣の技術家として元ホンコンの造幣局長であつたメージョル、キンドル（月俸一五〇〇ドル）分析師ツーキ…（三〇〇ドル）鎔解師アトキン（二五〇ドル）を傭聘した、キンドル資性すこぶる傲慢造幣のことをよく知らずして暴威をふるひ、日本人からサンドル（雷）といふ綽名を奉られたもの、ツーキーは燒生といふ操作に後硫酸で洗へば金分が減少することを知りながら教へなかつた、おのおの一等官舍、二等官舍に住む消耗品は官で勝手次第に傳票でとり、おまけに物品買入れにコンミッションをとつたそれで丁髷帶刀の局員は隱忍して米何十石といふ給料でよく研究したものであつた、のち散髪と定まつたがなか〳〵散髪をいやがり

◎府廳や裁判所　などの役人よりはばかきいたのに希望者が一時たへつたといふ奇現象を呈したさうである元金座の彫金方の某は散髪を嘆つてごま化し馬渡櫨頭は開業式の前日に意を決して斷髪したところ若くかつ可憐なその夫人はことのあまり無慘だといふので一夜を泣きあかしたさうである鑄造した貨幣は金貨一圓、二圓、五圓、二十圓、刀劍の銘をほつた名彫刻師加納夏雄は錦の御旗をほりまぜた、當時は金一匁が二圓五十錢であつた、四年二月十五日開業式、右大臣三條實美が諸大官外國公使達と來阪す右大臣鳥帽子直垂で親く鏨を振開して機械を運轉した、十六日より衆庶の總覽に供したところ見物人雲の如く寄せて鐵柵ために押し倒され負傷者を出したとあるいまなほこの鐵柵は同局一圓に樹立して尖頭に大の字形がはいつてゐるのがそれでこれはもと大阪府判事五代才助が城内に

◎一大動物園　を設けるため外國に註文したが肝心の動物が手に合はず不用となつて造幣局に讓りわたしたといふ珍因緣のものである



構造計算のシステムとチエックの方法（二）

池田宮彦

三、柱の計算と其のチエック

さて前號に床梁の計算とチエックの方法とを述べたのであるが續いて柱の計算に移ることゝする。

前號(二)の床梁計算に於て其のチエックの爲めに床梁の反力より床面積を各柱に於て算出した、此の床面積を算出したのは梁計算のチエックの爲であつたが之れによつて各柱の負擔する床面積も自然に明らかになつた譯である、即ち前號第四圖に示した通り柱1號は六・六八平方米、又柱2號は一六・〇七平方米の床面積を負擔して居るのである。故に柱の計算は此の床面積を直ちに採用して計算を進めるのである。但しこゝに述ぶるは柱の斷面の算定ではなくて荷重の計算であることを豫めお斷りして置きます。

柱の計算を行ふに當り只漠然と計算書を作らず之れを第五圖に示す樣に一つの纏まつた表に拵へつゝ計算を進めるのが最も便利であり且つ正確に出來ると思はれる、今假りに此の建物が六階建であり且つ柱は總て最上階から最下階迄通つて居るものとし、屋階の動荷重は毎平方米三〇〇瓩と假定し柱には此の七割即ち二一〇瓩を、又一階は特に動荷重を多く考へ五〇〇瓩と假定し柱には此の七割即ち三五〇瓩とす、其他は前號に述べた通りとす。之れにて總ての階の動荷重及死荷重が定まり柱の荷重は計算せらるゝ順序となつた。故に之等の値を第五圖の左縱三行に示す樣に各階別々に記入する、即ち左より第一行目は單位面積の死荷重を屋階より一階迄上より下へ順次記入する、又動荷重も同じく之れを第二行目に各階に記入する、而して第三行目には各階の死荷重と動荷重との單位面積の合計を各階相當欄へ記入する、例へば屋階九三五瓩、三階九八五瓩、一階一〇七五瓩等である。

さて次に同じく第三行目には各階に於て上階よりの單位面積の荷重の總和を書き込むのである、本例について述ぶれば屋根は九三五瓩であつて之れより上には階が無いから此の階は此のまゝであるが、第五階は、五階の床荷重九八五瓩と其の上階(屋根)の荷重九三五瓩の合計一九二〇瓩を記入する、これは當然其の部分の柱が受くべき單位面積荷重の總和である、同樣に第一階にては第一階床の荷重一　七五瓩とそれより上の階二、三、四、五、及屋根)の床荷重の總和（單位面

柱	1	2		6	7	8
床面A積	米² 6.68	1 .07		13.68	32.15	29.0
荷重 死荷重	荷重 動荷重	荷重 合計				
瓲/米² 725	瓲/米² 210	瓲/米² 935				
			屋階	W 1.5 F 6.25	W 1.65 F 15.0	W 1.35 F 12.78	F 30.1	F 27.1
			0.935	7.75(+ W 10.	16.65(+ W 10.90	14.13 W 9.15		
〃	260	985	五階	F 12.8	F 30.8	F 26.25	F 59.8	F 55.6
		1920	1.92	22.8(+ W 18.5	41.7(+ W 20.15	35.40 W 16.95		
〃	〃	985	四階	F 19.4	F 46.6	F 39.7	F 93.4	F 84.2
		2905	2.905	37.9(+ W 27.0	66.75(+ W 29.4	56.65 W 24.75		
〃	〃	985	三階	F 26.4	F 62.5	F 53.2	F 125.0	F 109.0
		3890	3.89	53.4(+ W 35.5	91 90(+ W 38.65	77.95 W 32.55		
〃	〃	985	二階	F 32.55	F 78.4	F 66.6	F 156.5	F 141.5
		4875	4.875	68.05(+ W 44	117.05(+ W 47.90	99.15 W 40.35		
〃	350	1075	一階	39.75	F 95.6	F 81.4	F 191.0	F 172.5
		5950	5.95	83.75(+	143.5(+	121.75		
			地階					

第　五　圖

積）五九五〇瓲を記入する、之れは云ふまでもなく一階床を受ける柱が負擔する單位床面積の總荷重である。

これで荷重が定まつた譯であるから次はいよ〳〵各柱について計算を進めて行く。

それに先立つて第四行目を作つて置く。此の行で階の名稱が一見して明らかになつて居ると同時に其階名の下に第三行目で拵らへた總荷重を瓲單位で表したものを書き添へる。即ち屋階にては九三五瓲であるから〇、九三五瓲、又一階にては五九五〇瓲であるから五、九五瓲等。

次に表の右の方の作り方である。之れは前號第四圖で計算をして得た柱の負擔する床面積を柱番號の順に最上欄に左より右へ書いて行く、柱の有るだけ全部を記載する、故に此の表は相當横長いものになるから豫め注意を要する。實際計算の場合には製圖用紙を横にして用ゆるのである、若し一枚で入り切らなければ二枚なり又は三枚にする、或は一枚の紙に二段或は三段に作る。

本例に於て柱1號は其の負擔床面積六・六八平方米、第二號柱は一六・〇七平方米、第六號柱は一二・六八平方米等々である。

これよりいよ〳〵本計算に入る。

第一號柱、屋根を受ける柱の荷重は此の柱の負擔する床面積六・六八と床荷重〇・九三五との相乘積六・二五瓲である、面して此の荷重は床荷重であつて他の荷重即ち間仕切壁荷重等と區別する爲にFの字を其の頭に書き添へて置く同樣に一階を受ける柱の荷重は床面積六・六八と床荷重五・九五瓲との相乘積即ちF三九・七九瓲である。Wは壁

の重量である。

第七號柱、第一號柱と同じく屋階を受くる柱の荷重は床面積三二・一五と〇・九三五との相乘積F三〇・一瓲である。一階に於てはF一九一・〇瓲となる。

同樣に總ての柱の計算を行ふ。

次に壁の重量であるが、建物の外壁或は間仕切壁である、之れ等の壁の重量は床荷重とは全然別にかゝるものであつて床荷重の外に各柱の各階に於て計算して別にWとして書き込む。本例に於て屋根のWはパラペット壁の重量である。

壁の荷重を別にすることは計算上大切な事である、如何となれば間仕切は設計の進むにつれて、よく變更せらるゝものであるから壁等は之れを床の荷重とは全然區別して置き何時壁が何れの階で短くなり、或は增し、又は廢止せられても直ちに計算書の方も變更し何等の間誤付きの無い樣にするのである。

以上を以て柱の荷重計算を終つた、これを原にして各階柱の斷面即ち鐵筋コンクリート柱或は鐵柱にて其の所要大さを定むるのである。

四、要は正確と速いこと

構造計算の要は正確に速く出來ることである、如何に理論が良くても其の理論を應用した全體の構造計算中に幾多の誤謬があつては駄目である、然し計算を行つて誰れしも經驗する所であるが一つの建物の構造計算に一度計算した切りで一ケ所も誤算の無いと言ふ事は普通の人では殆んど不可能と言つて良からう、故に必らず計算が出來上つた時又は進めて行く間々に計算の終つた部分をチエックすることが必要である そして其のチエックは自分で行つても良いが又他の人に依頼しても良い、若し他の人に依頼する場合に自分だけにしか判らない樣な計算のシステムでは駄目である、以上述べた梁及柱の計算のシステムはチエックの爲めには至極便利であると自信するものである。

事務所でも官廳でも一つの建物の計算を擔當して居る人が若し休めば一般に其の仕事は中絶するのが普通の例である、これは計算のシステムが其 人獨りにしかわからないからである、若しも前述の樣な方法で計算を行へば計算者が不在の時でも其の計算が何處迄進んで居るかゞ一目瞭然たるものとなつて他の人が直ちに代つて計算を進めることが出來る。急ぐ工事には特に斯くの如きことが必要である。又其の計算の進行の程度が明らかになつて何日間で計算が終るかゞ常に豫定が付くのである。

梁及柱の斷面を算定するのも之れと同樣のシステムによつて表に作りつゝ計算を進むれば良い。

地震橫力の計算を行ふにも亦前述の梁及柱の荷重計算が其の根本となるものであることは言ふ迄もない。

（完）



墓地園の管理

都市と現代的墓地園

(四)

椎原兵市

都市に於ける現代的墓地園の使命は單に一期間の外形的整備を以て之れ足れりとせず、經營と維持が圓滑に行はれ、永久に墓地として繼續さるべき、素質や制度を有せねばならぬ。然るにやゝもすれば都市の墓地は。その環境に左右せられて移轉の運命に逢着したり、管理上の欠陥から甚しく廢頽し陰凄を極めるものが多い。前者は建設に際して位置選定を誤りもので、後者は概ね永久管理制の行はれざるが爲めで、從つて現代的墓地の使命は實に此の永久管理制の優秀なる點にあるのである。今經營、維持の一般的注意を簡單に說明し、次に米國に於ける墓地永久管理制を紹介することにしよう。

墓地設備工事が完成後は、塋地賣却と園の維持手入即ち一般經營方法が問題となるのである。而してこれ等は都市の大墓地園に於ては、決して輕視すべからざる問題である。宜しく人材を用ひて經營機關を整へ經營、維持が圓滑に行はれねばならぬ。墓地管理人の職務は、墓地の廣袤內容如何によりて多少相違する處はあるが、一般に墓地の維持に關すること、葬儀に關すること、塋地賣却に關すること、經營に關すること等で單に事務的才幹ばかりでなく、人格と專門的知識を備へてゐる人でなければならぬ。今之れを個條にあげて說明すれば。

一、管理人は多くの人に接觸應對し、且つ直面的實務に從事するのであるから才智あり、如才のない且つ同情心の深い人であること。

一、或る場合は商人であり、或る場合は季節天候に應じ、部下を督して仕事をする實行家であらねばならぬ。

一、一般園藝と土木的智識を必要とする。

抑も墓地を常に淸淨にし整備する爲には規則も必要であるが、墓地に於ては殊に個人の權利は一般公衆の幸福の爲には第二義的のものであらねばならぬ。それで一般の規則は土地賣買の條件、永久管理規定、垣、墓碑の高さ、樹木の種類或は墓碑の材料を制限する必要もある。最後に如何なる事業でもさうであるが墓地に於ては正確なる記錄が管理上最も必要の事

柄となつてゐるから正確に記錄せねばならぬ。

次に墓地永久管理即ち換言すれば基金を出して夫より生ずる收入によりて永久に墓地を維持して行かうと云ふ方法は、所謂現代墓地の新使命であつて我が國には餘り實施されてゐないが今後の墓地には最も必要な條件であらねばならぬ。

今米國に於ける多くの例を見るに、最も普通の方法は各地區(塋地)賣價の何分の一(通常十パーセントから二十パーセント)かを控除して、これを地區全面積が悉く賣り盡されるまで三パーセント又はそれ以上の率で預金し永久管理の爲め準備されるのである。今二三の實例を擧ぐれば。

一、紐育市ジエイムラタウン、レイクビユウ墓地では永久管理として賣地一平方呎に付き平均二十五仙を基金として控除し各塋地及その周圍の道路、樹木等の手入に充てられてゐる。假りに一平方呎三十仙で塋地を賣る場合は約半金だけ保存し、百弗で賣る場合はその八分の一丈け保存して置く樣に、地區の等級地價に應じて率を變へてゐる。尙此の墓地では落雷の爲めに受ける紀念碑及廟等の損害は責任を負はぬ事になつてゐる。

二、サンフランシスコ市シプレスロー墓地では一塋地を七十五弗で賣る場合は二十五弗永久管理の爲めに別に徵收してゐる。若し塋地を一萬五千弗で賣る場合は五千弗の永久管理資金を徵收するのである。此の墓地では既に永久管理基金として市の不動產で約三十萬弗を所有してゐると云ふことである。

三、セントポール市オークランド墓地では土地賣價の內一平方呎に付き二十仙を保存してゐて、永久管理法が採用される以前の契約にも此の法を適用してゐる。尙紀念碑等人工的のもので高價の經費を要したものは除かれてゐる。

以下はアメリカ墓地管理協會で、ミルワウキー市のダブリユ・エス・ピリ氏が講演したもので抄錄して參考に供す。

『公園、墓地、風景園』誌上に揭載されてゐる墓地の年報に依れば、永久管理資金なるものに次の二種ある。

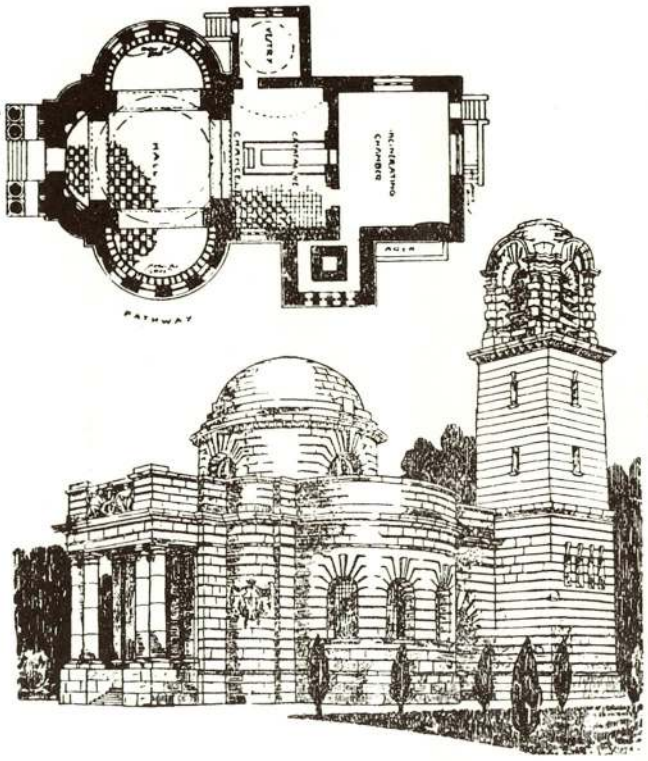
一、各地區の永久管理に充當せらるゝ資金。

一、一般準備金若くは一般墓地管理資金。

斯の如き管理資金の備へられてゐることは、墓地の永久性が裏書きせられる譯であるから、例へ墓地周圍の事情が如何樣に變つて來ても、此の墓地が廢止處分を受けると云ふ虞れは先づないのである。

墓地の永久管理契約を締結するに當つて、墓地管理人が法律上の手續、其他の方法で、その墓地の位置の永久性と、その埋葬地として、利用上の永久性とを保證する樣な方法を執つてゐるところがあるが、墓地の取毀を命せられたり、埋葬物の移轉を命せられたり、或は又墓標のなくなつてゐる例は珍らしい話しではない。然し斯うした墓地の各地區に初めから永久的な管理方法が制定されてゐたならば、管理人は代つても後任者が前任者の契約を履行する事は云ふまでもあるまい。墓地々所の永久性を保證することの方法を講ずることは何よりも先決問題である。そして次に、組織の永久性といふ事が確保されねばならぬのである。

今日吾々の墓地或は墓地協會等で、一定の規定を設け、この規定に依つて契約を遂行して行くとか、管理資金或は責務を何等かの永續的組織體に讓渡し、團體をして繼承して原契

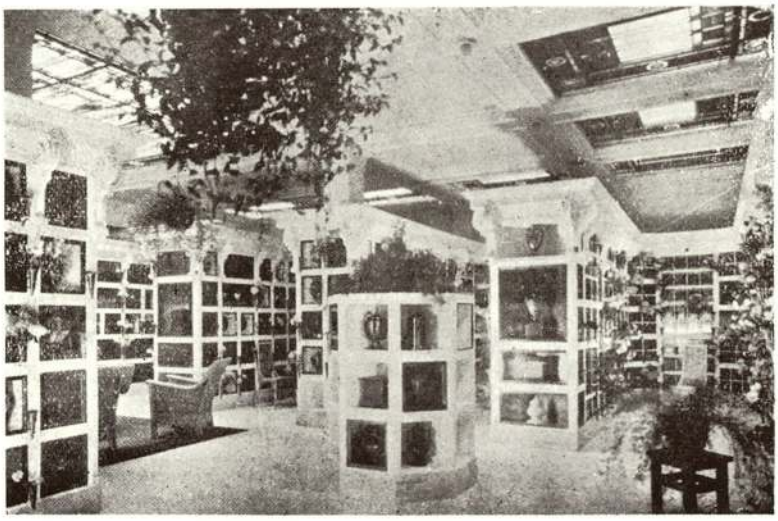


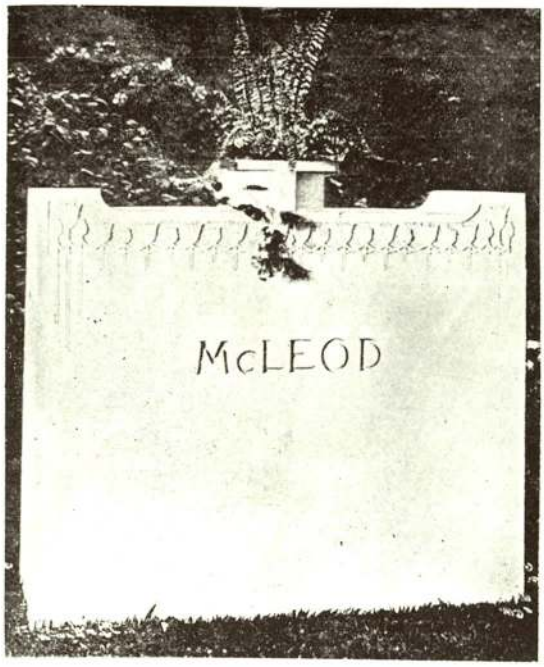
フリーマン式設計の墓地火葬場

パゴーラ式の墓碑

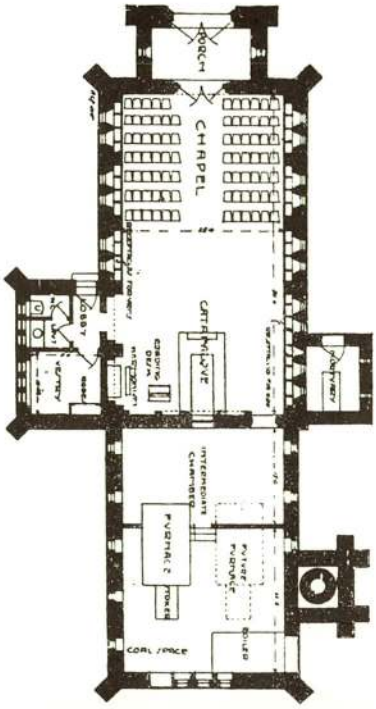


カリフオルニア洲オークランド墓地納骨堂内の陳列棚

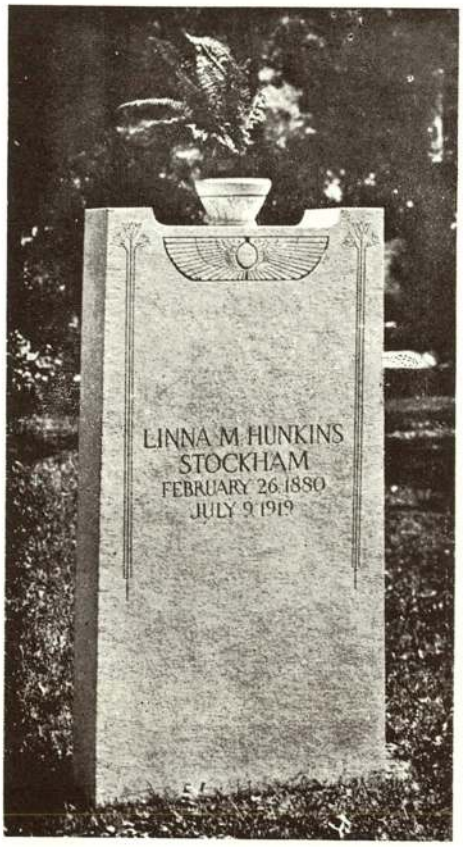




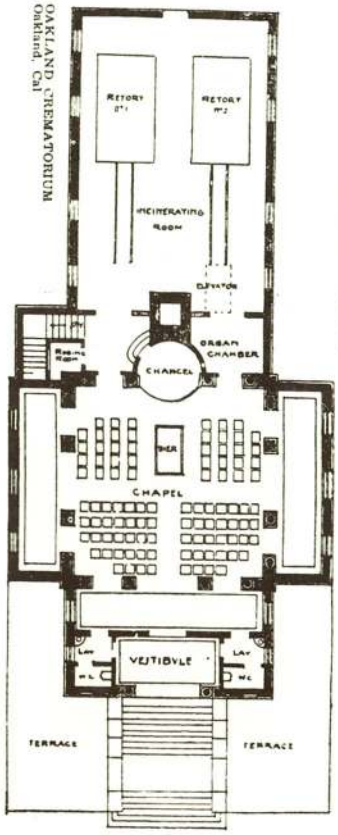
花鉢を持てる紀念碑



英國バーミンガムの墓地火葬場



簡單にして美しい墓碑



オークランド墓地火葬場

約を履行せしむる樣にしてゐるものがあらうか。

若し幸にも此の二つの主要點に就て、永久性が附與されたならば、吾々墓地管理者は、委ねられた任務を受理するけれ共、これがないとすれば、吾々としては、正直に客に對して『我々の生命には限りがあるから、一定の年月を限つてのみ引受ける』と云ふ方が得策かも知れぬ。

ウイスコンシン州の州法では、墓地は各地區の永久管理の爲に管理資金を受理すべき規定がある。即ち

一、墓地の目的を以て土地を所有し、使用する團體は、當該墓地內に於ける地區、墓碑、禮拜堂、等の改良、維持、修理、保存、裝飾等の費用に充つる爲に、各種の寄附金、動産、不動産、或はその收益、若しくはその賣却金等を供託其他の方法に依りて收納し使用すべきものとす。但し當該收納金品の收納、使用は最初寄贈の際に於ける條件、並に墓地管理人の定むる合法的の規定に從ふべきものとす。

二、現金の寄贈にして、その運用法については別段の定めなし、唯其利子を前記の目的に使用すと定められたるものなる時は、係員は米國國債、本州州債、郡債、市町村債、本州の學校區債、若しくは物品擔保貸として投資す。但し此場合に於ける投資額は擔保品の實際價格の五割を超過すべからず。

三、前記目的の爲め贈金、遺贈金等を受理したる團體は、毎年一月二日、文書を以て、當該墓地管轄の州裁判所判事宛資金額及び前記目的の爲に受理したる財產の價格、並に其處理に關する詳細を報告すべきものとす。判事は右精算書を檢查し尙又投資方法或は取得せる抵當物件につき檢查すべきものとす。

四、前記の目的の爲め贈與金、遺贈金並に信託の物件は免稅の特典を有す。永續年金、積立金、永代寄附等の行爲に就ても法の適用を受けざる事亦同じ。

これはウイスコンシン州で各個人がその墓地區の永久管理を依頼する爲に託する資金を法規で擁護する一例である。

次に墓地の管理契約を結ぶに當つて、契約に餘り詳細を規定する事は却つて色々の問題を惹起するから避けなければならぬ。然らざれば現在にありては合理的な規約も、將來の後繼者に對しては、實行不可能な負擔を加へる事になるやも計り難いのである。自分は却つて次の樣に投資者の希望を約定した方が悧巧なやり方ではあるまいかと思ふ。

『地區、墓碑、記念碑等を出來得る限り良好の狀態に保持して行く爲に、前記の地區に使用せらるべき實收入……』とし加へて『若し前記の事業遂行後尙ほ資金に餘裕ある時は、花園に花卉を植へ、之れを栽培しつゝ花瓶に挿花し、或は給水等に使用し或は依頼者の希望に應じ、又は他の特別事務を行ふ』。

尙ほ二つの規則を作つて之を總ての墓地に適用する事は多くの場合不可能で、各墓地は各々自分の問題丈けを實行して行かねばならぬ。重ねて云ふが、私が力說する處は實行不可能の契約は作らない樣に、大に注意せねばならぬと云ふ事である。

『公園、墓地、風景園』誌上で一記者は『永久管理資金投資上の金利は、三分が全率である』と云つてゐる。然し二分利付米國國債がプレミヤム付まで賣れて居るといふ今日三分が

安全率とはあまりに知らない話である。若し墓地資金の投資が米國國債に限られてゐたならば如何にして三分の利を擧げられるだらうか。

最近の話であるが米國の墓地で墓地の財産管理人が、地區永久管理資金を受理する際、年々元金の五分に相當する金額を據出するといふ契約をした。幸にも此の契約の口數は僅少であつて批難は少なかつたが『若しこれが多數であつたならば、數年を經ずして此の墓地の財産管理人達は、先輩の低能さを攻撃したであらう』とは私が過去五十ケ年間に於ける金利漸下の市況から見て考へる所である。

家族、近親が死し或は遠方へ轉居した爲に墓地區内の管理が粗末になつて不體裁の狀態を顯はすことは、まゝある例である。これは明らかに永久管理方法の必要を示すものである。實例を一つ擧げると、或る富豪が自分の墓地區内に、立派な記念碑を建てた、此の人は遺産を慈善事業と子供等に分配し、少しゝ墓地及び記念碑の永久管理の爲めとして殘さなかつた。處が其後子孫等は此の事を忘れて、二萬五千弗の記念碑も徒に草原に圍まれてしまつたのである。尤も蔽ひ茂れる草原のお蔭で、この荒廢した記念碑——即ち墓碑の爲めに財布を拂つてしまつた人の墓——が通行人に見えなくなつたのは或は反つて幸ひかも知れない。茲に於て總ての墓地管理人に、墓地地區所有者に對して永久管理資金の必要を充分に力説して大に宣傳する必要がある。

墓地區購入者は當然『一般準備資金』の問題を全墓地の永久的管理の點から充分、正確に考究し、收益の内出來る丈け多額を此の爲に除いて置かねばならぬ。

ポレストホーム墓地の財産管理人は地區、墓等の賣却收入から地區、墓等の買戻額を控除したる收入の百分の二十を積立としてゐる。尙本墓地の一般收入はこの墓地を經營するに足るものであるから、元金よりの收入利子は毎年之を元金に加算してゐる。

吾々は吾々の墓地を出來丈け美しくしたいと願ふてゐるので、その爲め資金を準備してゐる點を注意して頂きたい。

以上述べた要點を指摘すれば

一、位置及組織を永久的にする事

二、永久管理の爲めの資金を得る事

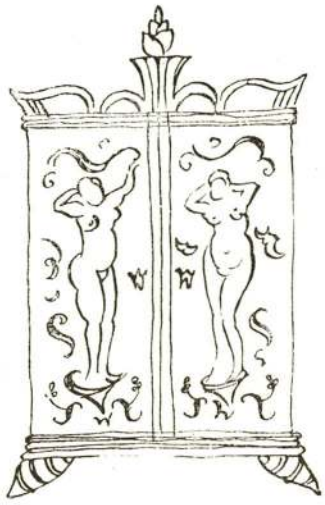
イ、不可能な契約を避ける事

ロ、永久に各地區並に全墓地の美觀維持する事

となる。

以上數回に渉つて說述した現代的墓地園の出現は本邦に於ても恐らく近き將來に見らるゝことであらう。都市改善問題の喧しい今日に於て吾人々類の永久的住居たる塋地の建造に一大革命を要すべきを認め、海外に於ける實狀を引證して卑見を上梓した次第である。

（終り）



應急消火器具について

菅野久一

一、緒言
二、種類
三、管理規論
四、法
五、結

一、緒言

千里の堤も蟻の一穴から崩るがやうに、天を摩する高樓大厦も一粒一片の火から灰燼に歸することが尠くない、諺にも火事は卵の内に消せと戒め、又戰爭は最後の五分間、消防は最初の五分間ともたとへてある通り、出火の初期に於いて其の措置よろしきを得れば、大事を未然によく防止することが出來るのであつて、この目的に副ふものが、即ち應急消火器具である。

そうしてこの應急消火器具とは其の名の示すが如く、出火時に於ける救急的器具の總稱であつて、所謂輕便消火器は固より消火バケツや防火砂桶なども之に該當し、出火の際に於ける其の善用如何は實に大局を支配する鍵であらねばならぬかの『發火當初に於ては僅か一杯の水、一瓶の消火劑も尚五分後に於ける消防隊の活動に劣らざる威力を示すものである』との標語は應急消火器具の全使命を遺憾なく現はして居るといふべきである。

さうであるから、工場、劇場、活動寫眞館、公會堂、學校病院、ホテル、官公署などのやうに其の建物が比較的高大であつて、且つ多人數の集合する場所にはこの應急消火器具を適當に備付けて一朝有事の日に備へることは火災防止上頗る緊要なことであるが、わが國現在の狀況は歐米各國の夫れに比較して應急消火器具の活用が未だ充分でなく半ば裝飾的の觀あるのは甚だ遺憾のことゝ稱せなければならない、之は畢竟ずるにわが國民がこの應急消火器具に關する知識に缺如しそれに對する理解が乏しいのに起因するのであるから、私はこれらの弊を除いて聊か其の進歩發達を促がさんがために各種の文献をあさり、其の得たる所を茲に纏めて大方の士の參

考に供して見やうと思ふのである。

二、種　類

應急消火器具には其の内容、形態、用途などによつて種々の型式がある、例へば四鹽化炭素の如き藥品を用ひたものは勿論其の一種であれば、水を滿したバケツの如きも亦然りであるが、今便宜上、其の内容によつて分類すると、藥品を用ひたるもの、水を用ひたるもの及び土砂鋸屑金屬削屑を用ひたるものとの三種になるのである。

（一）藥品を用ひたるもの

等しく藥品を用ひたものでも、其の藥品の種類によつて無論型式を異にするのであるが、其の最も普通なものは硫曹式である。

（イ）硫曹式

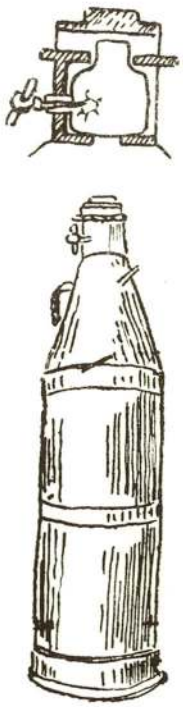
硫曹式消火器と稱するのは鋼、銅又は眞鍮板製圓筒形又は圓錐形の容器に重炭酸曹達（時に炭酸曹達）の水溶液を容れ、別に重炭酸曹達の半量に相當する硫酸（時に鹽酸）を容れたる小容器を其の一方に裝置せられたものであつて、之を使用するには其の容器を轉倒せしむるか、器頭の栓を押壓するか或は器頭の把手を回轉せしむるかによつて硫酸容器を先づ破壞するのである、さうすればこの硫酸と重炭酸曹達液とは直に化合して炭酸瓦斯と硫酸曹達液とが成生し其の炭酸瓦斯の壓力によつて硫酸曹達液を放出するのであつて、頗る輕便有効ではあるが、硫酸が往々吸濕して其の機能の衰へることがあつたり、或は硫酸の酸氣のために容器を腐蝕せしめたりすることがあるばかしでなく、其の放出する硫酸曹達液は電導性であるから電氣裝置の火災に用ふることの出來ない缺點があるのである、尤もこの酸蝕については近頃硫酸容器を鉛製に改造してあるものもあるが、尙茲に特に注意を要することは金屬板製容器の耐壓力であつて、一般にこの種の消火劑によつて發生する炭酸瓦斯の壓力は最小四〇—五〇、最大一〇〇、普通七〇—八〇ポンドであるから、其の安全率を二倍として一五〇—二〇〇ポンドの耐壓試驗に合格したものでなければ往々其の容器の破裂によつて不測の傷害を蒙る虞があるのである、獨逸製『ミニマックス』（第一圖）やわが國の二重瓶消火器（第二圖）などはこの硫曹式に屬するもの丶一種である

（第一圖）



ミニマックス消火器

（イ）把手、（ロ）液噴出口、（ハ）硫酸容器



（ロ）起泡式

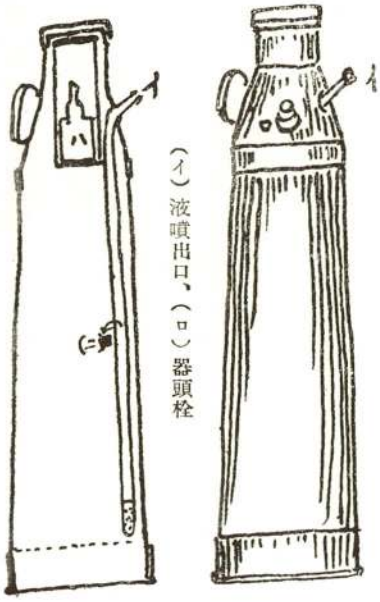
次に起泡劑を使用したる應急消火器がある、英國特許第六三二七號法や米國のフォーマイトなどが之に屬するのであるわが國でもこの種のものが種々の名稱で販賣されて居るが其の内容は何れも大同小異であつてヤマト式防火瓦斯發生機も

其の一種であるが、其の容器は硫曹式と同樣金屬製圓筒が多いのである。

この起泡式消火器には二種の藥劑が塡充されてあつて、其の使用に際しこの兩者を混合せしむれば、强靱な泡沫が多量に發生して燃燒體の表面を被覆し、空氣を遮斷するから鎭火するのであつて、主として油類などの火に對して有效であるが硫曹式と同樣電氣火災に對しては不適當である。

第二圖

二重瓶消火器



今、其の消火劑の調合法を二三示せば次のやうである。

用法

第一種液

硫酸アルミニウム	一二、五〇%
甘草粉末	二、五〇
水	八五、〇〇
第二種液	
重炭酸曹達	八、五〇%
水	九一、五〇

乙法

第一種液	
硫酸アルミニウム	一二、〇〇%
醋酸	〇、五〇
膠	一、〇〇
葡萄糖	〇、二五
水	一〇〇、〇〇
第二種液	
重炭酸曹達	一〇、〇〇分
膠	一、〇〇
葡萄糖	〇、二五
水	一〇〇、〇〇

丙法

第一種液	
硫酸アルミニウム	一〇、〇〇分
硫酸(比重一・七一)	〇、五〇
水	一〇〇、〇〇
第二種液	
重炭酸曹達	七、五〇分
膠末	七、二五
亞砒酸	五、五〇
水	一〇〇、〇〇

これらの調合法の內、甘草や膠は粘着劑となるのであるから、其の代用として椋汁やサポニンなどを用ひて差支がないのである。

この種の消火劑は應急消火器に塡充して奏効するのみでなく、米國の如きは其裝置を擴大して石油槽の消火設備として採用し、わが國でも近來重油槽に漸次設備せられつゝあるのである。

（八）四塩化炭素式

前記の硫曹式消火器の消火原理は燒燃體の冷却作用に依るのであり、泡沫式消火器は空氣の遮斷作用に基くのであつて共に消火の効力はあるけれども、何れも電氣の良導體であるといふ缺點がある、それで冷却、遮斷の兩作用を有し、而かも不電導體である消火劑を使用せる應急消火器の必要が感じられるのであつて、其の要求を滿すべく考案せられたるものが即ち四鹽化炭素式消火器である。

四鹽化炭素を主劑とせる應急消火器としては、バイリン消火器、ウエルドン消火銃、タイシン消火銃、エスエス消火機無敵消火銃などがあつて、あるものは壓搾空氣、あるものは液化炭酸の壓力によつて消火液を噴出せしむるのであるが、この四鹽化炭素といふ藥品は如何なる物質に注いでも腐蝕汚損せず、攝氏零度以下三十八度に於いても凍結の虞なく又永久變質しないが蒸發し易く、加熱すれば原容積の五〇〇倍となり其の蒸氣は不燃性であつて空氣よりも約五倍半重く、且つ不電導性であるから電氣火災は勿論、セルロイド、エーテル、揮發油其の他の石油類の火災に對してもよく效を奏するのである、今試みに遞信省電氣試驗所が曾つてウエルドン消火器の藥液について行つた試驗成績を掲げると次のやうである。

(1)、本品の平均絶緣破壞電壓は電極間距離一五〇（ミル）につき三六七〇〇ヴオルトなり、

(2)、炭素を電極とせる電壓約二〇〇ヴオルト、電流約一二〇アンペア、電極間の距離約四分の一吋の直流電弧の火坑に向つて本品をウエルドン消火銃にて注射したるに電弧は直に消滅せり、

附記

(1)、上記絶緣破壞試驗に使用したる電極は直短徑半吋の金屬及製球なり、

(2)、上記絶緣破壞試驗に使用したる電源は波長率一、四三なる五〇サイクルの交流にして上記電壓は其の實効値なり、

(3)、上記低壓電弧消火試驗に於いて電極間の距離約八分の一以下なる場合に於いては本品を注射するも電弧消滅せず

(4)、本品は淡黄色なり、

かやうに四塩化炭素式消火器は特に電氣裝置の火に對して有効であるが、其の缺點とするところは、四鹽化炭素の揮發性が大きいために僅かな間隙からでも漏洩逸散すること、其の蒸氣に一種異樣の臭氣を伴ふこと、四鹽化炭素そのものは銕の腐蝕性を有すること、四塩化炭素が高價であるために消火器も從つて不廉であることなどである。尤もこの內の銕の腐蝕性を防ぐためには容器にニッケル鍍金を施し、或はクロ、フォルムを添加してあるものもあるが、何れにしてもこれらの缺點を除く方法を講じなければ如何に奏効確實であつても、其の普及は難事であらう。

尙四鹽化炭素に類似したる性能を有する藥品としては四鹽

化アセチレン、臭化メチル等があるのであつて、これらを消火劑として利用せる消火器の出現するの日も遠き將來のことでなからうと思はれるのである。

第三圖



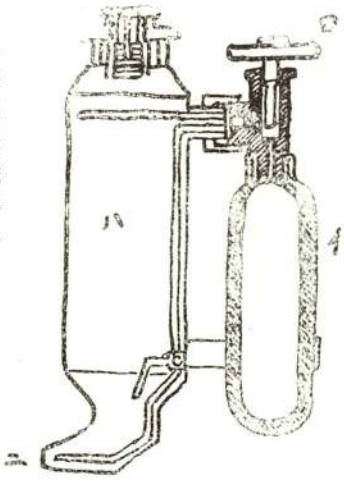
ウエルド消火銃

(二) 瓦斯式

消火の二大原理は燃燒體の冷却と空氣の遮斷であることは前述の通りであるが、壓縮瓦斯及液化瓦斯工業の進歩とともに壓縮又は液化したる不燃性瓦斯、例へば液化炭酸瓦斯液化アムモニア瓦斯、液化塩素瓦斯、液化亞硫酸瓦斯などを消火劑とせる應急消火器が工夫考案せらるゝに至つたのであつて其の一種にトタール式消火器と稱するものがある。

これは並立せる二個の金屬製圓筒の一方に液化炭酸を、他方に重炭酸曹達を各々塡充し、この兩者を連絡せしめたものであつて、液化炭酸容器の栓を開くと、其の壓力によつて重炭酸曹達が射出されて相共に消火作用をなす一方、液化炭酸が氣化する際の吸熱作用と相俟つて効を奏するに至るのである、かやうにこの消火器は甚だ合理的であり且つ實効はあるけれども、其の容器が重きに過ぐるのと、使用後の液化炭酸の補充に不便を感ずる缺點があるのみでなく、一方重炭酸曹達は濕氣を吸收して固結するの虞がある、尤もこれに對しては酸化鉄を混合して重炭酸曹達の固結を防ぐ方法が行はれて居るが、果して長年月の保存に耐ゆるや否や疑問の存するところである。

第四圖



トタール消火器

イ、液化炭酸容器
ロ、同開閉裝置
ハ、消火劑容器
ニ、同噴射孔

(ホ) 粉末式

粉末式消火器と稱するのは、細長い金屬板製圓筒に加熱せらるゝと分解して、炭酸瓦斯　窒素瓦斯、アムモニア瓦斯などの不燃性瓦斯を發散すると共にその殘澤が皮膜狀となつて燃燒體を被覆するやうな藥品を適當に配合して塡充せるものであつて、これに使用せらるゝ主なる藥品は大體次のやうなも

のである。

炭酸曹達、重炭酸曹達、炭酸マグネシウム、炭酸アムモニウム、鹽化アムモニウム、塩化マグネシウム、食鹽、燐酸アムモニウム、燐酸曹達、硼酸アムモニウム、硼酸、硼砂硫酸アムモニウム、酸性硫酸曹達、明礬

この粉末式消火器は一見輕便有効のやうであるが、薬品の配合よろしきを得なかつたり、或は内容薬品が吸濕して固結することがあつたりして一朝有事の時に役立たないことが尠くないのである。

(ハ) 擲彈式

此型式に屬するものには硝子球、或は達磨型、砲彈型などのセルロイド製容器等に或は四鹽化炭素、或は炭酸アムモニウム、塩化アムモニウムの如きアムモニウム鹽類を主成分とせる水溶液を塡充したるものが、其の主なるものであつて、之を火中に投ずれば、硝子球の破壊、セルロイド製容器の燒毀によつて流出する消火液が加熱せられて蒸發し、或は分解して不燃性蒸氣又は瓦斯を發散して消火の目的を達するのであつて甚だ簡單であり、其の効果は絶對的のものでない憾はあるが、家庭に於いて、空瓶などを利用して容易に調製し得るの便があるから、これを備付けて置くことは無きに勝ること萬々である。

今參考のためにこの種の消火液の調合法を云せば次のやうである。

(甲)

水	一〇〇分
硼酸	四〇—六〇
苛性曹達	一五〇—二〇〇
無水炭酸曹達	八〇—一〇〇
炭酸アムモニウム	二〇〇—二八〇

(乙)

塩化曹達(食塩)	二〇ポンド
鹽化アムモニウム	一〇ポンド
水	七ガロン

(二)水を用ひたるもの

水を消火劑として用ひたる應急消火器は比較的原始的のもので有て我が國に於いても古來から使用されて居る天水桶の如きも其の一種であり、其の他消火用に水を盛つたる樽　桶　槽など何れも然りで有が、現在に於いては其の最も輕便なるものとして多くバケツが用ひられて居るのである、この消火用のバケツは炊事用などに流用せられることを防ぐために且つはその認識を容易ならしめるために、或は其の底部に山型の突起を固着せしめ或は其の外部に赤色ペイントを塗布して適當なる場所に懸吊せしむべきである。

第五圖

消火用バケツ



消火用バケツの一種に專賣特許のバケツタンクと稱するものがあるが、これは圖示の如き形狀のものであつて上層のバケツを取上げると自働的に次のバケツが水を充して持上げら

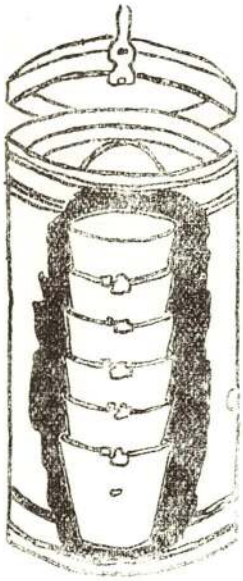
れ順次斯の如くして應急の使用に供せられるのである。

又米國火災業者の規定に依る消火桶と稱するのは亞鉛板製又はズック製のもので、其の容量は十二クォーツ（約七升五合）を標準として居るのである、又ハンドポンプと稱するものもあるが、これらすべて消火劑として水を用ゆるものは冬季の凍結を防ぐためは鹽化カルシウムを溶解せしめ置くことが必要であつて、其の標準は大體次のやうである。

其の地方の氷結點（華氏）	水一ガロンに對する量 ポンド
二十九度	〇、五〇
二十七度	一、〇〇
二十五度	一、二五
二十三度	一、五〇
二十一度	一、七五
十八度	二、〇〇
十四度	二、二五
十度	二、五〇
零度	三、一三
零下八度	三、五〇
同十度	三、六三
同十七度	四、〇〇
同二十度	四、一三
同二十七度	四、五〇
同三十度	四、六〇
同四十度	一〇、〇〇

第六圖

バケツタンク



備考、この表は七十五%の粒狀鹽化カルシウムを標準としたるものである

又、直徑一吋半、長さ五〇呎以下のホースにノッヅルを附けてスタンドパイプのホースバルブに連結したものも應急消火器具として取扱はれることがある。

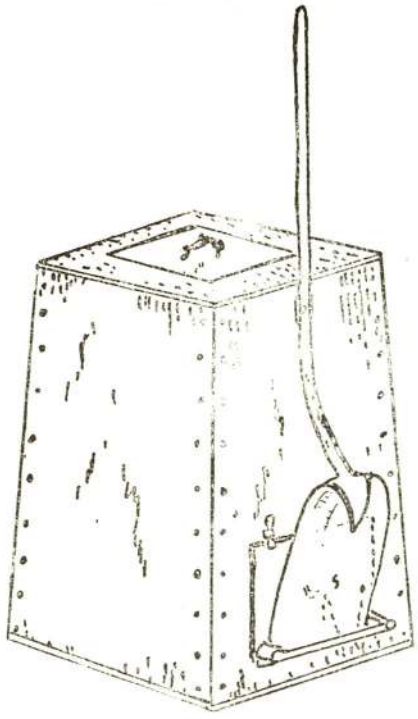
（三）土、砂、金屬削屑、鋸屑等に依るもの土、砂、灰、金屬削屑、鋸屑等を利用せる應急消火器具は多くの場合、他の型式の消火器と併用すべきであつて遮斷法に依つて鎭壓し得る火に對して有効である。

その一種である砂消火桶と稱するものは米國火災保險業者の協定に從へば容量十二クォーツ（我が約七升五合）を標準としてあるのであるが、其の他箱、樽、又は區劃したる一定個所に收容したる砂も無論防火砂として用ひ得られるのであつて雜物の含まない微細な清淨にして且つ乾燥したるものであることを必要とするのである、又細土、灰などもこの目的に供用し得ること勿論であるが、これらに對しては何れもスコップ又はシャベルを備付けて其の使用に便ならしめる必要がある。

鋸屑に重炭酸曹達を二と一の割合で混合したるものは英國の防火委員會の勸奬して居る所であつて、油類などの燃燒し

たときはこれを撒布すると、鋸屑は遮斷物となると共に浮揚劑となつて重炭酸曹達を浮揚せしめこの重炭酸曹達は熱のために分解して不燃性の炭酸瓦斯を發生し、この兩作用が相俟つて消火せしむるに至るのであるが、この鋸屑は塵埃、鉋屑其の他雜物を混ぜざる清淨乾燥せるものを用ひ其の容器は圖示の如き、縱一呎半、横半呎、深さ三呎半の截頭錐形の亞鉛柱又は鋼鐵製のものであつて、其の容量は八ブッシエル（我が一石六斗）である。

第七圖



又、これと同樣の容器に金屬削屑を容れて、非常の際に撒布し燃燒體を被覆消火の用に供するものがあるが、これらに對しては何れも適當なるシャベルを附屬せしむることが必要である。

三、管　理

應急消火器具を備付ける上に於いて最も重要なことは其の管理であつて、管理宜しきを得ない時には一朝有事の日に應急消火器具としての威力を發揮することが出來ないのであるが、我が國に於いては未だ應急消火器具に關する知識が充分普及して居ないから、これを備付けてあつても、其の位置や個數に一定の標準がなく又、其の使用や保存方法に暗いために一種の裝飾物乃至無用の冗物たるの觀あるものが尠くないのである。

然るに米國の如きは一九二二年に火災保險業者が會合して應急消火器具の分布、配置、使用、保存及び檢査方法などに關する規定を申合せて居るのに比較すれば其の差雲泥もたゞならぬものがある、今參考のために其の協定を骨子としてこれらの概略を説明すると次のやうである。

(1)　分布

幾何の室面積に對して幾何容量の如何なる應急消火器を備付くべきかといふことは甚だ肝要なことであるが、其の應急消火器の特質や消火能力及消火すべき火の種類によつて各々相違のあることは勿論である、之に關しては米國の火災保險業者等は先づ、火を三種に分類し、其の第一種は普通の可燃性物に發する火、第二種は少量の發火し易き液體及油脂類に發する火、第三種は電氣裝置に發する火としてこれらの各々に適應すべき應急消火器を定めて居るのであつて第一種の火に對しては水又は多量の水を含有する溶液の冷却作用を必要とするのであるから、硫曹式消火器の如きものを選び、第二種の火に對しては空氣を驅逐せなければならぬから、起泡式消火器の如きものを用ひ、第三種の火に對しては不電導性消火液が最も必要であるから四鹽化炭素式消火器を備へること

に定め、其の單位は各々の消火能力に基いて次のやうな標準を樹てゝ居るのである。

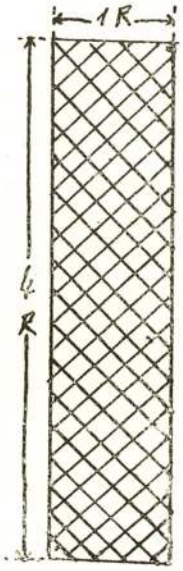
種類	容量	個數
硫曹式消火器	二、五ガロン	一
同	一、五ガロン	二
起泡式消火器	二、五ガロン	一
不凍水消火器（カルシウムクロライド消火器）	二、五ガロン	一
亦消火器（ポンプタンク）	五、〇ガロン	一
同	二、五ガロン	二
バケツタンク（標準消火桶五個附屬）	二二、〇ガロン	一
消火水樽（標準消火桶二個附屬）	五〇、〇ガロン	一
標準消火桶	一二、〇クオーツ	五
起泡式消火桶	一二、〇クオーツ	五
四鹽化炭素式消火器	一、〇クオーツ	二
同	一、五クオーツ	二
防火砂桶	一二、〇クオーツ	五
曹達入鋸屑桶	一二、〇クオーツ	五

さうしてこれらの應急消火器を其の用途に應じて適宜選擇したる後、室、廊下、地下室等をすべて床面積に換算して其の二五〇〇平方呎（我が約七〇坪）に一單位の割合を以て備付けねばならないことになつて居るのである。

(2) 配置

應急消火器の配置についても大に考慮すべきであつて、米國火災保險業者の協定によれば、何處からでも其の設備の最も近い所まで約六間を超えてはならないことに定められて居るが、特に燃燒物が多量にある場合には最も事故を起し易い所に接近して追加設備を爲すべきであつて、其の間隔は二間半を超えてはならないことになつて居るのである。さうして其の備付位置は容易に近づき得て而かも人目に觸れ易き所を選び、出火時には直ちに使用せらるゝ樣に消火器の把手の上端が床面五尺より高からず、二尺よりも低からざる程度に於いて鉤に掛けるか或は棚の上に安置すべきであつて、其の着目標識として左圖の如く、對照鮮明な色で對角斜線を巾一尺長四尺の間に描いたものを用ゆるのも亦一法である。

第八圖



標識板

(3) 保存と檢査

應急消火器具の保存及檢査も重要なる管理法の一であつて單に購入したまゝで備付けて置くだけでは非常の際に役立たないことが尠くない、それであるから常に消火液が有効に保持されてありや、容器に損傷なきや、放出口が閉塞し居らざるや、所定の位置より移動されて居ざるや、又小供などの惡戲に弄ばれしことなきやを時々檢査するの必要がある、さうして年に少くとも一回、出來得れば二回は消火器の効率や損傷をたしかめるために試用して見なければならないのであつて、その際には一般關係者に立會せしめて其の使用法を了解

せしむることは頗る有益である。

さうして其の使用後には完全に消火劑を再充塡して、其の日附及び取扱人の氏名を一定の紙片に記入して消火器に添付し、後日の用に供することも亦必要である、又若し故障のあるものを發見したときは勿論新品と取換へるべきであるが、再充塡に用ゆる消火劑はすべて、其の消火器の製造者から供給したるものを常に手許に保存して置き、隨意に他のものを使用せざるやう注意すべきである。

次に消火器の使用法は其の型式によつて相違があるから、其の各々について豫め熟練して置かなければならないのであるが、一般的にはなるべく火に接近する程効果が多いのであつて、其の標準は大體次のやうである。

型式	間隔(尺)
標準消火桶	一〇
起泡式消火器	五—一〇
〃水消火器(ポンプタンク)	三〇—四〇
硫曹式消火器	三〇—四〇
不凍水消火器(カルシウム、クロライド消火器)	三〇—四〇
四鹽化炭素式消火器	二〇
防火砂桶	極近
曹達入鋸屑消火桶	同

硫曹式又は起泡式消火器の車附のものは五十尺位の距離を適當とされて居る

四、法　令

歐米諸國では應急消火器具の備付を法令で規定せるものは尠くないやうであるが、我が國では未だ其の域に達せず偶々法文に規定があつても單に消火器を備付くべし位のことであるが大阪府危險物品取締規則に於いては其の規定を稍々具體的定められて居るのであつて、其の規則によれば危險物品の貯藏庫、置場、詰換所には消防設備の一種として四鹽化炭素式炭酸瓦斯式又は起泡式の消火器の備付を強制し、其の分布及配置については次のやうな標準を設けてあるのである。

(一)貯藏庫には其の建築面積三十三平方米(約六坪)毎に四鹽化炭素式消火器(容量一ガロン)を一個以上宛若しくは炭酸瓦斯式又は起泡式消火器(容量何れも二、五ガロン)を一個以上宛を、防火用砂は危險物品の貯藏量に應じ、五立方米(〇、八四立坪)乃至百立方米(一六、七立坪)を備付けること

(ロ)置場又は詰換所には前記消火器の何れか一種を一個以上宛、防火用砂は一〇〇立(三、六立方尺)を備付けること尙これらの消火器は年二回以上これを檢査することに定められて居るのである。

次に北米合衆國に於ける應急消火器具關係の法令を摘記して見ると次のやうに多岐多樣に亘つて居るのである。

(イ)ホテル

イダホ州の一九一九年に制定せられたる法令の第一七九七條、ミツソリー州の一九一九年に改正せられた法令第五八七七號、ミシガン州の一九一五年に制定されたる法令第六九三四號、ノースダコタ州の一九一三年の法律第二九八一號、ヴアージニヤ州の一九一九年の法令第一五八七號、ウエストヴアージニア州の法令第六七八三號及びワシントン州の一九二二年の法令第六七八三號などは何れもホテルに備付くべき

急消火器の規定であるが、これによると、何處のどのホテルでも其の床面積二五〇〇平方呎について少くとも一單位の割合で國民火災保險局が證明した効果ある化學的應急消火器を備付けなければならないのであつて、其の位置は寢室外の廊下の便利なる所及待合室とし、何時でも使用し得られるやうにして置くのであるが、その代りに充分な長さのホースを連結した直徑少くとも一吋四分の一のスタンドパイプを各階の廊下に設け、其のパイプには常に充分な壓力を有する水を供給して置くことにしてもよいのである。

(ロ)劇場、集會所及び公衆娯樂場等

ニューヨーク州の公會堂建築法第三三一號第一章によつて劇場にあつては、舞臺の兩側に各々一個宛、舞臺下に一個、棧敷に一箇、衣裳室及物置に各々一箇宛、道具部屋に一箇、更衣室附近に一個、觀覽席の各列に一個宛の二、五ガロン入化學的應急消火器を備付けるのであつて、これらの消火器は目に觸れ易い、又取易い所に置いて、何時でも奏効するやうにし、且つ少くとも年一回は内容藥品を詰換へることを規定されてある。

又、ペンシルヴアニア州の一九二〇年の法令第一〇九一四號の第二章には劇場の舞臺の各側には二個以上の應急消火器及水樽を備付け、これらは何等の障害なく何時でも使用し得られるやうにして置かなければならない規定があるが、尙この外に何れの劇場の舞臺にも四分の一ガロン入の水桶と六ガロン入の金屬製樽とを備付け、これらの桶又は樽はペンキで赤く塗つて火災專用と明記して置かなければならないことになつて居るのである。

公衆娯樂場に於ける應急消火器についてはミシシッピー州一九一七年の法令第四六四〇號、ミツソリー州一九一九年の改正法第一〇九六九號、ノースカロリナ州一九一九年の改正法令第六〇八二號第二章に夫れ〳〵規定されて居るが、それによると、公衆娯樂場には完全な給水設備を設くるか、或は應急消火器を備付け、これらは觀衆の居る間は常に有効ならしめて置くことを必要とするのである。

又活動寫眞館に對してはペンシルヴアニヤ州の一九二〇年に制定された法律第二一六二號に於いて次のやうに規定されて居るのである、どの假設活動寫眞館でも容量四分の一ガロンの有効應急消火器を少くとも一個設置しなければならないのであるが、この規定は一流又は二流の都會では適用しないのである。

(ハ)工場

ミシシッピー州一九一七年の改正法令第六七九〇號は工場に於ける火災避難の規定であるが、これによると工場の各階には應急消火器を豊富に備付けなければならないのである。

又、インヂアナ州の一九二一年に制定した法令第七四四一號は乾式洗濯所に關する規定であつて、この種の場所には特に有効な化學的應急消火器を床面積五〇〇平方呎毎に一個宛備付けることになつて居るのである。

(ニ)交通機關

ニューヨーク州の運搬及乘用自動車に關する法律第二八六號の第二章によれば州道を運轉する定員十名以上の乘合自動車には委員の證明した應急消火器を備付けることに定められてある、又、ミシガン州の一九一五年の法律第七三六八號に

依つて索引機關には總べて應急消火器を備付けることになつて居るのである。

（ホ）鑛山

ミシガン州一九一五年の法律第六九五號には、鑛山では應急消火器を二個宛備付けなければならないことを規定されて居るのである。

其の他ペンシルヴァニア州一九二〇年の法令第一〇九二五條の規定によれば州消防部は建物法に應急消火器を備付けることを強制する規則や條例を改正實施しやうとして居るのであるが、之を要するに應急消火器に關する法令の規定されて居るのは北米合衆國中前記の十二州であつて其の他の州には確然たるものが未だないやうである。

五、結　論

凡そ火災ほど無益の消費になるものは他にあるまい、從つて火災を防遏することは國家の經濟的衰亡を救濟する唯一最善の方策であらねばならぬのであるが、一般世人にして眞に意を茲に致して、所謂消防事業の發達完成に努力するのゝ尠ないことは歐米諸國に比して我が國に於いて特に甚しい觀がある、これは畢竟するにわが國官民が防火思想に乏しく、消火施設や防火施設などの消防事業に理解がないためであるから、將來は上下相率ひて、消防に關する制度、機關、機械器具の學理や技術などの調査研究を試み、其の業蹟を一般に公表するとゝもに必要に應じては法規によつて其の實行を強制すべきである、この意味に於いて應急消火器具の如きも其の型式、規格、管理、法令などの各方面について研究を進め、其の知識の涵養普及に努むべきであるが、一面消火器業者も徒らに同業者の製品を批評し、或は無暴の競爭に沒頭することを避けて、鋭意自家製品の改善進歩を計るべきであつて、既に東京府下に於ける一部の消火業者が相互に和親協同して消火器業の發達を圖り、一面に於いて營業上の弊害を矯正し取引の信用を顯揚し以て各々の利益を保護增進することを目的として一の組合を組織し次のやうな事業を經營して居ることは業界の曉鐘として賞讃に値すべきことであつて其の實行の之に伴はんことを祈る次第である

（イ）研究機關を設け商品の改良を圖ること
（ロ）取引及販賣方法の改善を圖ること
（ハ）販路の擴張に關する攻究をなすこと
（ニ）政府及火災保險業者と密接なる連絡を計ること
（ホ）商品の檢査をなすこと
（ヘ）業務上必要なる調査をなすこと
（ト）取引停止處分をなすこと
（チ）違約處分をなすこと
（リ）仲裁判斷又は調停をなすこと
（ヌ）從業者の保護奬勵をなすこと

因に同組合が實行しつゝある檢査規格を參考のために左に掲げやう。

（一）硫酸（轉倒式）（破壞式）消火器

第一、容器は凡て左の條件に從ひ鍍金を施すこと

（イ）、銅板を材料とするものは內部をハンダ引とすること
（ロ）、銅板を材料とするものは內外部に鉛鍍金を施すこと

第二、容器内の釣瓶は鉛製又は鉛鍍金を施すこと
第三、給水口には必ず硫酸瓶の破片除網を付すること（破壜式）
第四、板金の接續部は一寸三分以内の間隔を有するカシメ鋲留とすること
第五、容器は百五十封度以上の壓力に耐ゆることを要す
第六、需用者が使用上の不注意により生ぜしめたる以外の破損は五ヶ年間無料修理の責任を負ふこと、但しゴム製附屬品はこの限にあらず
第七、藥液は容器の様式により右の期間内保存に耐ゆること
一、破壜式
二、瓶口密閉裝置のもの　一ヶ年
三、瓶口密閉裝置なきもの　六ヶ月
但し藥品を水に溶解せしめずして淡水のみを容れ置く裝置のものはこの限にあらず
（二）泡沫消火器
第一、本消火器に使用する消火劑は左の條件を具備することを要す
（イ）、泡沫發生の方法は左の二種とす
（甲）泡沫消火劑に硫酸を化合せしめて泡沫の生ずるもの
（乙）泡沫消火劑に無害性藥液（無硫酸）を化合せしめて泡沫の生ずるもの
（ロ）、前項の方法により生ずる泡沫は二酸化炭素を含有する濃密なる細泡にして消火器中に於いて八倍以上に膨脹噴出する効果あること
（ハ）、本消火劑は凡て裝藥中沈澱或は結晶を生じ噴出口を閉塞するの危險なきこと
（ニ）、本消火劑は裝藥後一ヶ年以内に變質し爲に消火効力を減失せざること
（ホ）、本消火劑は特に油類脂肪等の液體物發火及普通可燃物の發火に對し有効なる消火力を有すること
（ヘ）、本消火劑は大なる油タンク等の發火に對し消火器を用ひずして特種裝置の二液注入法により完全に消火すべき効力を有すること
第二、本消火器の容器は左の條件を具備することを要す
（イ）、容器の外側は銅板を用ひ板金の接續部は凡てカシメ鋲を施し各鋲の間隔は一寸三分以内たること
（ロ）、容器は百五十封度以上の壓力に耐ゆること
（ハ）誤つて横轉するも直に裝藥が化合して噴出せざる様裝置すること
（ニ）、容器の内部はハンダ鍍金を施すこと
（ホ）、容器内の釣瓶は鉛製又は鉛鍍金とすること
第三、需用者が使用上の不注意により生ぜしめたる以外の故障は供給者に於て五ヶ年間無料修理の責任を負ふこと、但しゴム製附屬品はこの限にあらず
（三）特種四鹽化炭素消火器
第一、本消火器に使用する藥液は左の條件を具備することを要す
（イ）、本藥液は永久不變質性たること
（ロ）、本藥液は攝氏零下三十度以上の寒氣に對し凍結せざること

（ハ）、電氣に對し一〇〇ミルに付二〇〇〇〇〇ボルト以上の絕緣力を有すること

（ニ）　油脂藥品等の水を以て消火し難き特殊性發火に對し有效なる消火力を有すること

（ホ）、金屬に對し酸化作用を與へず且つ一切の物質に對し藥液の爲に腐蝕汚損を來たさゞること

第二、本消火器の容器としては左の條件を具備することを要す

（イ）、空氣貯藏裝置のものは百五十封度以上の壓力に耐ゆること

（ロ）、喞筒裝置のものは軸の間隙より藥液の揮發逃散せざる構造たることを要す

（ハ）、酸化性金屬を材料とする容器の外部は凡て耐酸性塗料又は鍍金を施すこと

第三、需用者が使用上の不注意により生ぜしめたる以外の故障は供給者に於いて五ケ年間無料修理の責任を負ふこと

（四）壓搾式消火器

第一、容器の外側は銅板又は眞鍮板を用ひ板金の接續部は完全なる鋲留とし竪の鋲間隔は五分以內横廻りの鋲間隔は一寸三分以內とすること、但し飾鋲の使用を嚴禁す

第二、鑄物金具の取付は內部より捻締とすること

第三、容器の外側には銅板と同等以上にして一寸以上の幅を有する胴輪を二個所以上取付くること

第四、喞子に用ゆる革片には必ず乾燥を防止する裝置を施すこと

第五、空氣の壓力に對し安全を期する爲調節弁を裝備すること

第六、各部パッキングの取換を容易ならしむる爲、分解裝置となすこと

第七　容器は百五十封度以上の壓力に耐ゆること

第八、需用者が使用上の不注意により生ぜしめたる以外の故障は供給者に於いて五ケ年間無料修理の責任を負ふこと、但しゴム製附屬品はこの限にあらず

（五）喞筒式（水槽付）（無水槽）消火器

第一、水槽付容器の外側は完全なる鋲留とすること

第二、無水槽容器の外側は完全なるハンダ付とすること、但し竪外側鋲は留とすること

第三、使用材料は左の條付によること

（甲）水槽付（六升入）

水槽	銅又は眞鍮	定尺板五〇〇匁以上
空氣筒	同	同　四三〇匁以上
中管	眞鍮	〇、六以上
シリンダー	同	一、三以上

（乙）無水槽

空氣筒	銅又は眞鍮	定尺板五〇〇匁以上
中管	眞鍮	〇、六以上
シリンダー	同	一、四以上

第四、製造上の缺陷により使用に耐へざる場合は無料修理の責任を負ふこと



ウヰーンの市營住宅

中歐の建築界（其三）

上野伊三郎

この家賃稅の收入は、住宅建築の目的に捧げられる可きものであるといふことを、法によつて定められた。

借家人保護法によつて戰前に比し甚低率の家賃を支拂ふことゝなつた借家人はこの法を支持する爲めに家賃稅を拂つて市の建築能力を支持す可きは當然のことであつて、市營住宅をドンドン建築することが出來なければ個人の貸家建築の力に俟たなければ滿足な住宅數を得られない、そうすれば借家人保護法に依る最高家賃の制限を撤廢せなければならなくなることは明かである。

然る時には恐る可き家賃値上げの潮が全市民を襲ふことゝなる。そして市に市營住宅建築の能力がない時には、家賃値上げに對抗すべき力なく、値上げに反抗することは到底不可能となることは明白な事實である。

「大なる公共建築能力を缺く借家人保護法の維持は不可能である」と云ふことが一般人に廣く理解されるに到つた。

一體稅金といふものはどこの國に於てもあまり好んで支拂はれるものではない、稅金によつて成し遂げられる効果、利益といふものを直接に稅金支拂者に知らせることの困難な場合に殊にそうである。

例へば學童を有たない人は良好な學校が建てられることに對して何等興味を有たないようなものである。

然るにこの家賃稅に於ては、この稅を廢止することが、如何に重大な影響を市民に與へるのを痛切に感ぜしめることが出來る。

即此稅は現代の社會的要求に最も適應したものであり、最もよく調和したものであると云へよう。

世界大戰にドイツの捲添へにあつて軍備の大制限を强制せられたオースタリーは宗教家出の大統領ヮイペル氏の時ドン底の國家經濟の狀態を救ふ爲めにもといふ事で儀式に必要な程度の兵隊を殘して軍備制限の條約以上に兵隊を澤くしてしまつたので、軍事上の費用を殆んど全部社會設備に廻すことが出來るようになつたのはまことに結構なことであつた。軍

備撤廢は全世界が同時にやらねば出來ない相談であるが―オーストリーの場合の如きは帝國主義の立場から見ては甚不幸であろうが――軍費を全部社會設備に廻すことが出來たならどんなに住みよい世界になるであろう。

さて、ウキーンのこの計畫に次でオーストリーの國庫よりもその費用の一部を支出すると云ふことになつた。

一九二二年には四つの新築四つの市有住宅の上階繼足し、及開戰當時工事中打捨てゝあつた家を完成することによつて七つの仕事場と三つの商店と六九八戸の住宅を得ることが出來た。

然し之等の努力も大なる住宅難に比してはあまりに貧弱であるので一九二三年二月一日ウキーン市は家賃稅の代りに住宅建築稅と云ふを設け、ウキーン市行政區畫內の建築の目的に使用することゝなつた。

この住宅建築稅の基礎の上に一九二三年に對する住宅建築のプログラムが立てられたが、之は丁度失業緩和事業と合して更に計畫を大にし此年に於ては合計二、二五六の住宅を建築することゝなつた。

同年九月二十一日の決議は一九二四年以後五年間に商店、仕事場を合して毎年五千の住宅及ジードルングを建築することゝなつた、そしてその爲め住宅建築稅も多少增加することゝなつた。

斯くて共同住宅としては

一九二四年	五七六三戸
一九二五年	九三三八戸
一九二六年	八四一二戸

ジードルングとしては

一九二四年	九八七戸
一九二五年	五〇〇戸

計二五、〇〇〇戸の住宅を新築することになつた。

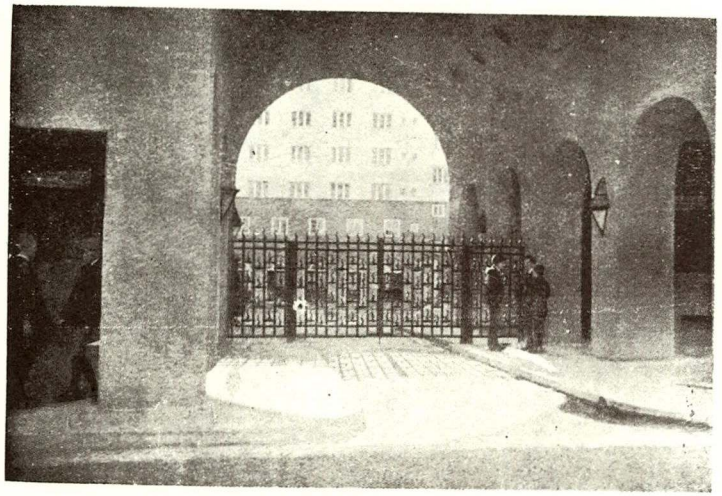
現在既に二萬三千五百戸の新築を了してゐる。（前號第四圖再揭）之等の住宅を平均三人乃至四人によつて使用してゐるものとすれば人口七萬五千乃至十萬の新らしい都市が出來たことゝなるので岡山、新潟位の都市が新築されたことゝなる。

共同住宅の形として新築された市營住宅の一例として、こゝに、フクセンフエルドホーフ（Der Fuchsenfeldhof を擧げてみよう（第四圖□三十一）。此建築は、建築家 Z. V. Schmid 及 H. Aichinger によつて二つの部分にわかたれて計畫せられた。第一部は一九二三年に落成し第二部は間もなく完成することになつてゐる。

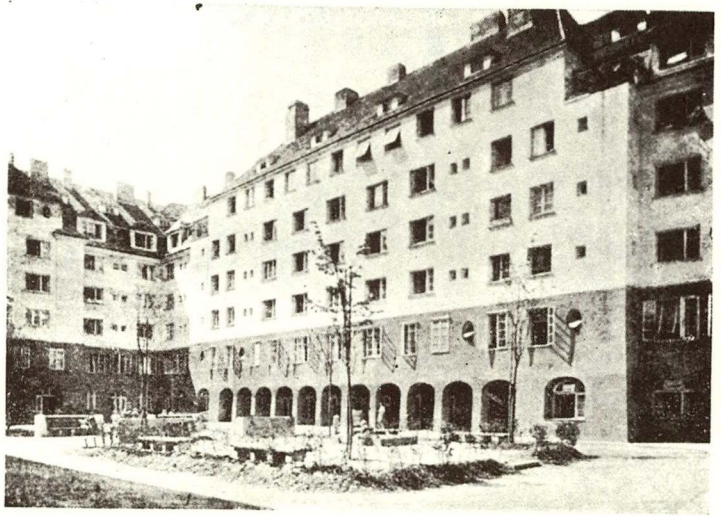
こゝに含まれる住宅の數は二百十一戸と二百六十九戸と合計四百八十戸であつて二十四個の階段室によつて、庭園式に設備せられた中庭と連絡してゐる。第一中庭は一千五百平方米を有し二個の小兒遊戲場を有してゐる。第二中庭は一千二百平方米を有し半地中階に共同洗濯場を設けその屋根上は花園として小さなバビリオンが建てられてゐる。

第三の中庭は一千五百平方米を有しこゝには淺い池を設け冬期には氷を張つて、氷辷り用に供し夏期は水を湛へて小兒の遊戲に供することゝなつてゐるのであつて、周圍にはベンチを廻らし子供に向くような彫像を建て等してある。

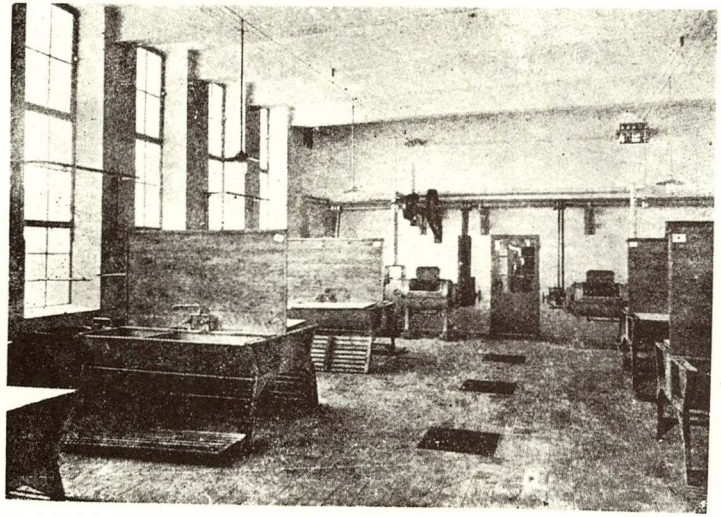
住宅設備はすべて第一に衞生を主眼として計畫せられ直接



第九圖　イイワルヒ街よりの入口



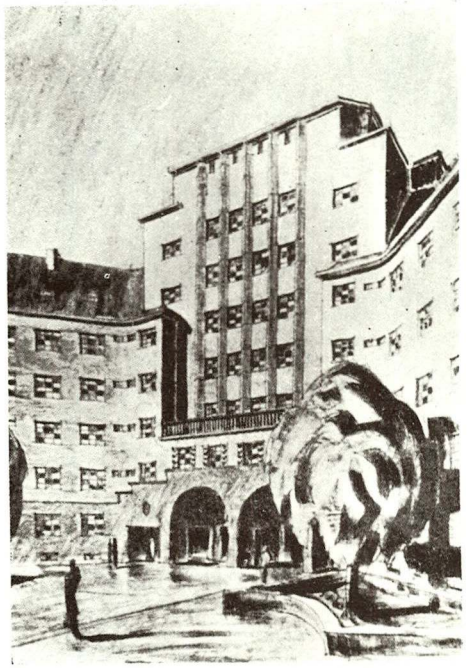
第八圖　第一中庭



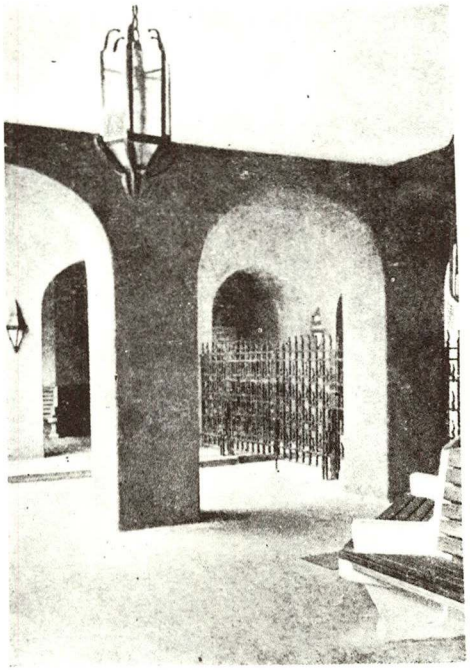
第十二圖　共同洗濯所



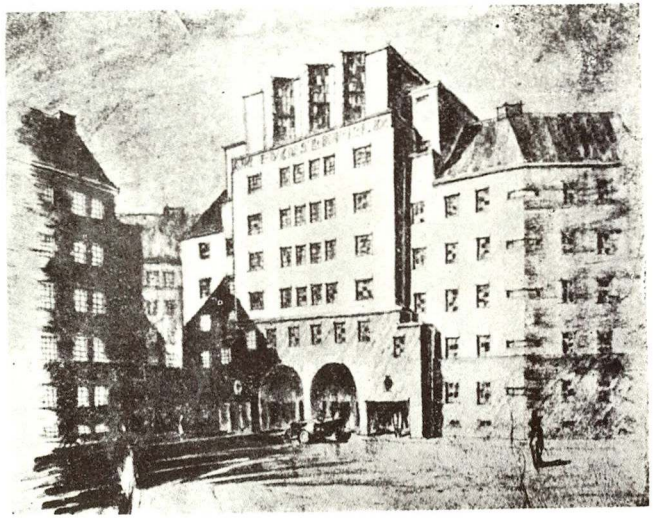
第七圖　炊事居間



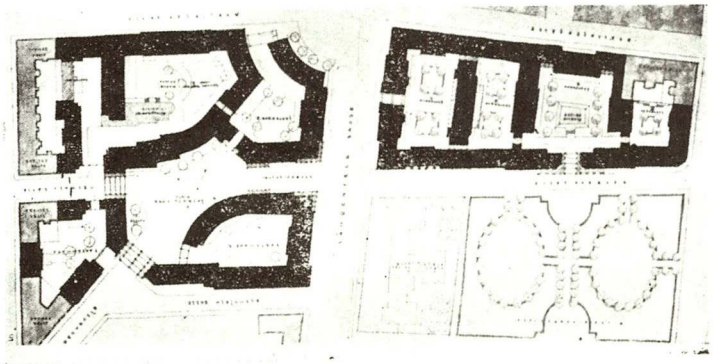
第十三圖　リヤ街入口



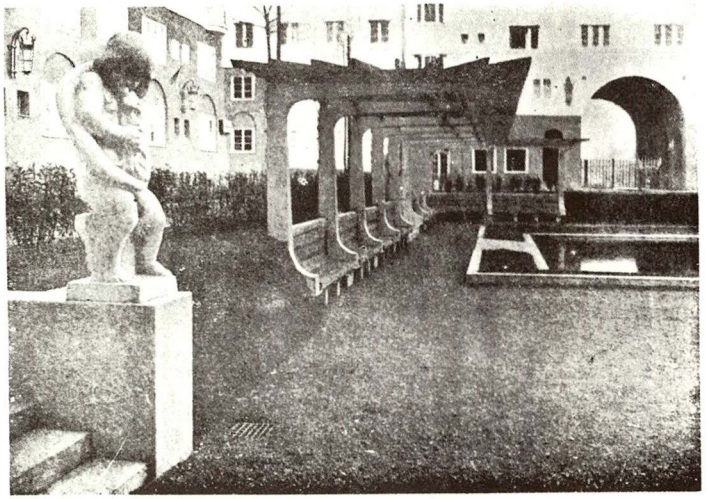
第十圖　イイロル街よりの入口



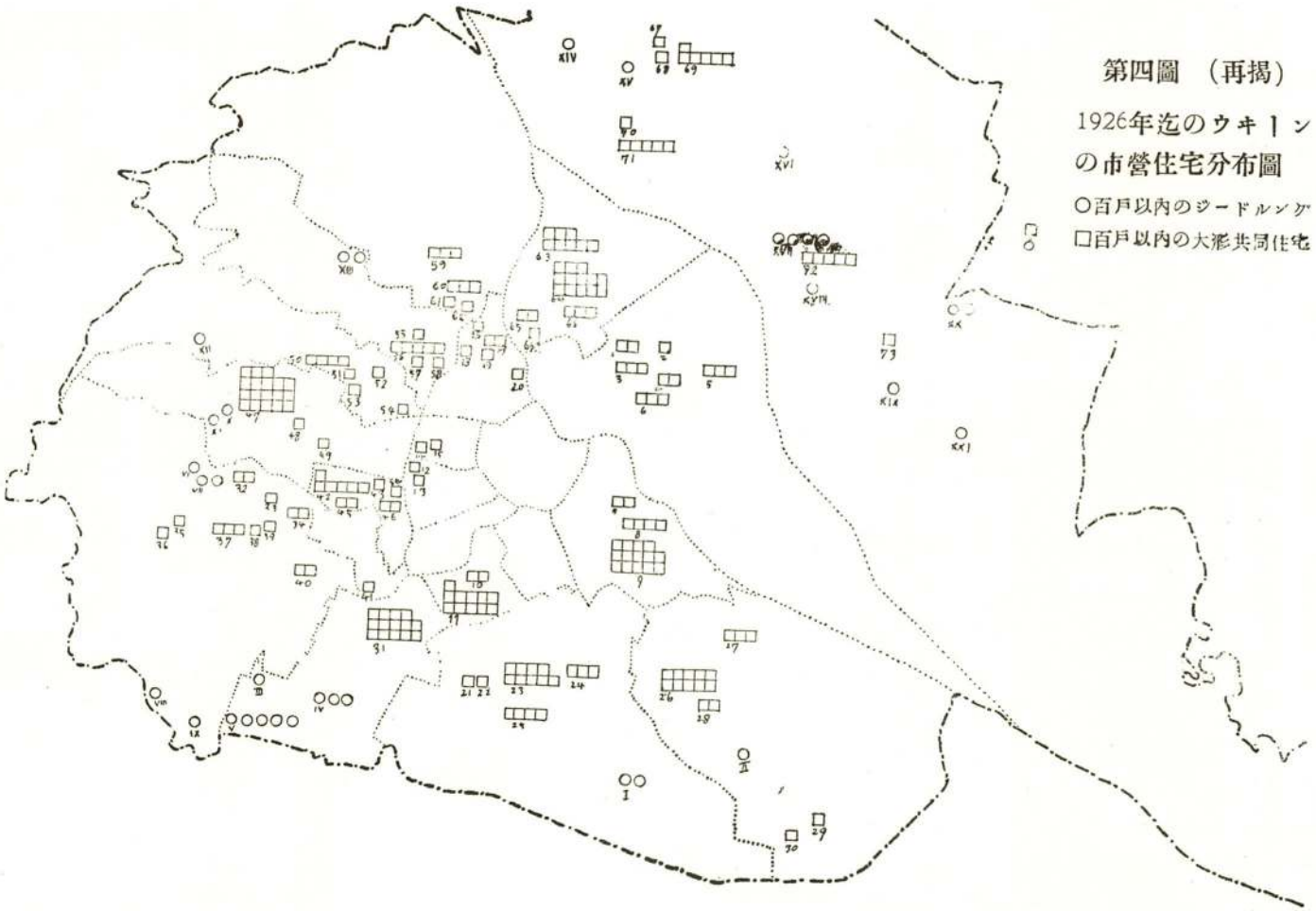
第十四圖　イヤ街入口廣場



第六圖　フクセンフエルドホーフ市營住宅一般配置圖



第十圖　第三中庭



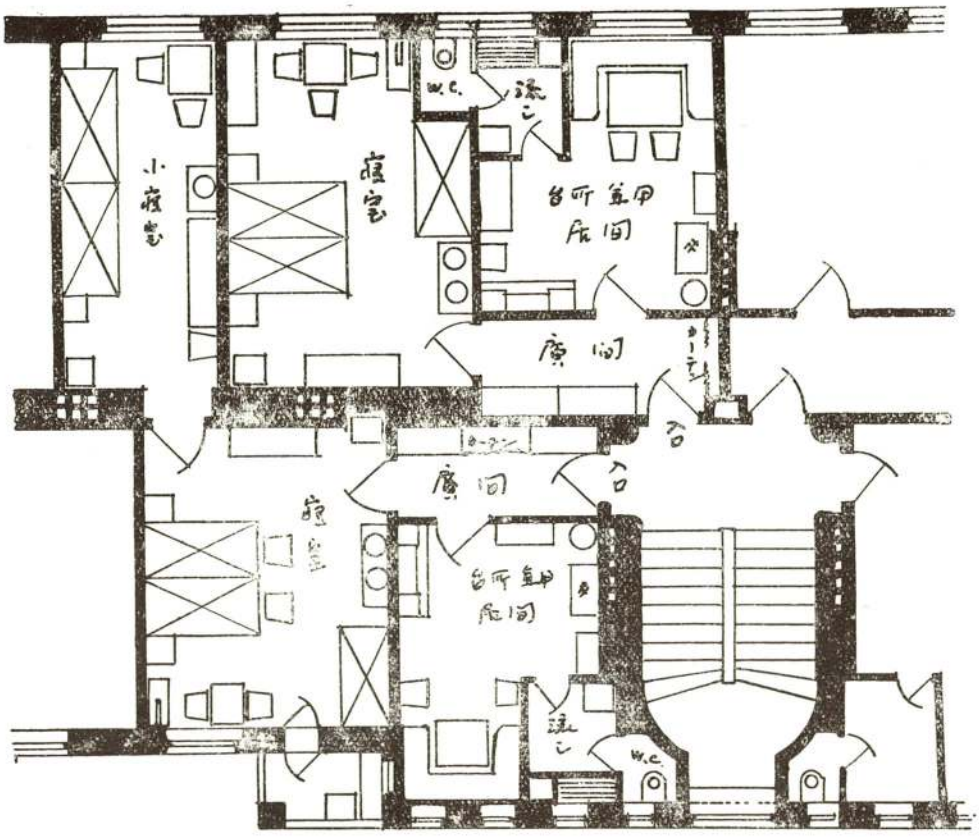
第四圖　（再揭）

1926年迄のウキーンの市營住宅分布圖

○百戸以内のジードルンゲ

□百戸以内の大形共同住宅

第五圖（再揭）



ウーン　アクセンフェルドホーフ市營住宅に於ける
間取りの例

外氣に觸れない室は一つもないように出來てゐる。便所や流し元に到る迄すべてその窓は大きな中庭に面するか道路に面するようにし光庭(Lichthof)は一つも之を設けない。只廣間のみは寒氣及雜音を防ぐ爲めに設けたので意を有しない。（再揭第五圖參照）

炊事場すべて「炊事居間」(Wohnküche)の形をとつてゐる。

廣さ十六乃至二十平方米、窓際には座席ニッセを設け、この机は家庭に於ける食卓となり主婦の仕事机となり、或は學童の豫習復習の勉强机ともなるのである。炊事用としては一個の瓦斯竈があつてすべての料理から皿を煖める用に迄供せられる、すぐそばにある流し場では食料品や食器を洗ふことが出來る。

その傍の便所は無論水洗式であり照明にはすべて電燈を用ゐる。電燈及瓦斯のメートルは階段の一部に小さな押入れを設けメートル檢査員は一々使用者の承諾なくして勝手に之を檢し得ることゝなつてゐる、之が爲めに檢査員の節約し得る時間は可なり大きなものであろう。

此の多くの住宅に對して必要な洗濯場を一々設けてゐては大變なので之を纏めて中央洗濯場を設けてゐる。（第十二圖）

こゝでその住民は洗濯し、乾燥させ、カラ

1等の光澤出し迄も出來るので、洗濯には近代式の蒸汽洗濯設備を有してゐる、水を切る爲めには遠心回轉機を用ひ、乾燥には衣桁樣のものに車をつけた洗濯物掛けを蒸汽乾燥室へ出入せしめるようにしてゐる、二十個の洗濯臺に對して一本の蒸汽罐を使用してゐる。洗濯機や遠心回轉機等はすべて電動力を用ゐて回轉せしめ、各主婦迚が勝手に使用出來るようになつて居り四時間の後には四人の四週間分の洗濯物を仕上げて家庭へ持ち歸ることが出來るようになつてゐる。

この蒸汽罐を利用して地下室に浴室を設備し、婦人浴場は男子浴場と全然隔離されてゐる。

洗濯場使用料はその他の家屋管理用雜費に加算して實費を各家に分擔することゝなつてゐるが、入浴料は各自に回數に應じて支拂ふことゝなつてゐる。

兒童に對する設備としては、遊戲場及池の他に長さ十八米、巾七米、九の小兒收容所がある、こゝには手工室及讀書室の設けもあるので、この讀書室に於てはたゞ讀書するのみならず、學校の宿題等をも靜かに出來るようにするのが目的である。

フクセンフエルドホーフの建物はすべて煉瓦造で一階の高さ三、二米、各階床は鐵筋コンクリート、階段は鐵筋コンクリート人造石仕上げ居間の床は樫板仕上げである、こゝに使用した煉瓦は五、四六四、〇〇〇枚であつて之を一米角の柱とすると二二、四〇〇米の高さとなりモン、ブランの五倍となる。

第五圖から第十四圖迄はすべてフクセンフエルドホーフの市營住宅で、ウキーン市發行のパンフレットによつたものである。

不良住宅

▽ 內務省社會局が計畫中の六大都市不良住宅の改善は、市民も一致の後援をもつてすみやかに實行に着手しなければならぬ問題だ。

▽ 不良住宅は散在的なの、集團的なのとある散在的なのに對しては、濕氣、通風、採光、給水、排水その他の設備並に室數等について衛生上居住適合の最低標準を定め、この標準以下のものすべてを一掃する。

集團的なのは卽ち貧民窟だが、これに對しては、その區域內の土地家屋を買收、または收用し同じ場所、または他の方面に、居住適合の標準にかなつた代償家屋をたてゝ住民を收容する。

▽ イギリス政府發行の衛生年報によると、一九一九年から一九二五年三月末までの間に、六十六の地方自治體が、八十二のスラム整理計畫を提案してゐるが、そのうちにロンドン市プルソム街の面積十一エーカー三百四戸、リヴアプール市の七エーカー五百六十三戸、ブラッドフオード市の十四エーカー六百七十戸などもある。

▽ 不良住宅も、家主にとつては財產の部に屬するが、共同生活團體にとつては負債の部に屬する。家主はそこから家賃をとりあげるが、一般市民はそこから肉體的にも精神的にも危險なバチルスに見舞はれる。

▽ 個人的にはそれは "Wealth" であるが社會には、それは "Illth" である眞に富める。大大阪を建設せんとせばどうしても、マイナス量の不良住宅改善が急務だ。



人形の都市

藤田進一郎

一

産業主義は、『大社會』主義である。『大社會　主義は、大都市主義である。産業主義の發展とともに、産業主義の本來の性質から起つてくる特徴は、そのまゝ『大社會』すなはち大都市の特徴とすることができる。

産業主義は、個人の自由を奪つて、社會の自由を大にする。個人の自由を、その社會との關係において小にするかはりに、社會の自由を、その自然との關係において大にするのである。個人の活動、少くとも、その生活の經濟的部分が、社會の行動もしくはある大きな組織たとへばトラストなどによつて、ます〳〵支配せらるゝやうになるが、これと反對に社會の行動は、生命の保存といつたやうな原始的の必然から、だん〳〵と解放されてゆくのである。

そこで、一方に、個人的情慾は、油のきれた燈火のやうに、だん〳〵とその燃ゆる力を失ひ、藝術とか小説とかを生む衝動がきえてなくなるが、他方に、集合的情慾は、薪に油をそゝぐがごとく、いよ〳〵燃えさかり、國民と國民との戰爭とか、社會の衞生的施設とか、普通教育とか、すべて集團的活動が自由となり、活潑となる。

この産業主義の特徴は、そのまゝすでに、わが國の大都市生活にも、現はれてゐる。個人の行動は、いろ〳〵の有形無形の鎖りにつながれ、田舍に住んでゐるものよりも遙に不自由である。田舍に住むものは、今日でも、なほ自分の作つた米を喰ひ、自分の作つた野菜を喰つて、或る程度までは、自給自足の生活をしてゐるが、また近所合壁が遠いので、少々は無作法なことをしても、夜中に大ごゑを出して怒鳴つても、附近のものから抗議されるやうなこともなく、或る程度までは、周圍からかけはなれた孤立生活をほしいまゝにすることはできるが、大都會の市民はさういふわけにゆかない。しかし、その代りに、共同の事業は田舍よりも遙に發達して、電車もあれば電燈もあり、上水道もあれば、下水道もあり、公園もあれば圖書館もあり、教育上の施

設から、娯樂の機關に至るまで萬事がよく行きとゞいて、田舍の人の思ひもよらない便利な生活をする事ができる。はやり言葉でいへば、大に文化的生活をすることができるのである。

たゞこゝに問題になるのは、個人の自由が奪はれて、それと同程度に社會の自由が大となり、個人的情慾が束縛されるのに反比例して、集合的情慾が解放されるならば、人は、奪はれた個人の自由を社會を通じて奪ひ返し、束縛された個人的情慾を、集合的情慾を通じて滿足せしむることができ、差引失ふところなき抱和狀態に安住することはできるが、こゝに問題となるのは、これまでに至る間の過渡期的現象として、個人がいよ〳〵自由を奪はれるばかりで、社會の自由はその割合に大とならず、個人の活動がいよ〳〵束縛されるばかりで、社會的活動がその割合に解放されず、個人的情慾が、いよ〳〵壓迫されるばかりで、集合的情慾がその割合に滿足されず、個人的に殺ゝながら、社會的に活かすことのできな變則狀態を發生することである。

この點から見れば、現在の大都市は、こと〴〵く皆過渡期の變則狀態にある。日本も、西洋も、少くも變りはない。西洋の都市を見てきたものは、みなその外觀の壯麗なのに驚いて、日本の都市の貧弱さを嗤ふのが常であるが、日本の見學者も、第一流のホテルにとまつて、目貰きの銀座通りや堺筋あたりばかりを歩いてゐずに、ニューヨークや、ロンドンの貧民窟をも見物し、マンチエスターの紡績工場や、デトロイト自動車工場などの職工生活にも親しんできたならば、西洋の都市をもつてわが國の都市を嗤ふのは五十歩をもつて、百歩を嗤ふに等しいことを發見するであらう。西洋の都市は、わが國の都市よりも社會的自由の多く、社會的活動の花々しく、集合的情慾の滿足の大なるは事實であるが、それぱかりに眩惑されて、裏面に、わが國の都市よりも、西洋の都市の方が遙に、個人の自由を奪はるゝこと多く、個人的活動の束縛せらるゝこと甚だしく、個人的情慾も壓迫せらるゝこと激しいことを忘れてはならぬ。

個人的自由と、個人的活動と、個人的情慾とは、盾の一面であり、社會的自由と、社會的活動と、集合的情慾とは、おなじ盾の他面である。丁度一軒の家を觀察するのに、玄關からするのと、裏口からするのと二通りあるやうに、都市の觀察にも、この個人的と社會的との二通りがある。

二

個人的情慾の壓迫、衰退は、何よりもまづ個性の萎縮をきたす。徹底的に產業化された社會にあつては、個人間の區別がはつきりつけられない。アメリカあたりの人間は、どれもこれもみな同じやうである。否、おなじやうでなければならぬと考へられてゐる。仲間はづれの奇行奇言は、非社會的として、猛烈に反對され馬鹿か氣ちがひ扱ひされる。男も女もできるだけ、近所の普通の人間に似たものであり、決して變りものでないことを心がけねばならぬ。どこの國でもさうであるが、私の二年ばかり住んでゐたアメリカの人間などは、特にこの個人の平等化、標準化が極端なやうである。個人のみではない、その衣服、その家、その家具、悉くみな一定の標準の型式に隨つて大量製產されるので、その間に、何等の個性的の相違がない。個人的の趣味、嗜好は全然かげてゐる。中世の職人が、一

々手で作つたのとは、徹頭徹尾趣きがちがつて居る。しかも、この衣服や、家屋や、家具と等しく、人間が、人間自らを一定の標準の型式にあてはめて、人間の大量製産をやらうとしてゐるのである。いはゞ人間の産業化である。人間の規劃統一である。アメリカでやかましい教育上のデモクラシーも結構なことではあるが、その極はかうしてお粗末な人間の大量製産になつて終ふのかと思うと、あまりありがたくも感ぜられない。

かういふ雰圍氣のうちでは、藝術や、ローマンスや、個人的の情慾の情操は、決して榮えない。これは藝術でも、ローマンスでも、個人的情操でも皆一人が、自己のうちに個性の寶玉を保存することゝ、他人が外からこれを認識することゝを意味するからである。藝術やロマンスや個人的情操の榮ねない社會は、何事をもその本來の價値によらず、使用價値によつて評價しようとする。産業主義、すなはち大社會、大都會主義は、『器具を製造する實際的方法の擴張である』といふバートランド・ラッセルの言葉は眞理を道破してゐる。産業的社會においては、人口の大部分は、人間の消費し得べき必要品を製造してはゐない。たゞ他人がそれをもつて、消費商品を製造すべき道具や附屬品を製造してゐるばかりである。この事實は、人々を藝術家たらしむるよりも遙に偉大なる動力で功利主義たらしめる。その製造品が、それ自らにおいて毫も直接の人間的價値を有しないからである。鐵道は旅行するための道具であるに拘はらず、鐵道をつくる人間は、それに乘つて友人を訪問する人間よりも重く見られることになり、書物を讀むものは紙を作るもの、活字を拾ふもの、製本をするもの、目錄を編む圖書館員などよりも遙に輕んぜられることになる。産業化された大社會、大都會の複雜な生活になると人間は目的と手段とを混同しやすい。手段から目的にいたるまでの距離があまりに長くて、目的を全然視野から見うしなひ、生産のみをもつて重要と考へ、質よりも量を尊び、効用よりも機械を重んじ、人間を機械の一部として怪しまなくなる。

イギリスのマンチエスターで或る紡績工場を尋ねたとき、三十五年間、毎日々々同じ仕事をくり返す女工を勤めたといふ婆さんに遇つた。その工場には二千人の職工のうち三十年以上勤續のものが三十人もあるといふことであつた。またアメリカのデトロイト市にあるフォード工場では、一定の時間内は、晝飯どきになつても別に食事の時間といふものをとらず、別の人が職工のポケットへ、菓子や果物やパンを入れてやると、それを働らきながらバクついてゐるのを見た。自動車の出來上りかゝつたのが、一定の速度で、機械の廻轉とともに動いてゆくと、いざり車に乘つた職工が、それにつれて動きながら、鋲をうつたり、窓枠をはめたりしてゐるのを見た。かうなると人間は機械でできないところを補足してゆくやはり機械の一種にすぎないといふ感じがいよ〳〵強くなるのである。

このごろ、この機械化した人間を、そのまゝ舞臺のうへに現はさうとする演劇の一新派が起つてきてゐる。その舞臺裝置はいはゆる構成主義であつて、そのうちに演技する俳優の所作は機械的であり輕業式であり、まるで、からくり人形の動くのとちがはない。機械舞踊といふやうなものもある。かつてニューヨークのセンチュリー座にかゝつて、私も見物した、あるロシヤの俳優一座のだしものゝ

うちに『ウッヅン・ソルヂアース』といふのがあつて大評判になつたことがあつた。それは、活きた俳優が、顔のつくりから服裝までも、木で作つたおもちやの兵隊そつくりそのまゝの格好で、それが軍樂隊の演奏につれて、人形の動くやうに、顏面筋肉一つ動かさず、こくり〳〵と、四角四面な動作で調練をやるのである。その後かういふ一派がだん〳〵と勢力を得つゝある樣子である『世界一の劇場』と誇稱されてゐたスタニスラアフスキーのモスクワ藝術座も、今はあまり振はずそれに代つたメイエルホリドの劇場などでは、盛んにこれを演出し『人間力學』といふ言葉さへも新造されてゐる。人間力學とは、從來は一個の有機體と考へられてゐた社會を、無機物の機械としそのうちの人間をその機械の一部とし、この人間の機械の能率を高めやうとするのである。この說に隨へば、筋肉や腱はピストンやシリンダーである。腦は動力である、神經は調革である。このピストンや、シリンダーや、動力や調革の能率を最大限に發揮するやうに、肉體の訓練をするのが、すべての藝術の使命だと主張するのである。今までは純然たる心の世界のものとされてゐた詩や歌や繪や劇までが、かうして機械の世界へ縛りつけられてしまつたわけである。

イブセンに有名な『人形の家』の作はあるが、現代の大都市は、日本でも、西洋でも、西洋では特に『人形の都市』である。土から離れ、自然美から絶緣され四角な家の立てつめられた大都市は、人間を機械とみる機成派の舞臺裝置に似て『解剖室の死骸のやうに赤裸々』で殺風景である。そこで活動する人間は、みなウッヅン・ソルヂアーズのやうに、ぎこちなくたゞ機械的に動いてゐる。

三

『人形の都市』の住人は、藝術やローマンスを奪はれて、機械的の生活をしてゐるが、しかし、その本能がなくなつたのではない。藝術やローマンスを慕ふ本能はたゞ壓迫されて、表現の機會を與へられず、衝動のながれがたゞ堰きとめられてゐるだけである。本能や衝動は、壓縮された空氣の樣に、あらゆる間隙を求めて放出しやうとしてゐる。動物性、野蠻性を發揮した人間の行爲とも思はれないやうな殘忍な犯罪が、頻々として行はれるのはこれがためである。人間の性は、特にこの大社會、大都會の產業主義時代になつて殘忍刻薄となつたのではない。本能や衝動を壓迫する外からの力がいよ〳〵強くなつたからである。反動は正動に比例する。空氣を壓縮する力が大となればなるほど、その爆發力が激しい。

かうして自ら直接行動をもつて、自己のセンセーションを滿足せしむることの不可能なものは、想像のうちに代理的滿足を求める。感傷的な冒險談や、殺伐な演劇や、殘忍な犯罪が、最も群衆に喜ばれるやうになる。ラッセルはまたその近著『產業文明の前途』のうちに『最も殘酷な方法をもつて、自分の妻を殺した發狂人は、公衆の恩人である』といつてゐるのは、誇張でない。

恐怖の本能も、あまりに壓迫されると進んで恐怖のセンセーションに一種の快感を覺え、これを味はつてみたいといふ氣になる。西洋の大都市の附近のさかり場、又は遊覽場へゆくと、きまつたやうに『空中鐵道』や、『ウイッグル・ウオッグル』や、恐怖のセンセーションを滿足せしむるやうな娛樂のしかけがあり、子供のみならず、大ごもまでも、大入滿

員の有様である。このごろわが國にも、この種のものがそろ〳〵流行しかけてゐる。市岡パラダイスにある廻轉飛行機のやうなのが、それだ。

町の子供等は、よく自動車のあとをおつかけたり、危險と知りつゝわざ〳〵必要もないのに街路を横ぎつて面白がつてゐるなども、要するに恐怖のセンセーションを滿足させたいからである。『大社會』の著者グラハム・ワラスも、夏になつて都會人がアルプスの峻嶮その他山岳旅行にでたがるのは、やはりこれも恐怖の快感を味はんがためだといつてゐる。

かうして『人形の都市』の住人が、その本來の衝動を活かさうとするところにいろ〳〵の文明的犯罪が行はれるのみならず、都市交通上の危險までも增加するのである。これは丁度『人形の家』に住んだノラの生活が、遂にその家庭の破綻をひきおこすやうな心理狀態を日常徐々に不知不識のうちに構成して行つたやうなものである。

『人形の都市』は『人形の家』のやうな運命に早晩導かれてゆかなければならない。それは、正に、構成派の舞臺裝置のうちに演ぜらるゝ人間力學の悲劇である。

都市の犯罪を絶滅するために、警察は法律を勵行する。宗教家は神や佛の教へを說法し、教育家は高壇から倫理道德を放送する。街路の危險を防止するために交通整理の巡査は、警笛をならし、手をあげ、聲を勵まして群衆を制してゐる。しかしそれらは皆結果に對する應急の處置であつて、原因に對する根本治療の方法ではない。

原因に對する根本治療は『人形の都市』をして『人間の都市』たらしめることだ。

人形の家のノラは『妻となる前にまづ人間とならなければならぬ』といつた。『人形の都市』のノラは、市民となる前にまづ人間とならなければならぬ。こゝに都市經營の心理的、精神的背景がある。



淋しい倫敦の日曜日

小川圖南

日本に居りますと、日曜日ほど吾々に取つて樂しい日はありませんが、倫敦では全く之を反對に、日曜日ほど淋しいやな日はありません。

第一に日曜日には凡ての商店が店を閉めますから暢ん氣な事この上もない上に新聞も(日曜新聞は別として)芝居も郵便までもが休みますし、之れに汽車も電車も、乘合自動車も、平日に比較して著しく車輛を減じますので、淋しいのと不便なことは、この上ありません。市中に出て行きましても、居酒屋と小料理屋が明いてゐる外にはあと全部店が閉つてゐるので、買物一つ出來ず、往來を歩いて見ても、至つて人通の少ない、街の四辻で乞食がバイオリンを彈いて居るぐらいで何の興味もなく、さらばと云つて日曜日に店出をするイースト・エンドの猶太人の市に行つて見ても、初めてのうちは物珍らしく感じますが、二度目からは騷々しい許りで面白くも何ともありません。

◇

之れだから吾れ〳〵のやうな下宿住をして居る外國人には、倫敦の日曜日ほど不愉快で遣る瀨のないものはありません殊に英國の惡い癖として、平日は午後の五時に店を明ける酒場までが、日曜日に限つて七時にならないと店を明けませんから、ます〳〵腹が立ちます。

◇

尤も吾れ〳〵でも、倫敦に家庭を有つて、西洋人のやうに親子兄弟と一家團欒の樂を共にすることが出來ましたならば異境の憂さつらさも忘れて心に怡然たるものもありましやうし それでなくとも金に十分の餘裕があつてゴルフの競技に打興ずるとか、美人をつれて海岸に遊びに行くとか、或は短期の旅行者のやうにアチコチと郊外の見物に追廻されて居るやうでしたら、退屈も寂寞も感ずることはないのでありましやうが、私共のやうになまつかじり倫敦を知つてしまい、そうして下宿の一室に閉ぢ籠つて、小面倒臭い英國の地方制度などを調べて居るものに取りましては、讀書に厭きたからとて日曜日には何處にも行く處がなく、唯その邊の公園をうろつき廻つて、居酒屋でウキスキーをあほるより外に何の樂もありませんので、倫敦の日曜日と來ては

いま思出すすら厭になります。

◇

或る佛蘭西の文學者は、倫敦の日曜日は人に強制的の休と、人の意思に反した休を強ゐるものであり、休むこと以外に何事をも爲し得ざる拘禁の日であると云つて不平を鳴らして居りますが、恐らく彼れも私共と同じ境遇にあつた人と思います。

◇

英國人は上下を通じて非常に日曜日を悦びますが、しかし廣い倫敦のうちには私共と同じく非常に日曜日を厭がるものがあります。それは何人かと云へば貧乏人の小供です。彼等は一週六日間は學校に行つて思の儘にワンパクのありたけを盡して遊び廻りますが、日曜日には内にゐて母の内職の手助をしなくてならぬのですから、日曜日は彼等に取つてこの上もない惡日であります。

◇

之に引替へ倫敦の勞働者仲間では、日曜日を矢張彼等の安息日なので、彼等は晝から一杯引かけて大平樂をきめてゐますが、その代り月曜日と來ると、彼等の多くは頸を縮めて戰慄します。なぜなれば毎月曜日には因業な家主が、鞄を下げて家賃を取立に來るからであります。

◇

しかし之れは兎に角、倫敦の日曜日にたゞ一つ私の感じましたのは、英國の社會狀態の變遷であります。私共がまだ高等學校に居ります時分に、アーヴキングのスケッチブックと云ふ本が非常に流行りまして、私共も教科書としてこれを讀まされたのでありますが、そのうちに『倫敦の日曜日』と題する一節がありまして、その當時の倫敦の日曜日の光景を實によく書いてあつたのを今も尙ほ記憶して居ります。

◇

即ち朝教會の鐘が鳴りますと、何處の上流中流の家庭からも夫婦小供、老弱男女が打連れてモロッコ革のバイブルを手に、教會に詰めかけるところを、例の華やかな筆で實に巧に描いて居りますが、そのうちでも女中共が窓越に家族の教會に行くのを見送つてゐると、年頃の若い娘子などが、お化粧の手傳をして呉れた女中の方を振り向いて、點頭きながら微笑を見せるところなどは、取分けて如何にも面白く書いてあります。之れで見ましても日曜日の朝に教會に行くことは、當時英國人に取つて何人も堅く守らなければならぬ社會的不文律でありまして、今日でも老人の話によりますと、昔は朝は勿論のこと、信仰家は晩も必ず教會に行つて説教を聽いたものらしいのです。

◇

ところで今日この美風は殆んど廢れてしまいました。熱心な信仰家の家庭（英國では之をレリジアス・ファミリーと云つてゐますが）は別としまして、いま時の人は日曜日でも餘り教會などに行きません。この頃教會に行くものは、熱心なクリスチャンの外には、大低老人か小供と相場が極つて居ります。昔は日曜日に教會にも行かず、内に引込むで小説を讀むだり、ピアノを彈いたり、或は勝手に外を飛廻るやうなことを非常に良くない事のやうに考へて居つたのでありますが今日ではそれが寧ろ當り前で、年若い青

年男女などは好きな人の顔でも見る時以外には、親が何と云つても嫌がつて教會に行きません。

◇

殊に英國では、日曜日は昔から極めて靜肅な安息日であらなければならぬと云ふ考からして、踊つたりはねたりするのは勿論のこと、教會のオルガン以外には凡ての鳴物、甚しきに至つては口笛を吹くことすらも好くないことであるとせられて居つたほどであつて、一八四二年の七月彼のビスマルクが初めて英國のハルに上陸した時に、口笛を吹いた廉で通行人に尤められ、負けぬ氣の鐵血宰相トウ〳〵肝癪を起して倫敦に來ず、蘇蘭土に行つてしまつたといふ話すら傳られてゐるほどです。

◇

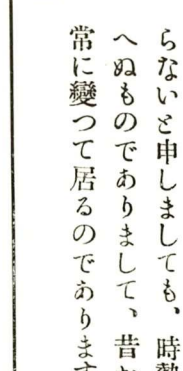
然るに今日は全く昔と違いまして、日曜日でも方々で活動寫眞が盛んに興行せられますのみならず、ウエスト・エンドあたりの料理屋などでは日曜日でも晩餐の時には音樂で興を添へます、富豪の邸宅やアチコチの倶樂部では信仰の薄い男女が抱き合つて盛に踊つて居りますので昔氣質の老人などは世は未になつたといつてこぼして居ります。

◇

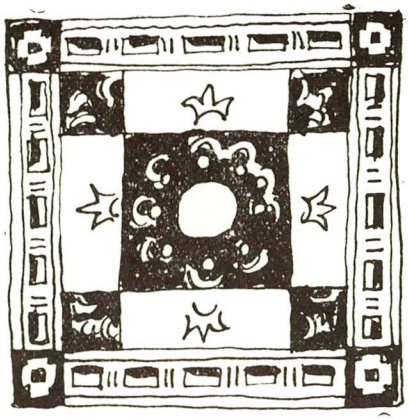
それでありますから、英國はいくら變らないと申しましても、時勢の變遷は爭へぬものでありまして、昔から見れば非常に變つて居るのであります。

直に應用出來る
一坪臺所設計
廣いものより便利

新しい臺所の設計圖の發表があつても、それは常に上流向きの、理想的住宅における廣い臺所の設計に過ぎず、中流以下の狹い臺所には應用出來ませんでした、ソコでこゝは谷純一氏が發表した一坪臺所の新設計を申し上げませう。一坪臺所は、二分して片方を高くして板張りとし、片方を低くしてたゝきにするこ



とは從來と同じです、そして板張りの高い方へ壁よりに蓋のない箱をふせ、その上火氣防ぎと掃除の行きとゞくよう鉛鉛張りにし、この上に七輪を運んで煮焚するのですが、七輪が一個の場合は、このふせ箱を小さくして片方にスミ籠か、又は一斗入り位の米びつを置くときちんとします、たゝきの方は、圖の如く立ち流しを据えますが、この方が主婦の立ち働きや病氣の時や子守り乍らの炊事に便所です。此流しの下を戸棚にして置けば、とつて置きの食料品の貯藏場として、狹い臺所を廣く用ゐるのに適します。流しの片方の三本の渡し棒は、洗ひ物の水切りに使用すると便利で、その流しの上にある蓋づきの棚は新考案です。即ち洗つた器組を入れて、後から牒つぎひの仕組になつた蓋がしまるので、埃の入る心配がありません。これだけ工夫すれば一坪臺所でも廣く使へて却て廣い臺所よりは歩く所がないから能率は上る筈です。



住宅の美學

小野田秀作

1

赤い屋根、青い壁、鋭い屋根の傾斜、不自然な窓のひらき、どこかに誇張され強ゐられたあとの見える不必然な線で圍まれた小さな家、例へば、屋根の線がどこかに神經質的ではあり乍ら、しかもどこかに一向あかぬけのしないぎごちなさがあり、未熟さがあり、その全躰の恰好がいかにもきざである、——もとよりいくらかの刺戟はないことはない、いくらかなフレッシュな感じは確に人に與へそうであり乍ら、しかも大部分は根本的に失敗してゐるとしか考へられない家、——その全部とは言ひきることは控えますが、最近の新しい計畫に依つて建てられ少しでも新しい傾向を有してゐると自推されてゐる多くの所謂新住宅が、大躰に於いてかうした低俗な建築意識に依つて營まれたものであることは否むことは能きません。

もとより、かうした傾向はたゞその外觀的な恰好だけに見えるのではなく、その住宅の基礎的生命であらねばならぬその內部に於いて一層その破綻の度合も多く、その建築思想、延ては生活意慾の貧弱さ低俗さを現はしてゐるのが常です。その部屋毎に置かれた一切のものが、すでに親しく見ずしてどれ位の程度のものであるかゞ大體誤りなく想察されます。住まれてゐる方の趣味的敎養も、その立派に保守してゐられる所謂社會的地位の高さに比しては、失禮乍らあまりにも低きものであるのは、しばしば私達が日常見聞きするところです。

住宅に於ける眞の意味での美といふものが殆んど理解されてゐないばかりではなく、實に多くの場合に於いて誤り考へられ、眞正なる美が不當にもそこにはあまりに慘めに虐壓されてゐるのを、私達はかうした場合にしばしば見るのであります。住宅に於ける美といふものを、せめて常識的な意味に於いてゞも、一應は考へて見たく思ふのであります。

2

言ふまでもなく、建築はあらゆる藝術の綜合されることに依つて、その藝術的完成に意義あらしめやうとする藝術であります。あらゆる藝術の凡ゆる自由なる表現の相が、こゝに各個互に相曳き相寄りあつて、一つの綜合されたる偉いなる精神を表現しやうとするのであります。そこにあるべき美は、もともと綜合の美であります。そこにはあらゆる美の要素が實に雜多な相をとつて一つに抱合され

てゐるわけであります。即ち、美がそこに一つの創造されたる精神、團結させられたる生命となつて、歪なき完全なる表現の相を採るべき筈のものであります。即ち、美はこゝでは生きて動きつゝある積極的なる生命的存在であつて、單なる末稍的な技巧に依つてほしいまゝに左右さるべき表皮のあるかなきかの存在物ではありません。單にその表皮を飾ることに依つて、人の目を一時的には瞞着し、價値なきものが絶對價値あるが如く裝はれ、不當なる地位をこの世界に占めてゐるものもないではありませんが、かうした種類の一切はこゝに言ふところの美ではあり得ません。もともと、美といふものが單なる表皮の深さに止まつてゐるものならば、問題はあまりにも容易に片付きます。美しくするといふことは、飾るといふことゝいかにも同意語に用ゐられてはをりますが、美は普通考へられてゐるやうに單に事物の表皮をいくらかでも感じよく裝ふといふことに依つて存在するのでは決してなく、反つて美は事物の表皮から退いて、うちらに蔭深く潜まうとし、又た事實潜んでゐるものなのであります。多くの低俗なる教養の奴隷である人々が、美をこの世界に發見することが實に困難でもあり、稀れでもあることは、この事實を裏書きして充分なるものであります。私たちが唯輕薄なる態度を採つてあちらこちらと美を探して歩く時美はいかなる事物の表皮にも決して現はれてはをりません。美はもともと發見して初めてその價値を知るべきものであり發見されて益々その光耀を高くする性質のものであります。從つて美の探求といふ言葉はいかにも眞實に美の性質を言ひ得てをります。美は深きに探るべきもので、淺きにあさるべきものではありません。藝術がこの美の表現體である限り、その眞實の價値といふもの、乃至は生命といふものは、藝術の深き内質の中にあるべき筈のもので、單にその皮相の附加物的な存在物であつてはならぬのは言ふまでもないことです。建築がその藝術の綜合體であるとすれば、建築に表現さるべき美といふものが一體如何なるものであるべきかは、こゝに改めて説明する要もあるまいと考へられます。建築が自由なる造形藝術ではないことをあげて、建築に於ける美的象徴にいくらかの功利的な感念からの割引をしやうとする人もないではありませんが、さうだからと言つて、建築が所謂美以外の目的にかたく結び付いた理念を表徴的なる美として表現し得ることは、誰も否むことは能きますまい。建築を藝術ではないと暴論する馬鹿者は今の世にはおそらくはありますまい。しからば、建築を最も高く深き藝術として是認し主張し、純粋なる藝術としてその價値を正當に高く購ひたいものであります。

3

住宅といふものが藝術的表現でなければならぬことは、こゝに多く述べることを挍えます。住宅は人が住むためのものであつて、唯美意識を滿足させやうためのの具ではないとの議論はいかにもまことしやかではあります。しかも、さうだからと言つて、求めてより低い美しからざる住宅の中に平然と住み得る人があるとすれば、疑ひもなくその人は美感の頽廢者とでもいふべき哀れむべき不具者であつて、藝術を論議する資格のないものです。自己の生活を美しくしやうとの要求もなく生き得る人は、いかにも奇妙な不思議な生存者であるといはなければなり

ません。所謂實用物であるからとて、そのものから美を無視し去らうとする者は實用物であるが故にその生命を拒否し去らうとすると同じです。美が所謂實用物ではないとの觀念は、生命が實用物ではないとの觀念と同じものです。住宅から美を削除し去らうとする者は、美しく生きたいと希ふ自らの內心の必然の要求を愚かにも拒むものであると言はなければなりません。

從つて、住宅を美なるものとして意識しやう、藝術なるものとして觀念しやうとするには、必ず、自らの生活を美しくしやうとの希求から惹起さるべき筈のものであります。よき住宅の居住者はよき生活者であると言ふよりも、よき生活者はよき住宅の居住者たり得るものであると言はなければなりません。もともと、生活を美しくするといふことには大體二つの意味があるとされてゐます。其一つは、即ち、生活以外に美の標準を求め生活をそれに適合させて美化してゆかうとすると態度であります。即ち生活を藝術化しやういふのであつて、生活以外の藝術にその生活を能きるだけ似せやうとする氣持が主となつてをります。今一つは即ち、美の標準を前者の如く生活以外に求めやうとはせず、むしろその美をその生活そのものゝうちに見出さうとする態度であります。即ち生活がすぐそのまゝ藝術であるべきだとの考へ方で、生活活動をそのまゝ美的活動としやうとする氣持を主とするものであります。眞實なる生活價値が、この場合の後者にあるべきはもとよりのことであります。美を單なる既成の低俗なる觀念の奴隷とせざらんことを先づ考慮すべきであります。「美とは宇宙の創造的精神の表現である」とラスキンは申してをります。美がすぐそのまゝ生活となり、生活がそのまゝ藝術となり得ないやうでは、美を語り藝術を論ずる資格はないと申さなければなりません。美が象徴しやうとするものが即ちその生活であり、生活の表現しやうとするところのものが即ち美であることこそを望むべきであります。——よき住宅がよき生活意慾から出發せなければならぬことはむしろ當然のことであります。

4

そのいかにも驚異的であり、藝術的であり、魅力的であることに依つて時の世人を驚嘆させたかのモリスの有名な「紅い家」は、一見その設計はいかにも不規則に見ねたが、又いかにも大膽なる住宅革新であつたと言はれてをります。もともと、非常に高い生活的理念によつて設計されたものでありますから、その如何にも立派であり、嶄新であり、高貴であつたかゞ想像されます。しかも、その設備の一切が決して世に言ふところの贅澤でもつて、愚かしくも飾りつけられてなかつたことは、彼の日常のはつきりした主張に依つて明らかであります。彼の住宅に對する理想は、即ち同時にその生活に對する理想であつて、專ら、「簡易」といふことにその重心を置いてをります。生活は簡易にすることに依つて眞實に近づき、藝術は簡易になることに依つて益々美の眞髓に徹し得るものであるとの主張は、終生彼の捧持して變えなかつたところのものであります。從つて、彼の住宅に對してもつてゐた理想といふものも極めて簡易なものであつて、例へば、住宅內の種々なる必要なるべき調度品すら極めて簡易なるものでもつて滿足さるべきを說いてをります。即ち彼が全き生活をなさんための必需なる調度品として列

擧したものは、澤山の立派な書籍の一杯入つた書架一つ、しつかりした書きもの机一つ、動かすことの能きる椅子、座つたり眠つたり能きる長椅子、抽出しつきのよい食器戸棚、若し書架や食器戸棚が美しくなければ、それに綾をつけるために壁の上に彫刻乃至は繪等をかけ、挿花瓶、それから冬のためのだんろ、尙その上その好みに依つてピアノ、等にしかすぎません。今なら或は蓄音機、ラヂオ等もついでにあげたかも知れませんが、それにしましても、人生五十年間の必需品としては極めて少いものであります。しかもよく〳〵考へて見ますなら、全く私たちの日常生活に於いては、以上のものだけで、實にかげなく充分だといふことがよく〳〵了解能きるのであります。しからば、これに準ずる住宅が、いかに簡素なものであつて充分であるかゞ見當がつくのであります。よき住宅といふ意味が、贅澤な、氣取つた、どこかに安つぽい感じを與へる住宅であるものゝ如く現在は思はれてをります。この考へ方の取るに足らない謬見であるのは、改めて論議するまでもないことであります。モリスは古代人のかの有名な贅澤が現在の私たちのとは似もつかぬものであつたことを指摘し、所謂贅澤な時代のギリシヤ人ローマ人も今日の中產階級の安慰な生活振りを見るなら、多分その贅澤な生活振りに驚くであらうといふ意味の事を言つてをります。藝術は富の奴隷ではありません。金銀を山積して藝術的精神なき作品は、どこまでもやくざな作品であります。藝術に於いては所謂「金目のかゝつたもの」程生命のない劣惡なものとなるのが例であります。藝術は又「金目のかゝつたもの」ではないと同じく、機械的な勞苦に依つて作りあげらるべきものではありません。藝術は熟練に依つてその成功をかち得べき種類のものではありません。從つて、所謂成金輩の金持家が多くは見るに耐えない醜俗なものであり世慣れた請負師の請負つたもの、小才のきく設計家の設計しに住宅が多くはあかぬけのしない一種低い常識規範にはまり込んでしまつてゐて、そこに新鮮にして正純なる趣味の動きといふものが見出せないのは理の當然であります。藝術の根底となるべき思想は、與へられたる素材を與へられたるまゝに、如何に精神的に如何に必至に、如何に全的に生かすかといふことにのみ懸つてをるべきであります。僅か一千圓でもつてものされた所謂安普請も、その建築家の作家的良心に依つて如何程にでも、美しく、藝術的に製作し得らるべき筈のものであります。その藝術的光輝を見せるのではなく、唯その「金目」を見せ、「熟練」を誇らねばならぬ住宅は、實に禍ひであると言はねばなりません。

5

美感は必至的直即的なものであります如何に暴力でもつて強ゐられ、脅迫され又反對に如何にもちあげられても、美しくないものを美しいとし、美しいものを醜いとして抗辯することは能きません。美への慾望は制え得ても、美感は外的の暴力で以つて奪ふことの能きないものであります。住宅を斯る必至の希ひでもつて建てたいものであります。美の本性は能きるだけ簡素であり自然のまゝにあるべきことであります。如何なる人工の美も、一旦自然の懐より切り離されてはすでに永遠の生命を奪はれてしまひます。自然にかへること、即ち、美を發見することであります。住宅が能きるだけ簡素

な形式に依つて如何にもわざとらしくなく建てられたいものであります。美は主観の表現であります。従つて、その活動はいかにも自由であり、躍進的であり、積極的であり、創造的であります。瞭然たる主観の確立なくして、美の發展はあり得ません。主観の伸長するところ、そこに美の勝利があります。住宅があくまでもその作者の主観に依つて色濃く保たれたいものであります。誰の住宅だかわからない住宅に、自らの個性を踏みつけ虐げて生きてゆくといふことは、想像したゞけでも滑稽なものであります。

美はあくまでも創造さるべきものであります。既成の凡ゆる観念を先づ打破し、そこに健全な自己の主観を確立すべきものであります。美への活潑なる憧憬、聰明なる理解が求められなければなりません。藝術を生長せしむるにあくまで豊富な精神活動がなければなりません。藝術を育むものは結局藝術家その人です。その作品がその人の一切の喜びを代辯しないやうではなりません。

住宅を美しくすることは、従つて、極めて簡單な方法に依つてその目的を充分達し得べきものです。即ちその住宅の建設者、或は居住者自ら、自身を眞の藝術家として先づ發見することであります。一切の出發はそこからです。生活の美を充分理解し得ないで、住宅の美を論議することは到底不可能な話であります。生活の眞諦は簡易生活にあります。住宅の美が極めて簡素な建築の中にあるべきはもとよりの話であります。住宅に何を附加すべきかより、先づ何を削り取るべきかを考へなければなりません。贅澤は美の世界に於いては最もつゝしむべきものであります。贅澤には嬌爛目を奪ふ刺戟はありますが、正純なる個性の輝きといふべきものがありません。個性を、少くとも自らの人生觀を、其住宅に表現し得ないやうでは、自身の家として一個獨立したる住宅の持主となる資格はないものと言はなければなりません。——先づ、自らがよき生活者とならなければなりません。

住宅を新しき時代の新しき大衆の藝術としたいものです。大衆の生活意識を先づ藝術へまで開眼し、指導すべき筈のものであります。——「紅い家」のあのすばらしき成功は、疑ひもなく、かのモリスその人の人格の成功であります。

長柄共同宿泊所及有隣小學校工事概要

市立長柄共同宿泊所

本市は單身勞働者のために低廉にして清楚なる宿泊所を提供すべく大正八年中今宮、西野田、鶴町の三ヶ所に共同宿泊所を開設したる處、爾後數年間に於ける利用の實狀に鑑み更に稍大規模のもの二ヶ所を增設するの計畫を樹て、大正十四年二月二十三日市會の決議を經たり本宿泊所は右增設計畫の一にして、其の構造は鐵筋混凝土造三階建寢臺式とし、食堂、理髮所及人事相談所を附設す。食堂は宿泊者のみならず一般公衆の需に應ずることゝせり。宿泊所の構造及設備の概要左の如し。

名稱 市立長柄共同宿泊所

位置 東淀川區北長柄町三九一地

敷地坪數 六百九十一坪四合一勺

構造 鐵筋混凝土造外部人造石及モルタル塗內部主要間仕切耐火構造にして三階建屋上に塔家を設け寢室は悉く寢臺式とす

建坪 延五百七十四坪

一階 一八六坪七合
二階 一八六坪七合
三階 一八六坪七合
塔家 一四坪

創設費 二拾萬七千圓

內譯

用地費	四二、五〇〇圓
建築費	一一一、一一二圓
調辦費	三七、二一〇圓
雜費	一六、一七八圓

起工 大正十四年四月二十一日

竣工 大正十五年二月二十一日

宿泊定員 四百八十名

宿泊料 一泊(入浴料を含む)十七錢

食事 朝、十二錢　晝、夕各十五錢

寢室其他坪數

寢室	二〇一坪三
讀書室	一六坪五
集會及娛樂室	二五坪
食堂	二三坪九
厨房	二八坪二五
理髮室	五坪八
浴室	七坪五
洗面所及便所	一九坪五
屋上塔家	一四坪
屋上運動場	一七二坪

事業開始 大正十五年二月二十五日

設計 市營繕課

請負 松村組

有隣小學校

位置 大阪市浪速區榮町四丁目十番地

樣式 東洋風を加味したる近世式

構造 鐵筋混凝土造三階建
但附屬家は木造平家建

敷地面積 五〇〇坪

建築面積 一九八坪六三

延坪 四〇二坪六三

一階	一〇四坪六三
二階	一〇二坪
三階	一〇二坪
附屬木造家	九四坪

建築費 凡六七、〇〇〇圓

附帶工事費 凡八、五〇〇圓

起工 大正十四年九月一日

竣工 大正十五年二月二十三日

設計監督 大阪市營繕課

建築工事施工 大林組



俳壇

清涼飲料水

葉柳

選者　舟渓

葉柳暮れて灯の數の河口かな　鯉子
葉柳と共に暮れたる瀬音哉　同
葉柳に一ト日かゝるや麥埃　同
葉柳に川あるべしと思ひけり　同
誘はれて鳴ける蛙や夏柳　未乾子
石垣にそふ小蒸汽や夏柳　同
夏帶の脊高女や岸柳　同
宵闇に網伏せる音や夏柳　同
町角に在る古倉や夏柳　栄辻
派出所（二句）
白服となりし巡査や夏柳　同
葉柳に揺なぶられつ道問ふ女　同
此あたりや藥屋多き夏柳　同
葉柳の泥にしたゝる出水哉　石甫
葉柳に田舟つなぎぬ雨の中　同
葉柳に物乾す女吹れ居り　同
葉柳を洩るゝ灯や雨の河岸　紫波
葉柳や開け放したる船料理　同
傘ゆけば葉柳の灯ゆらぎけり　同
棧シの下ゆく水や夏柳　恒堂
水に垂れて葉柳夕間影りけり　同
陶令になぞらへ住みぬ夏柳　香流
霽れてなほ黄濁る水や夏柳　同
燕疾し今霽れて河岸の夏柳　さかゑ
葉柳に笠ぬいで釣りゐたりけり　同
ボート過ぎて葉柳の影亂しけり　治伸
葉柳やガラス戸に雨吹つくる　同
風の葉柳崖に影動きたる　月雨
風凄や葉柳に月の影もなき　同
青空に浮ける端雲や夏柳　夏苦人
夏柳沖の方へと吹つくる　同
夏柳河霑引いて暮れにけり　蕃椒
葉柳や青き灯の町となり　同
石苔の吹井の水や夏柳　關山

清涼飲料

海峡にきらめく月やビール飲む　未乾子
サイダーに賑ふ卓や花火の夜　同
月高くなりてビールのにがさ哉　同
夜瀧の灯にうく顔やソーダ水　同
激つ瀬にサイダひたすや竹の籠　石甫
サイダーや美目の前に泡はぜる　同
南洋を語りてふけぬビールの灯　同
シトロンに浴後の窓の雨佗し　月雨
山宿を佗びてラムネに椽の涼　同
戀語りビールカップを溢れたり　同
青葉影カップにうつるビール哉　治伸
ビール腹廣芝の月歩きけり　同
青き灯に泡立つ卓のビール哉　同
勝馬にぬくシャンペンや草の上　紫波
瀧壺のビールあげてきぬ盆の上　同
庭の木に月のぼりきぬビール拔く　恒堂
月あかりに人ゐず椽のサイダ哉　同
吸藥の黄に薄紅きソーダ哉　栄辻
泡走るタンサン水や色カップ　同
馬おりてラムネのむ例の茶店哉　さかゑ
井戸冷し妻あげて來しビール哉　香流
ひたし桶金魚流がしラムネ壜　半古

續々投句を望む

◆課題　『五月雨』（梅雨、つゆ、『螢』各五句まで、別紙に認むる事
◆期日　七月二十日
◆發表　八月の本誌上
◆届先　大阪市堂島ビルデイング三階日本建築協會

俳話

松おち葉

溪舟

◎最初に云つておきたい事は、元月の誌上にのせた課題中「早柳」とあつたのは誤植であつた「葉柳」こゝに訂正しておく。

◎「清涼飲料」の方は、割合にむづかしかつたと見えて佳句に乏しかつた、しかし未乾子君のは粒が揃つてゐてよいと思つた、石甫君のもわるくはなかつたが、原句の「サイダーの泡ばぜる音をきゐたり」とあつたのを「サイダーや美目の前に泡はぜる」と訂した。原句でたまとまつてゐるには相違ないが、ただそれ丈けのことを寫實したにすぎぬ。殊に泡のはぜるのをきいてゐるといふ事は、美的鑑賞としても餘り高いものではない。しかし訂句も何うかするとイヤミに墮しはせぬかといふ處れがある、自分ながらこれは自信をもたぬ。

◎治伸君の「青葉影カップにうつるビール哉」は原句「夏山やコップにうつる木陰哉」である。コップだけでは清涼飲料にはなかるまいと思はれる。柴辻君の「吸葉の黄に紅薄きソーダ哉」は原句「麥葉に冷たき息やソーダ水」である。麥葉に冷たき息とは云ひ廻しか妙でない。つまり麥葉でのんでゐると冷たい息が……といふ意味であらうけれど、それでは言葉が少ない。

◎葉柳では紫波君の「葉柳に簾越しの灯や船料理」と訂しかつた、料理を商ひにしてゐる船を料理船とは云はぬやうである——苦しい云ひやうであることを免れない。却つて船料理と代名詞で呼ぶ方がよいと思ふ。開け放ち、も實際は何うあらうか。さういふ場合は大てい、物食ふ光景を紛らすために簾などをつついてあるのが普通のやうである。しかし、字面や感じの上からいふと、開け放したるといふ方がカラリとして氣持がよい。

◎香流君の「陶令になぞらへ住みぬ夏柳」は原句「陶令に模倣の庵や夏柳」、陶令は五柳先生、柳を植えて幽居してゐた淵明の事、句の中の「庵」が陶令に模倣しにものか、柳があるために「庵」が模倣になつたのか意味が不明である。多分柳があるために庵が陶淵明の家居らしい氣分であるといふのであらうが、それでは言葉が不十分である。殊に「模倣」はキユクツであると思ふ但しいづれにしても、この柳は春の柳でないと、何うも淵明らしい氣分が出てこない、夏柳では少々モツサリであるを免れぬ。

×

◎賴山陽は誰でも知つてゐる日本外史の著者で有名な詩人であるが、性來大の俳句ぎらひで俳人をボロクソにこき卸し、俳諧は馬丁走卒の遊戯だと罵つてゐたその頃の俳人蒼虬の妻は山陽の緣びきの者であつたが山陽は例の俳人ぎらひから蒼虬の事なども口を極めて蔑んでゐた、ところがある日、山陽は何か缺かされぬ用事があつて蒼虬の許へいつたが、折から蒼虬は不在だつたので、ツカツカと彼の室へハイつていつてみると、机の上に一葉の短册がある、見るともなしに見ると

御幸すんで松風音をかへす也　蒼虬

とあつた。これは此日天子の行幸があつたのを、蒼虬が拜觀してそれを詠んだものである。

◎それを見ると山陽は非常に感服してしまつて「俳句も佳いものはヤハリ佳い」といつて、以後は餘り俳人をバカにしなくなつたさうである。

◎行幸の御行列は神々しい、御道筋は如何なるものでも音をしづめて靜ヒツである。松吹く風さへもこの時はシンとしたやうに思はれたが、その内に御行列がお過ぎになると、初めて松風が元に還つて音を立てたといふ意味なのである。

◎この句は山陽が感服したやうに、果して佳い句であるか何うか。尚それ人々の考へやうでいろいろだらうと思ふが、いづれにしても、俳句といふものを頭からバカにしてゐた最初の山陽の考へは間違つてゐたことだけはタシカである。

◎しかし、山陽時代の俳界はスツカリ墮落してゐて餘りロクなものゝなかつたことも肯定しなくてはならなかつたやうである。それから以後、正岡子規が新俳句を唱道するに到れるまで、しだいに墮落してきたことは、誰でも知つてゐる通りである。

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（毎月壹回一日發行）

大正十五年六月三十日印刷
大正十五年七月一日發行

大阪市東淀川區中津町一九八番地
發行兼編輯人 江村恒一

大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷人 大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング
發行所 日本建築協會

電話北四二九一番 振替口座大阪三九九七五

特約販賣店 大阪市西區京町堀羽子板橋北 柳々堂書店

電話（土佐堀二四四〇番） 振替口座二〇八四番



故會員　吉木久吉君之照肖

會員吉木久吉氏本年五月十日疾を以て逝く洵に惜悼に禁へす、茲に小歷と照肖とを掲け謹むて弔意を表す

氏は明治十五年八月二十四日福岡縣福岡市春吉町四百五拾七番地に生る、明治三十三年三月福岡縣立福岡工業學校建築科卒業、同年五月八幡製鐵所に奉職、同年十二月同所を辭職し福岡縣廳に奉職、明治三十七年五月同廳を辭職し歩兵第二十四聯隊に入隊、同年十月任陸軍歩兵少尉同年十一月叙正八位、同年十二月日露戰役從軍、明治三十八年十二月凱旋召集解除、明治三十九年三月長崎縣技手に任官同年四月叙勳六等授單光旭日章、明治四十一年三月依願免本官、同年四月辰野片岡建築事務所に就職、大正三年二月任陸軍歩兵中尉、大正九年十二月日本建築協會理事に當選同十一年十二月任期滿了、大正十三年一月より片岡建築事務所經營、前途爲すあるの志を懷き五月十日遽焉逝去す惜みても猶餘りあり、行年四十有五

會報

一、實費精算式施行聯合委員會に關する件

今回建築學會主催を以て日本建築士會建築業協會及本協會の四會聯合により實費精算式施工の標準契約書作成の爲委員會を組織することになりまして本協會は左の三氏に委員をお願ひすることに決し夫々御承諾を得ました

渡邊節氏
安井武雄氏
瀨戸文吾氏

一、會員逝去の件

地方會員齋藤久孝氏は四月十日逝去の趣通知に接しました洵に哀悼に堪へざる次第であります本協會は弔狀を贈り弔意を表しました

一、懸賞設計圖案展覽會紹介

大年四月號會誌會報欄に紹介致しました懸賞神奈川縣廳舍建築設計圖案審査結了に付左の通展覽會開催の趣通知がありました

大正十五年六月二十三日

神奈川縣廳舍建築事務所長

日本建築協會御中

豫而懸賞募集致し候本縣廳舍建築圖案審査結了候に付一般公開することゝ相成左記日程により展覽會開催致候條周知方御配慮相成度候

記

一、神奈川縣廳建築設計懸賞圖案展覽會

一、會　場　横濱市北仲通り國立生糸檢査所の一部

一、期　日　自大正十五年六月廿六日至同年七月一日六日間

一、開場時間　毎日午前九時より午後五時迄（入場無料）

會合

○定例理事會

△日　時　六月八日午後五時　十時

△會　場　本協會々議室

△出席者　小川理事、和田理事、澁谷理事、光安理事、池田谷理事、酒井理事、

△報　告　一、五月分會計報告

二、春季大會決算報告

△議　事　一、六月例會に關する件

六月例會準備に關し協議の上左の通決定

1時：六月十七日（木）午後六時開會

2所：大阪市中央公會堂中集會室

3順　序

A講演：セメント試験新規程制定に關する改正の理由說明

日本ポルトラントセメント同業會當事者

B討議：前例會に引續き實費精算式施工契約及同規定草案に就て

C報告　會務報告

二、大阪府より照會に係る『ポートラント、セメント』及『高爐セメント』規格統一ニ關する件

本件は構造計算調査委員會に附託して調査研究したる後回答することに決定

三、社團法人設立申請に要する委任狀蒐集に關する件

先般來委任狀蒐集中の處今日迄に未到着一五一名あるを以て再三催促の上早く蒐集を終る方法を講ずることに決す

四、實費精算式施工標準契約書調査聯合委員會組織に付本會委員氏名回答の件

右回答案審議の上可決尙建築協會關西支部へ同會委員氏名を問合すこと

五、本年春季大會委員に對する謝狀の件

春季大會終了に付該會委員に對する禮狀案可決し尙各委員に記念撮影の寫眞一葉宛贈呈することに決す

六、其他左の諸件に付協議決定す

1机、椅子等破損に付修繕に關する件

2北京圖書館へ雜誌其他刊行物寄贈の件

3退會者に退會承諾通知發送の件

4廣告勸誘員に關する件

5職員に對する上半期賞與に關する件

6會員逝去

○構造計算調査委員會

△日　時　六月九日午後六時—八時三十分

△會　場　本協會々議室

△出席者　委員　今林彦太郎、池田宮彦、黒田茂、青柳貞世、酒井勇三郎、塘路惣吉、永澤毅一

△記　事　一、今回大阪府工務課より本協會に對し『ポートラントセメント』及高爐セメント規格統一に付別紙（略）の如く意見照會ありたるを以て昨八日理事會の決議として本委員會に

右調査方附託されし旨酒井委員より説明あり依つて協議の上異議なく受託調査のことに決し取り敢へず大體に付ての回答案を作製し大阪府へ回答し置き尚詳細は調査の後具體的回答をなすことに決す

一、セメント試驗成績表に付て平均價算出其他に關し池田委員擔當して調査することに決定

一、各國セメント試驗方法比較表ヲ各委員に配付し尚之れが飜譯を大野委員、渡邊委員に願ひ今林委員より依頼することに決定

一、大阪府工務課より照會の「ポートラントセメント」及高爐セメント規格統一に關する書類は左の委員に送付し各自調査を願ふことに決定

増田委員長、田邊委員、今林委員、酒井委員、鹽路委員

一、右は何れも次回委員會迄に調査し協議研究することとし其他に付て意見の交換をなし散會す

○臨時理事會

△日　時　六月十七日午後四時三十分―六時

△會　場　大阪市中央公會堂大洋軒東別室

△出席者　小川理事、澁谷理事、須川理事、光安理事、池田谷理事、八木理事、酒井理事、

△議　事　一、左の諸件に付協議決定せり

1 講演者に對する謝禮の件
2 通知例文案に關する件
3 量器購入の件
4 椅子及机修繕に關する件
5 會員銓衡

○例　會

△日　時　六月十七日午後六時四十分―十時

△會　場　大阪市中央公會堂中集會室

△出席者

會員並賛助員

生野彌三郎　池田　宮彦　羽原　德衛
朝水國次郎　大澤　幸平　岡本新次郎
片山　萬治　横濱　勉　高橋　君三
田中　光治　田邊　平學　中川　彌八
山中　茂一　福澤　谷藏　兒玉廣太郎
小島　淳吉　左谷米三郎　篠原　太郎
森本　藤吉　野村　理一　田中　寛造
木原　駒作　川野　平造　林田瀧次郎
石井　久雄　鹿村　萬吉

役　員

池田谷久吉　小川安一郎　光安梶之助
須川厳太郎　澁谷　五郎　八木幸次郎
酒井勇三郎（次第不同）

記事　一、本夕園部理事長病氣の爲欠席に付小川理事代理となり開會を宣し直に講演に先ち報告をなす旨を述べて會務報告をなす

一、右了つて同理事は大阪窯業株式會社常務取締役谷口德政氏及日本ポルトラントセメント同業會專務理事小林周吉氏を紹介し講演に入る

谷口德政氏はセメント規格統一改正に關し標準砂其他の參考品を多數提示して二時間餘に渉る講話をなす

一、講演後光安氏其他三、四氏の質問應答あり小林周吉氏の講演は時間の都合により見合すことになしたり

一、是に於て小川理事は會員を代表して一場の謝辭並今後構造計算委員會に對する希望を述べ一同拍子を以て謝意を表し閉會を告げたり

○新入會々員及賛助員

會員の部

長妻　正道君　東成區片江町四三九
飯田　賢次君　港區六條通一ノ四
角埴　秀雄君　東淀川區中津南町四〇九ノ五
阪本　好久君　南區日本橋筋五ノ一八
岩井　金雄君　港區古川町二二
地方會員の部
渡邊　淺郎君　市京市牛込區早稻田南町一一
名古屋市中區御器所町北丸屋一〇八　入山方
島武　賴三君　名古屋市東區撞木町一三
若松茂太郎君　北海道渡島國上磯郡上磯町飯生町一一四
寺田　勇一君　東京府北豊島郡長崎村荒井一八六二
賛助員の部
澤田　喜平君　三重縣神戸町北新町四五八
佐藤　良清東　京市麹町區丸ノ内ビル櫻井小太郎建築事務所
緒方　清一君　山口縣厚狹郡厚狹町不動寺原
佐藤　武夫君　東京市牛込區若松町一三七
福島　雅男君　東京府荏原郡平塚村中延大原北一、一〇一
平井留次郎君　東成區大今里町三八七
野口　修二君　澁區市岡町五五八ノ六
吉崎源二郎君　港區市岡町三六〇

○退會者

會員の部

青澤　浩君　植賀宗　郎君

地方會員の部

島本　四郎君　小林利助君

普通贊助員の部

高橋米三郎君、金崎敏雄君、吉岡富藏君、江崎與太郎君、田中宅治郎君、天野博秀君、巨勢利雄君、清水隼人君、辰島清法君、半田芳男君、上田林吉君、野村勇君、西村信一君

○死亡

地方會員　齊藤久孝氏
大正十五年四月十日逝去

○住所及勤務先移動

會員の部

中谷　榮藏君　北區澤上江町一ノ七一

大谷　龍雄君　東成區鶴橋天王寺町五八一四

中村吉太郎君　兵庫縣武庫郡西灘村上野三九三

西村辰次郎君　府下豐能郡豐中新屋敷

和田光次郎君　兵庫縣警察部保安課

前田齟之助君　東區京橋三ノ三　前田建築事務所

船本　晉君　滋賀縣石山村北大路　東洋レーヨン會社建築場大林組出張所

木村　寛一君　東區小橋元町一二一

地方會員の部

中村　庸二君　東京府下千駄谷町原宿一七〇ノ八

重本政次郎君　橫須賀市汐留二一下士官集會所構內大林組出張所

戚清　卯三君　東京府下大井町坂下二七九三

高木　與吉君　北區中之島一丁目江商ビル建築場大林組出張所

藤本賢太郎君　尼ケ崎市大洲住友伸銅所尼ケ崎鋼管工場新築場清水組出張所

普通贊助員の部

佐藤　正樹君　東京市麹町區永樂町郵船ビル竹中工務店東京支店

間瀨　禎三君　京都市高倉通佛光寺北入西前町三七四

役員及職員

會頭　片岡　安

副會頭　宗　兵藏

理事長理事園部　文雄

主記理事　和田貞治郎

同　理事　小川安一郎

主計理事　澁谷　五郎

同　理事　須川廉太郎

編輯理事　古塚　正治

同　理事　光安梶之助

同　理事　池田谷久吉

同　理事　八木幸次郎

同　理事　酒井勇三郎

編輯係

江村　郊郵

薦田夏治郎

庶務係

西谷　節

靈取　陽

會計係

大和　榮衛

山口　スエ

會員	四〇五	會員（地方）	二〇一
名譽贊助員	七〇	終身贊助員	五三
特別贊助員	二七	普通贊助員	四八九
合計（六月二十日現在）			一二四五

●第九集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
大野正営業所
浅野スレート
日本スレート販売大阪支店
日本化学産業
東洋コルク工業
伊丹商店大阪出張所
カール・ツアイス
道下石材店
大阪ビトロライト工事
南満鉱業
浅野物産
ベニス工房
中松組
米本商店
田村商会
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
KENSEISHOKAI
玲光社

鈴鹿工務所
原田商会
日本セメント防水剤製造所
岡本好文園
木下謹三商店
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
大阪陶業
浅海商店
山本東作商店
桐田商会
阿部鉄工所
日本工剤
岡田建築材料店
日本建築紙工
島田硝子製造所
日本ペイント製造
穴原商会大阪支店
中村グラニット商会
三菱造船神戸造船所
シーベル・ヘグナー商会
政正

奥村重兵衛商店
大林組
大東塗料
佐久間建材工業所
渡辺久雄商店
森川組
宮田鉄工所
大福海上火災保険
伊奈製陶
HANKEN SEISAKUSYO
三井物産
小野田セメント製造
永柳商店
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所

横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
遠藤、南建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組

久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大阪耐火リノリウム
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
山本窯業商店

常盤貿易商会
高島屋呉服店
日米建築資料社
河村青写真調製所
デウエット商会
田中昌司商店
大阪鉄扉製作所
萩原煖房工務所
梅原組
平岡襖紙店
東洋リノリューム
田中源太郎商店
建築金物商会